

WIRELESS ACCESS POINT AP-110B

1. 取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本書のほかにPDF形式で、取扱説明書と補足説明書を付属のCD-ROMに収めています。最初にPDF形式の取扱説明書からご覧ください。本製品をさらに詳しく設定してお使いになるときは、PDF形式の補足説明書を併せてご覧ください。
(☞0-0章)表記は、PDF形式の取扱説明書を参照してください。

2. パッケージの内容

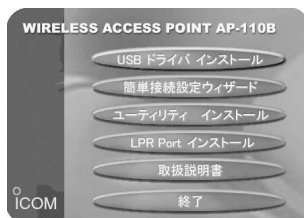
本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。

- AP-110B 1台
- 本体固定用金具 1式
- ACアダプター 1個
- Ethernetケーブル(3m) [LAN]ポート接続用 1本
- USBケーブル(1m) [USB]ポート接続用 1本
- フェライトコア(電波障害対策用) 1個
- 結束バンド(フェライトコア固定用) 1本
- 無線LANカード(本製品装着用) 1枚
- CD-ROM(UTILITYディスク) 1枚
- ユーザーサポート用 愛用者カード 1枚
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

不足しているものがありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係りまでお問い合わせください。

3. 付属CD-ROMの使いかた

本製品に付属のCD-ROMは、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にソフトウェアを準備するためのメニュー画面を表示(Auto Run)するようになっています。



お使いのパソコンに[Acrobat Reader]がインストールされていないときは、メニュー画面の 取扱説明書 ボタンからインストールしてください。

PDF形式の取扱説明書と補足説明書は、必要に応じてお使いのプリンターで出力してご使用ください。

【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

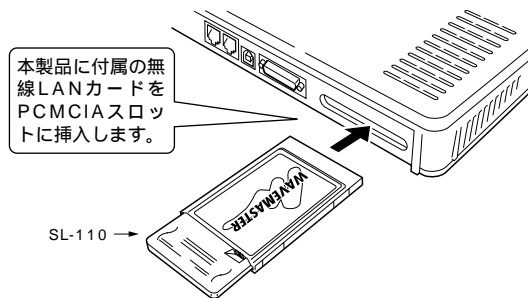
このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、ブロードバンド対応で無線LAN機能を備えたワイヤレスアクセスポイントです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

4. 無線LANカードの装着

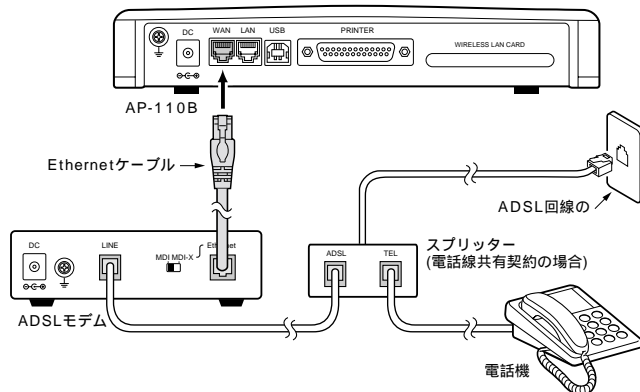
詳しくは、PDF形式の取扱説明書(☞1-4章)をご覧ください。



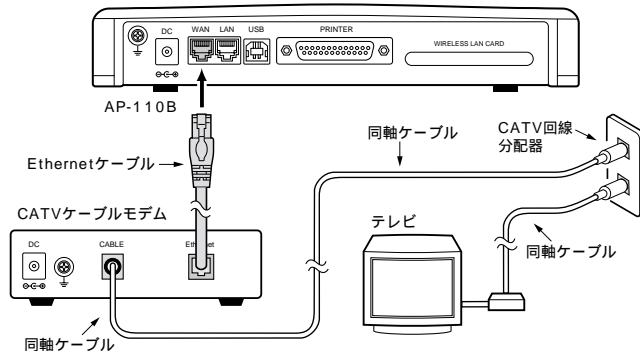
5. モデムの接続

詳しくは、PDF形式の取扱説明書(☞2-1章)をご覧ください。

ADSLインターネットの場合



CATVインターネットの場合

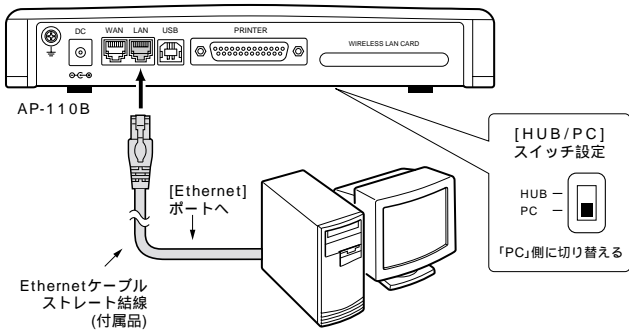


【Auto Run機能が動作しないときは？】
OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

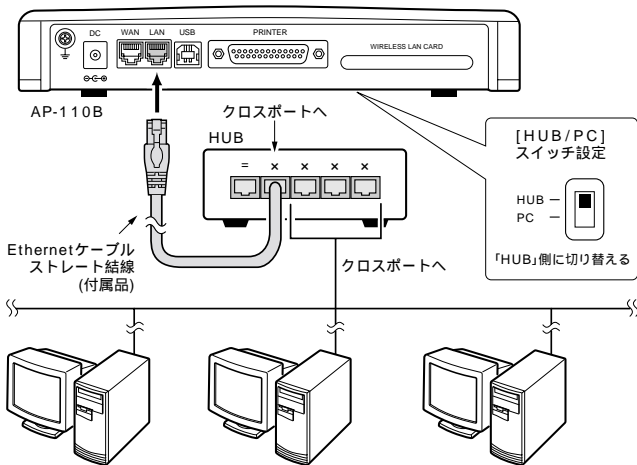
6.[LAN]ポートへのパソコンの接続

詳しくは、PDF形式の取扱説明書(⇒2-2章)をご覧ください。

1台のパソコンを接続する場合



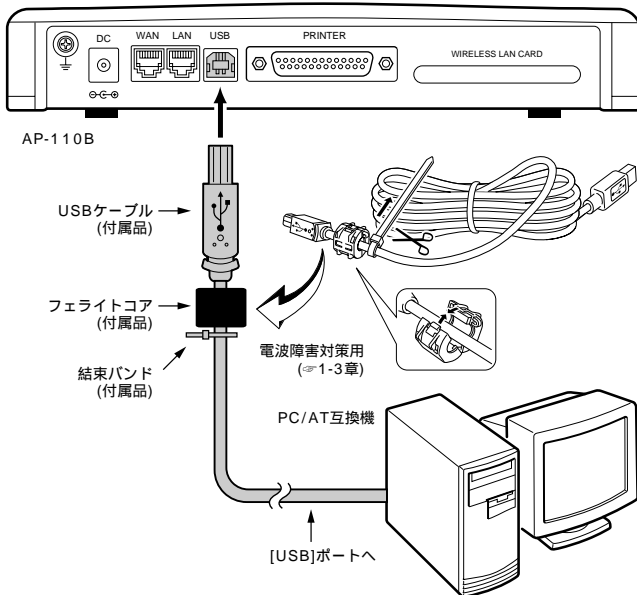
2台以上のパソコンを接続する場合



7.[USB]ポートへのパソコンの接続

接続の前に、Auto Runで表示されるメニューから、USBドライバーのインストール(⇒3-3章)が必要です。

接続について詳しくは、(⇒2-3章)をご覧ください。

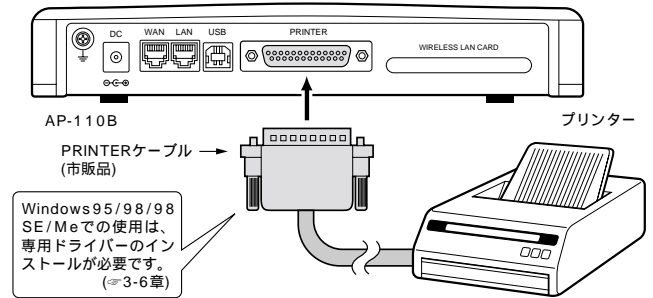


8.プリンターの接続

Windows用のプリントサーバとして使用できます。

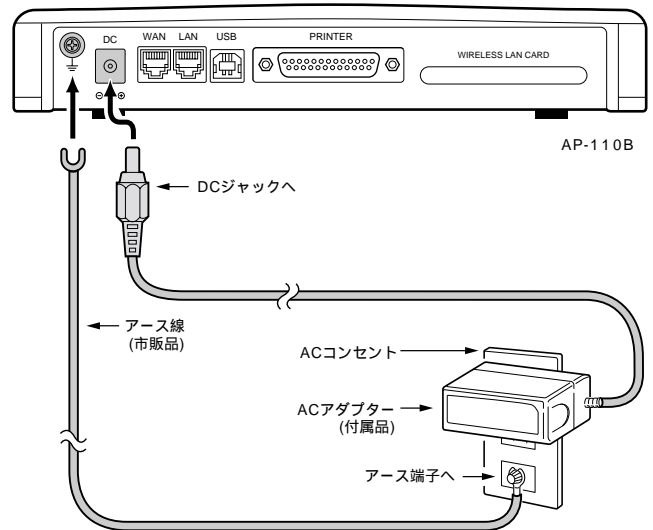
Windows2000以外のOSでご使用のパソコンには、接続の前に、Auto Runで表示されるメニューから、LPR Portソフトウェアのインストール(⇒3-6章)が必要です。

接続について詳しくは、(⇒2-4章)をご覧ください。



9.アース線と電源の接続

詳しくは、PDF形式の取扱説明書(⇒2-5章)をご覧ください。



10.本製品の設定

[TCP/IP]が設定(⇒3章)されたパソコンに、本製品からIPアドレスを取得できていれば、本製品の「簡単設定ソフト」(⇒4章)のウィザードにしたがって設定するか、設定画面(⇒5章)にアクセス「http://192.168.0.1」して設定します。

設定は、Ethernet、USB、無線LANで接続するどのパソコンからでも行えます。

アイコム株式会社

本社 547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32
 北海道営業所 060-0041 札幌市中央区大通東9-14 TEL 011-251-3888
 仙台営業所 983-0857 仙台市宮城野区東十番丁54-1 TEL 022-298-6211
 東京営業所 130-0021 東京都墨田区緑1-22-14 TEL 03-5600-0331
 名古屋営業所 466-0015 名古屋市昭和区御所通2-24 TEL 052-842-2288

大阪営業所 547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-6-19 TEL 06-6793-0331
 広島営業所 733-0842 広島市西区井口3-1-1 TEL 082-501-4321
 四国営業所 760-0071 高松市藤塚町3-19-43 TEL 087-835-3723
 九州営業所 815-0032 福岡市南区塩原4-5-48 TEL 092-541-0211

高品質がテーマです。

取扱説明書



WIRELESS ACCESS POINT AP-110B

本書は、最初にお読みください。
本製品を使うための基本的な内容について説明しています。
そのほかにも、各設定項目などを説明する補足説明書を収録
していますので、必要に応じてご覧ください。



- 1 ご使用になる前に
- 2 接続のしかた
- 3 パソコンを設定する
- 4 簡単設定ソフトで設定する
- 5 WWWブラウザで設定する
- 6 インターネットにつなぐ
- 7 無線LANを構築する
- 8 保守について
- 9 ご参考に

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、ブロードバンド対応で無線LAN機能を備えたワイヤレスアクセスポイントです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、iCOM は、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

標準構成

不足しているものがありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。
本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。

AP-110B	1台
本体固定用金具	1式
ACアダプター	1個
Ethernetケーブル(3m) [LAN]ポート接続用	1本
USBケーブル(1m) [USB]ポート接続用	1本
フェライトコア(必ず装着してください。☞1-3章).....	1個
結束バンド(フェライトコア固定用☞1-3章).....	1本
無線LANカード(本製品装着用)	1枚
CD-ROM(UTILITYディスク)	1枚
ユーザーサポート用愛用者カード	1枚
取扱説明書(本書)	
保証書	

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ずご返送ください。
ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

はじめに

本製品の概要について

xDSL、CATV接続などのWAN回線に対応

PPPoEプロトコルに対応していますので、フレッツ・ADSLなど、PPPoE対応プロバイダーも利用できます。

本製品の設定は、すべてWWWブラウザから行えます。

NAT/IPマスカレード機能を搭載していますので、1つの契約で複数台のパソコンがご使用になれます。

本製品に付属する無線LANカードを本製品に装着すると、無線アクセスポイント(ローミングを含む)機能を使って通信できます。

プリンターポートを装備していますので、Windows用のプリンターサーバーとしてご使用になれます。(プリンター接続用のパソコンが不要になります。)

MACアドレス登録、さらにWEP機能による暗号化処理など、高度な無線LANセキュリティ機能を搭載しています。

[USB]ポートを装備していますので、パソコンに[USB]ポートが装備されていれば、本製品の[Ethernet]ポートに接続されたパソコンと同じネットワークに接続できます。

フィルター機能を搭載していますので、IPアドレス、ポート番号によるアクセス制限ができます。

電波状態が不安定な場所では、無線LANカード専用分離式アンテナ(弊社別売品)を接続することで、安定した電波状態での通信が可能になります。

WAN側には、100BASE-TXを採用しています。

取り扱い上のご注意

動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクタをしっかりと接続して、動作中は、コネクタの接続部に触れないでください。

モデムおよびパソコンやその他の周辺機器の取扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。

本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。

本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。

本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

本製品に装着する専用の無線LANカードは、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。したがって、本製品で使用するときに無線局の免許は必要ありません。

本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。

本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。

心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないください。

心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

本製品に装着する専用無線LANカードは、電波法に基づく認証を受けていますので、以下の事項を行なうと法律で罰せられることがあります。

本製品を分解 / 改造すること

無線LANカード裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

本製品に装着する無線LANカードは、電気通信端末機器の適合認定を受けた弊社製品でご使用になれます。

弊社製無線LANカードには、右図のような技適証明マークと技適証明番号および認定番号が印刷されたシールが貼られていることを確認してからご使用ください。



T xxx-xxxxxx
R xxx-xxxxxx

無線LANをご使用になるときは、次ページの「無線LANの電波干渉についてのご注意」も併せてお読みください。

無線LANの電波干渉についてのご注意

本製品の通信チャンネルの設定を「14」以外に設定して、無線通信を行うときは、次のことがらに注意してご使用ください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。

その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サービス課 06-6792-4949

表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

- 「 」表記オペレーションシステム(OS)、ユーティリティ、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「 」)で囲んで表記します。
- []表記タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([])で囲んで表記します。
 - 表記ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を()で囲んで表記します。

Windows98 Second Editionは、Windows98 SEと表記します。

Windows Millennium Editionは、Windows Meと表記します。

本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

もくじ

はじめに	i
もくじ	vii
安全上のご注意(必ずお読みください)	ix
1. ご使用になる前に	1
1-1. 前面/後面パネル	2
1-2. 底面パネル	4
1-3. フェライトコアの装着	5
1-4. 無線LANカードの装着	5
1-5. 無線LANカードについて	6
1-6. 設置場所について	6
1-7. 設置方法	7
1-8. 分離式アンテナの取り付け(別売品)	9
1-9. プロバイダーとの契約について	10
2. 接続のしかた	11
2-1. [WAN]ポートへのモデム接続	12
2-2. [LAN]ポートへのパソコン接続	13
2-3. [USB]ポートへのパソコン接続	14
2-4. プリンターの接続	15
2-5. アース線と電源の接続	15
2-6. 既存のLANに接続する前に	16
3. パソコンを設定する	17
3-1. Ethernetで接続する	18
3-2. 無線LANで接続する	24
3-3. USBで接続する	30
3-4. WWWブラウザを用意する	35
3-5. 割り当てられたIPアドレスを確認する	36
3-6. プリンターを使うには	40
4. 簡単設定ソフトで設定する	57
4-1. 本製品とパソコンの電源を入れる	58
4-2. 簡単設定ソフトを起動する	58
4-3. 設定をはじめると	59
5. WWWブラウザで設定する	63
5-1. 本製品とパソコンの電源を入れる	64
5-2. 設定画面を呼び出す	64
5-3. 本製品の時計を設定する	66
5-4. 無線LANを設定する	67
5-5. 分離式アンテナの設定(別売品)	69
5-6. インターネットに[PPPoE]方式で接続する	70
5-7. インターネットに[DHCP]方式で接続する	71
.....	次ページへつづく

5-8.本体IPアドレスを変更するには	73
5-9.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには	74
6. インターネットにつなぐ	75
6-1.インターネット接続を開始する	76
6-2.インターネット接続を終了する	78
7. 無線LANを構築する	81
7-1.アクセスポイント機能を使う	82
7-2.ローミング機能を使う	83
8. 保守について	85
8-1.付属のCD-ROMについて	86
8-2.ユーティリティのインストール	87
8-3.アンインストールについて	89
8-4.設定画面へのアクセスを制限するには	90
8-5.設定内容の確認または保存	91
8-6.保存された設定の書き込み	92
8-7.設定を出荷時の状態に戻す	93
8-8.本製品をバージョンアップする	97
8-9.本体MACアドレスの確認方法	100
8-10.故障のときは	100
9. ご参考に	101
9-1.設定画面の構成について	102
9-2.設定項目の初期値一覧	103
9-3.機能一覧	104
9-4.各種ポート仕様	104
9-5.定格	105
9-6.用語解説	107

安全上のご注意

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ WIRELESS ACCESS POINT について



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

付属品のACアダプター以外は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。指定以外の付属品、および別売品は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。DCジャック以外の端子に電源を接続しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

電源コードや接続ケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、設置してください。

感電、けがの原因になります。完全調整していますので、分解、改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

通気口をふさがないでください。

発熱などにより、火災、感電、故障の原因になります。

水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

設置する場合は、必ずアース線を接続してください。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。

火災、感電の原因になります。

万一、煙が出ている、変なおいがする、変な音がする、水などが入った場合は、使用を中止してください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐに、本製品に接続するACアダプターのプラグとその他のケーブル類を取り外してください。

煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

WIRELESS ACCESS POINT について(つづき)

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

屋外に設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。
強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。
近くに雷が発生したときは、ACアダプターを接続しているコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。
ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。
火災、感電の原因になることがあります。
結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、結露するおそれがありますのでご注意ください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
結露した場合、乾燥させるか、長い間同じ環境に置いたあと、ご使用ください。
長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するACアダプターを取り外してください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。
清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

安全上のご注意

■無線LANカードについて(付属品)

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

取り付けや取り外しは、必ず本製品の電源を切ってから行ってください。火災、感電、故障の原因になります。分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。火災、感電、故障の原因になります。取り付けや取り外し、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手の届かない場所で行ってください。けが、感電の原因になります。

本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。感電の原因になります。水や海水につけたり、ぬらさないでください。火災、感電、故障の原因になります。本製品のコネクタ一部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。火災、感電、故障の原因になります。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

PCMCIAスロットに差し込むときは、無線LANカードの裏と表をまちがえないように十分注意してください。故障の原因になることがあります。上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。故障の原因になることがあります。落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。けが、故障の原因になることがあります。湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災、感電、故障の原因になることがあります。テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

本製品を運用中に、無線LANカードを勝手に取り外さないでください。故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。故障の原因になることがあります。清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ ACアダプターについて(付属品)



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

その他の機器で使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

ACコードを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

火災、感電、故障の原因になります。

ACコードは、タコ足配線しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

ACコードを束ねて使わないでください。

発熱して、火災の原因になります。

ぬれた手でACプラグや機器に絶対触れないでください。

感電の原因になります。

ACプラグは、電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。

差し込みが不十分な場合、火災、感電の原因になります。

ACコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACコードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACプラグの金属部分、およびその周辺にホコリが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。

そのまま使うと、火災の原因になります。

ACコードが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

安全上のご注意

■ 分離式アンテナについて(別売品)



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

指定以外の機器で使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。本製品を使用中は、ぬれた手でアンテナに触れないでください。

感電の原因になります。

人の通行をさまたげる場所には、設置しないでください。

ケーブルにひっかかけたりして、けが、故障の原因になります。

アンテナケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、設置してください。

感電、けがの原因になります。

アンテナケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

アンテナの端をもって振り回さないでください。

本人や他人に当たって、けがや故障および、破損の原因になります。

水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

アンテナケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

火災、感電、故障の原因になります。

アンテナケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加工したり、熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

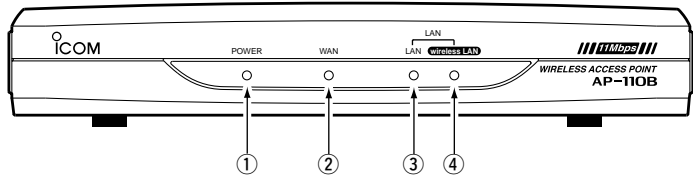
この章では、
本製品を使う前に必要な準備などを説明します。

1-1.前面/後面パネル	2
1-2.底面パネル	4
1-3.フェライトコアの装着	5
1-4.無線LANカードの装着	5
装着時のご注意	5
1-5.無線LANカードについて	6
1-6.設置場所について	6
1-7.設置方法	7
1.金具を本製品に固定する	7
2.本製品を固定する	7
1-8.分離式アンテナの取り付け(別売品)	9
1-9.プロバイダーとの契約について	10
「DHCP」方式に対応している場合	10
「PPPoE」方式に対応している場合	10
ご契約プロバイダーへの申請事項	10

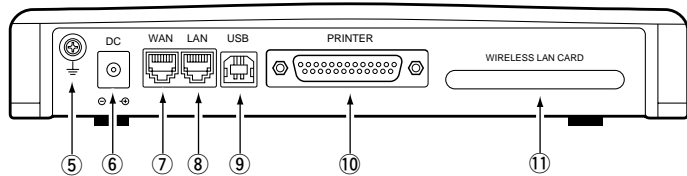
1 ご使用になる前に

1-1 前面/後面パネル

前面パネル



後面パネル



① [POWER]ランプ.....

点灯：本製品の電源ON時

[WAN]ランプと同時点滅：「設定初期化」モード動作

[WAN]ランプと交互点滅：「Utility使用」モード動作

高速点滅：メール着信機能設定時、電子メールがプロバイダーのメールサーバに届いたとき

② [WAN]ランプ

点灯：WAN側への接続が正常なとき

点滅：データを送受信しているとき

[POWER]ランプと同時点滅：「設定初期化」モード動作

[POWER]ランプと交互点滅：「Utility使用」モード動作

③ [LAN]ランプ

点灯：LAN側への接続が正常なとき

消灯：Ethernetケーブルが未接続のとき

点滅：データを送受信しているとき

USB接続では、機能しません。

④ wireless LAN ランプ...

点灯：本製品と無線接続を開始したとき

1～2分間、次の状態が続いたときは消灯します。

- すべての無線端末が無通信状態になったとき

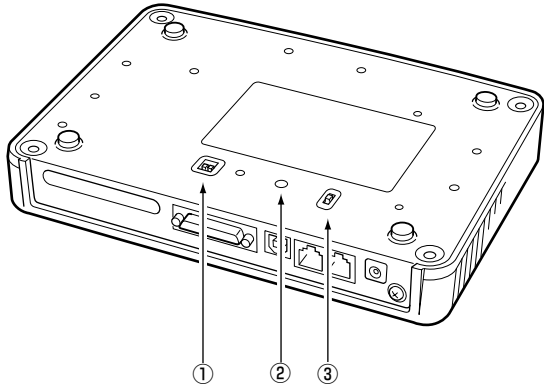
- すべての無線端末が無線伝送エリア外に移動したとき

PCMCIAスロットへの装着の有無を確認するランプではありませんのでご注意ください。

- ⑤ アース端子..... アース線を接続する端子です。
アース線は、市販のものをご用意ください。
- ⑥ DCジャック 本製品に付属のACアダプターを接続します。
- ⑦ [WAN]ポート WAN側のイーサネットポート(RJ-45型)です。
Ethernetケーブル(ストレート結線)を使って、ADSLモデムやCATVケーブルモデムの[Ethernet]ポートと接続します。
- ⑧ [LAN]ポート LAN側のイーサネットポート(RJ-45型)です。
Ethernetケーブル(ストレート結線)を使って、パソコンやHUBと接続します。
10BASE-T/100BASE-TXを接続されたHUBに合わせて、自動認識します。
100BASE-TX(高速有線LAN)通信を行うには、本製品に付属するようなカテゴリ-5以上のEthernetケーブルを使う必要があります。
カテゴリ-の低いものを同じLAN上に混用すると、一番低いグレードに全体のレベルが低下するので、ご注意ください。
- ⑨ [USB]ポート 付属品のUSBケーブルを使って、パソコンの[USB]ポートと接続します。
[LAN]ポートおよび無線で接続するパソコンと通信が行えます。
Macintoshには対応していません。
- ⑩ [PRINTER]ポート ... プリンター接続用のポート(D-Sub25pin)です。
Macintoshには対応していません。
- ⑪ PCMCIAスロット ... 本製品に付属の無線LANカードを挿入します。
無線LANカードの抜き差しは、本製品の電源を切った状態で行ってください。

1 ご使用になる前に

1-2 底面パネル



① ディップスイッチ.....

出荷時のスイッチの設定は、「ON」です。

通常は、出荷時の設定で使用します。

スイッチ番号1：電源投入時、「Utility使用」モードで起動する(OFF)/しない(ON)の切り替え

スイッチ番号2：電源投入時、「設定初期化」モードで起動する(OFF)/しない(ON)の切り替え

② RESET ボタン

ペン先などで短く押すと、本製品を再起動(電源投入直後の状態)します。

電源を入れなおすと、同じ状態です。

③ [HUB/PC]スイッチ

出荷時のスイッチの設定は、「PC」です。

[LAN]ポートの極性を反転させるスイッチです。

Ethernetケーブルの結線の違いや、接続するHUBのポートに応じて以下のように切り替えます。

「HUB」側：[LAN]ポート内部でストレート(記号：=)結線になります。

Ethernetケーブル(ストレート結線)を使って、HUBのクロスポート(記号：x)と接続する場合など

「PC」側：[LAN]ポート内部でクロス(記号：x)結線になります。

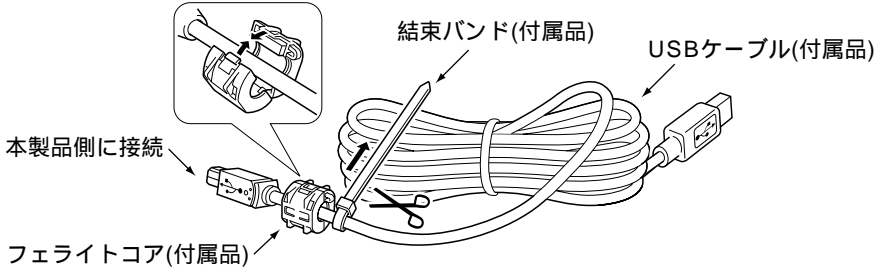
Ethernetケーブル(ストレート結線)を使って、HUBのストレートポート(記号：=)またはコンピューターのEthernetカード側のポート(記号：=)と接続する場合など

【ご参考に】

電源投入後、Ethernetケーブルで本製品をネットワークに接続するとき、[LAN]ランプが点灯しないときは、[HUB/PC]スイッチを切り替えてみてください。

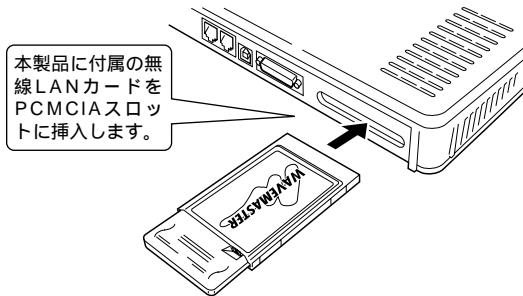
1-3 フェライトコアの装着

付属のUSBケーブルを本製品に接続するときは、付属のフェライトコアを図のように取り付けて、結束バンドで、プラグ(本機接続側)の端にしっかりと固定してください。プラグの端に固定しないと電波障害を引き起こすことがあります。



1-4 無線LANカードの装着

本製品の電源を切った状態で付属の無線LANカードを図のように装着してください。また、取り外すときも同様にして、カード部分を持って引き抜いてください。



装着時のご注意

本製品側に装着する無線LANカードは、必ず本製品に付属するものをご使用ください。弊社指定以外の無線LANカードの装着は、故障の原因になることがあります。

その場合の故障については、保証の範囲外となります。

本製品は、弊社製無線LAN製品(SL-110、SL-11、SL-1100、SL-1105、SU-11)を装着する無線端末と通信できます。(2001年8月現在)

無線LANカードの取り付けや取り外しは、本製品の電源が切れている状態で行ってください。

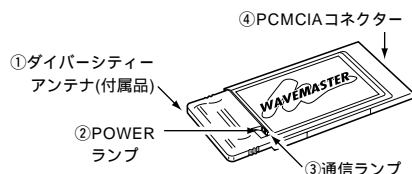
電源を入れた状態で行うと、故障の原因になることがあります。

本製品側の無線LANカードには、専用ドライバーを組み込む必要はありません。

本製品の無線LANカードの設定は、本製品のWWW設定画面にあります。

1 ご使用になる前に

1-5 無線LANカードについて



① ダイバーシティーアンテナ

本製品のアンテナが内蔵されています。
弊社別売品の分離式アンテナは、このアンテナを外してから接続します。

② POWERランプ

PCMCIAコネクタから電源が供給されているとき点灯します。

③ 通信ランプ

通信する相手に電波が届くと点灯します。通信相手が認識できなかったり、無線伝送エリア外に移動したりすると、点滅します。

④ PCMCIAコネクタ

本製品に装備されたPCMCIAスロットに接続する端子です。

金属片やゴミがコネクタに付着していないことを確認してから装着してください。

【伝送距離について】

本製品に付属の無線LANカードを使って通信を行う場合の見通し距離は、以下を目安にしてください。

屋内：約 50m 屋外：約 150m

- 付属アンテナでは電波状態が不安定な場合は、無線LANカード専用分離式アンテナ(弊社別売品)をご使用になると、安定した電波状態での通信が行えます。

1-6 設置場所について

無線アクセスポイントとしてご使用になる場合、設置場所に注意しないと通信範囲や速度に影響します。

このときの設置条件は、次のとおりです。

室内で、なるべく見通しの良い(高い)場所

振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所

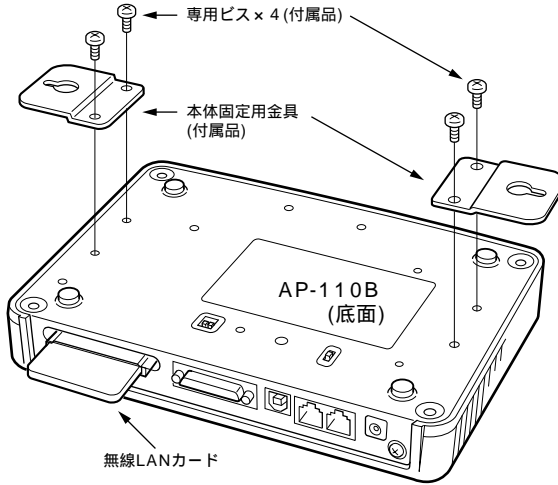
その他、以下のことを考慮して、設置してください。

- 本製品の上に物を置いたり、本製品どうしやほかの製品と重ねて置かない。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 床にはふつつ、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしても通信できません。

1-7 設置方法

本製品を壁面や棚などに固定するときは、次の図を参考に付属の固定用金具を取り付けてからご使用ください。

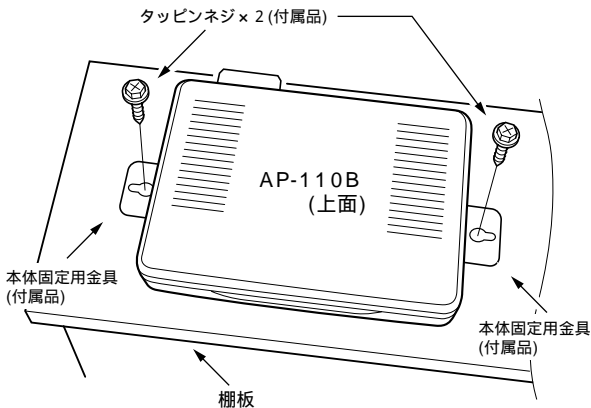
1. 金具を本製品に固定する



2. 本製品を固定する

棚の上に固定する場合

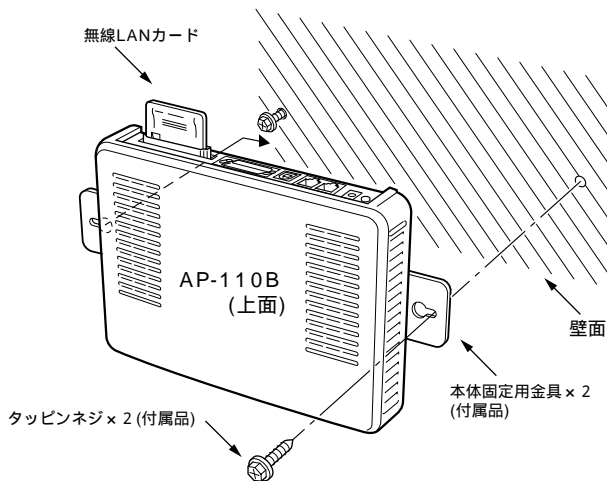
棚の上に置いた場合、本製品に接続されたACコードや接続ケーブルが、人体に触れるおそれがあるときは、落下防止のため、次の図のように、本体を付属の固定用金具で固定してください。



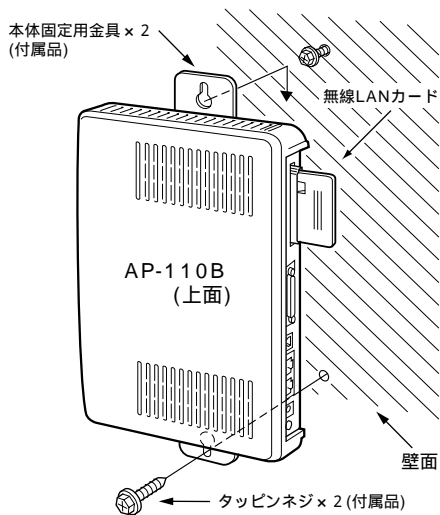
1 ご使用になる前に

1-7 設置方法[2.本製品を固定する](つづき)

壁面に、横向きにして固定する場合

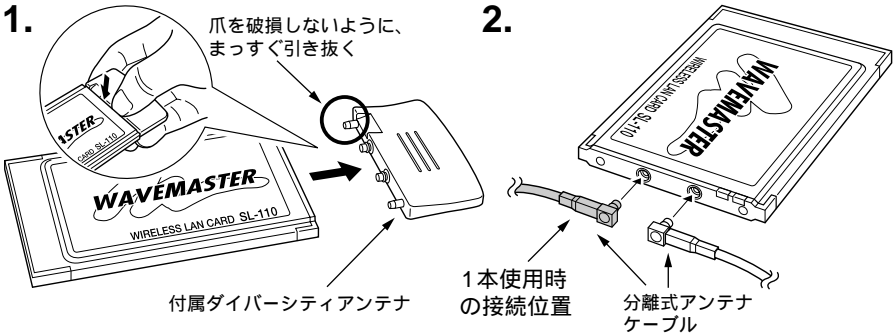


壁面に、縦向きにして固定する場合



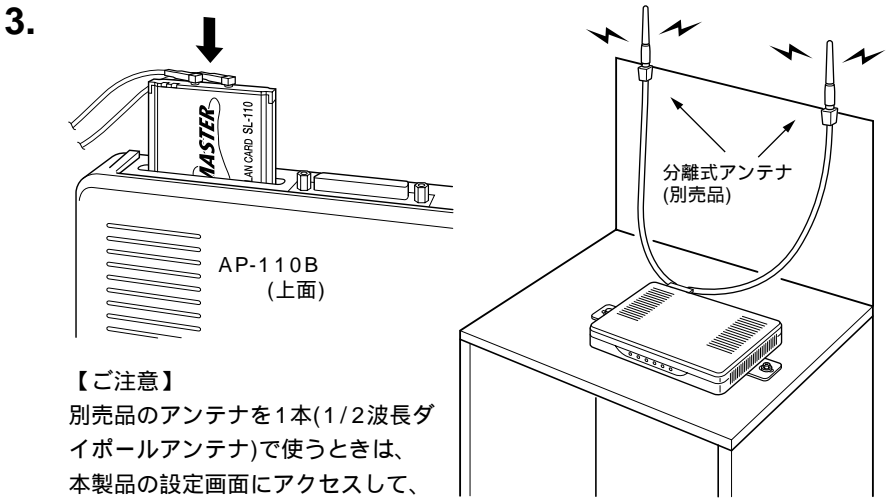
1-8 分離式アンテナの取り付け(別売品)

1. 付属のアンテナ部分を取り外します。
2. 用意した分離式アンテナのプラグをカード本体部分のコネクターに、“カチッ”と音がするまでしっかりと差し込みます。(1本または2本で使用可能)



【ご注意】
 アンテナ部分を持って、強引に引きはなさないでください。
 アンテナ部分を外すときは、カード本体とアンテナ部分の間を爪などで押し広げてから、アンテナ部分を持ってゆっくりとまっすぐに引き抜くようにしてください。
 まっすぐに引き抜かないと、プラスチック製の爪が曲がったり折れたりすることがあります。

3. 図のように本体に装着して、設置します。



【ご注意】
 別売品のアンテナを1本(1/2波長ダイポールアンテナ)で使うときは、本製品の設定画面にアクセスして、設定を変更(⇨5-5章)してください

1 ご使用になる前に

1-9 プロバイダーとの契約について

インターネットに接続するためには、プロバイダーとの契約が必要です。

ご契約のプロバイダーやサービスによって、接続方式(PPPoE、DHCP)が異なります。接続方式についてご不明な場合は、ご契約のプロバイダーやお買い上げの販売店などにご相談ください。

「DHCP」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「DHCP」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- IPアドレス(固定割り当ての指示がある場合)
- サブネットマスク(固定割り当ての指示がある場合)
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

「PPPoE」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「PPPoE」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- ログインユーザー名
- ログインパスワード
- [PPPoE]接続のサービス名(本製品では設定不要です。)
- IPアドレス(固定的に割り当てる方式の場合は必要です。)
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

ご契約プロバイダーへの申請事項

ご契約のプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、本製品を含めインターネット接続できる機器(パソコンなど)の事前申請が必要になります。

この場合、CATVインターネットではケーブルモデム、ADSLインターネットではADSLモデムに直接接続するネットワーク機器(パソコンなど)がそれぞれ独自に持っているMACアドレス(機器固有の番号)を、プロバイダーに対して事前申請する必要があります。そのときは、本製品のMACアドレスを通知してください。確認のしかたは、「本体MACアドレスの確認方法」(本書[※]8-9章)をご覧ください。

【ご注意】

MACアドレスの事前申請が必要なサービスをプロバイダーからお受けになるときは、プロバイダーへの申請および登録が完了するまで、本製品を利用したインターネットアクセスはできません。

この章では、ADSLモデムやCATVケーブルモデム、パソコンやプリンターを本製品に接続する方法を説明します。

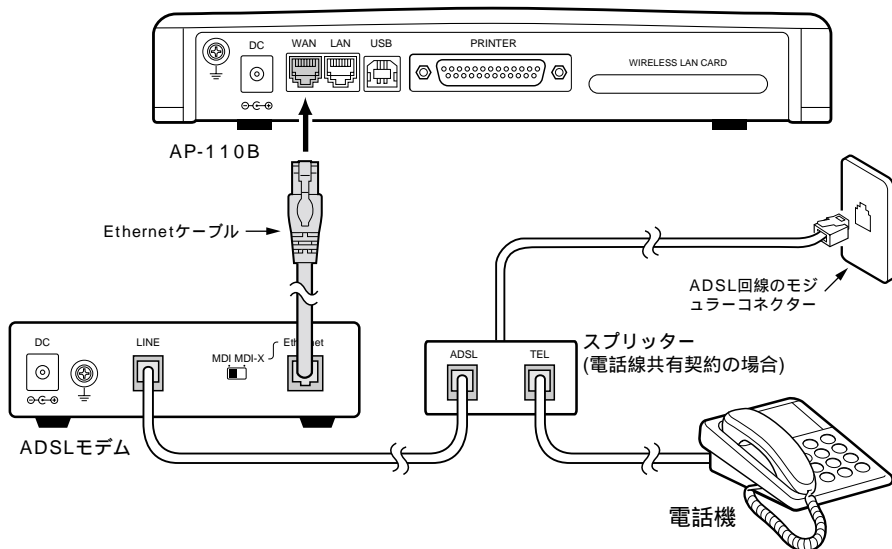
2-1.[WAN]ポートへのモデム接続	12
ADSLインターネットの場合	12
CATVインターネットの場合	12
2-2.[LAN]ポートへのパソコン接続	13
1台のパソコンを接続する場合	13
2台以上のパソコンを接続する場合	13
2-3.[USB]ポートへのパソコン接続	14
USB接続のご注意	14
2-4.プリンターの接続	15
2-5.アースと電源の接続	15
2-6.既存のLANに接続する前に	16
ネットワーク状況の確認	16
IPアドレスを設定する	16
既存のLANへの接続	16

2 接続のしかた

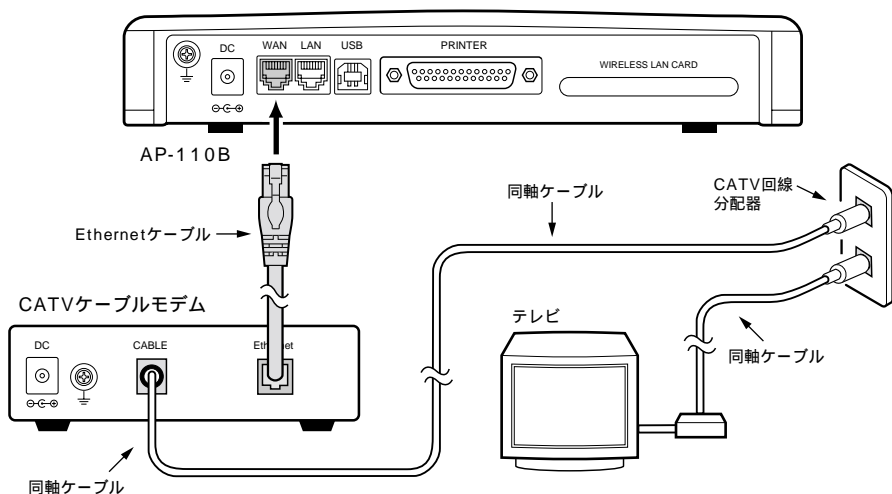
2-1 [WAN]ポートへのモデム接続

【△警告】接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

ADSLインターネットの場合



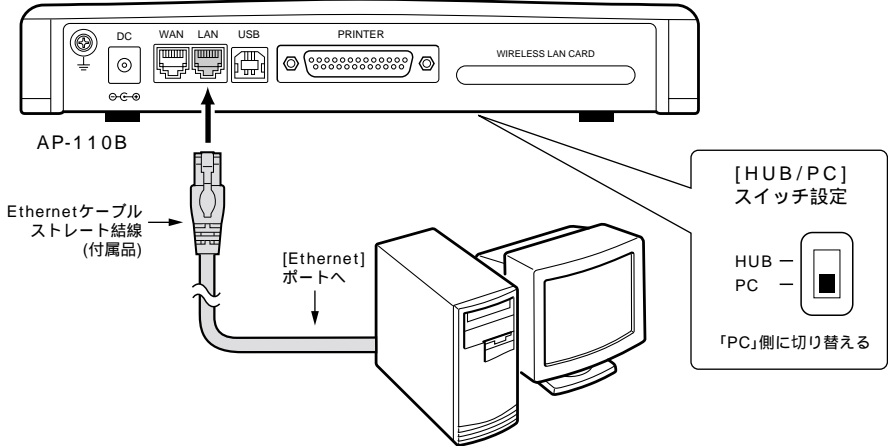
CATVインターネットの場合



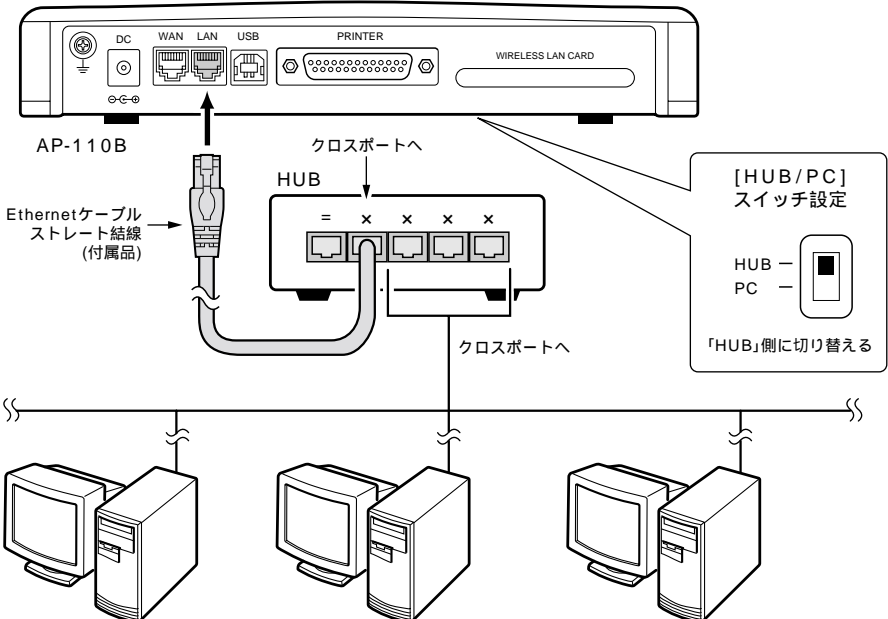
2-2 [LAN]ポートへのパソコン接続

【△警告】接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

1台のパソコンを接続する場合



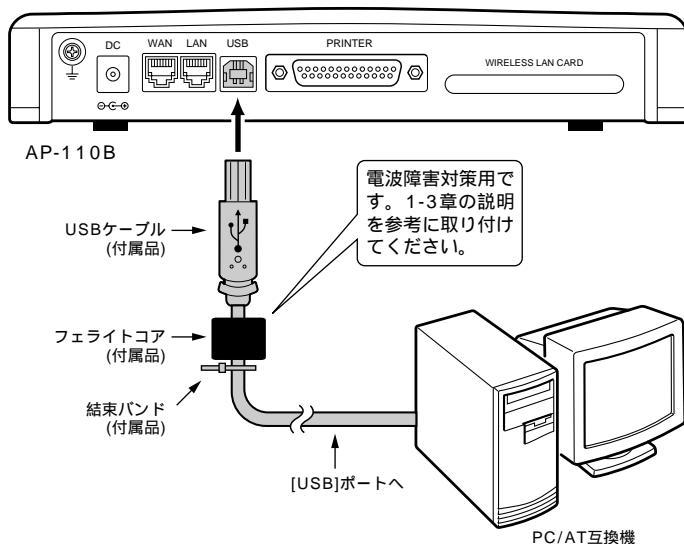
2台以上のパソコンを接続する場合



2 接続のしかた

2-3 [USB]ポートへのパソコン接続

本製品との接続を行う前に、「USBで接続する」(☞3-3章)の説明にしたがってUSBドライバーをインストールします。接続はこの内容を参考に、その途中でを行います。



USB接続のご注意

電波障害対策用として、本製品との接続に使用するUSBケーブルには、必ず付属のフェライトコアを装着してください。(☞1-3章)

MacintoshへのUSB接続には、対応していません。

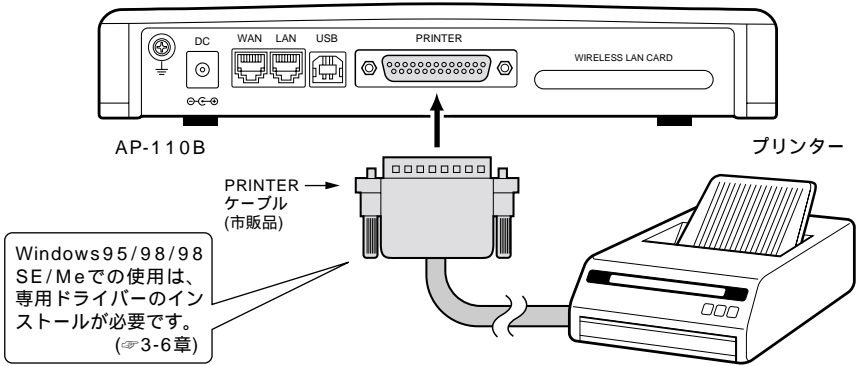
USBケーブルは、パソコンの[USB]ポートに直接接続してください。

USBケーブルを延長するときは、最長で5m以内になるようにしてください。5m以上になると、動作しないことがあります。

[USB]ポートに接続できるパソコンは、1台だけです。2台以上のパソコンを接続するときは、本製品の[LAN]ポートにHUBを接続してご使用ください。

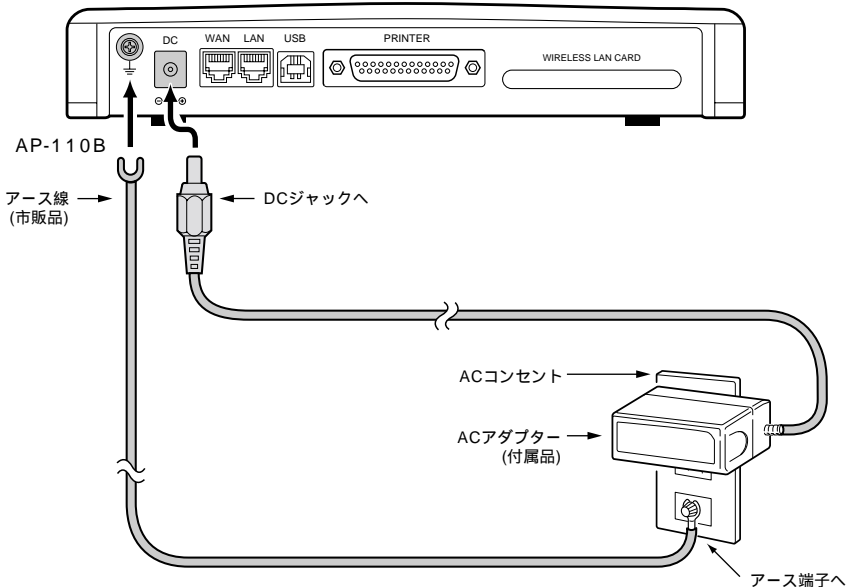
[USB]ポートに接続されたパソコンは、Ethernetまたは無線で本製品に接続されたネットワークに含まれます。

2-4 プリンターの接続



2-5 アース線と電源の接続

【△注意】
 アース線は、本製品に付属していません。市販品をご用意ください。
 本製品のアース端子は、必ず接続してください。落雷したときの電気的ショックをやわらげたり、感電やノイズの回り込みを防止できます。
 アース線は、必ずコンセントのアース端子につなぐか、市販のアース棒につないで地中に埋めてください。ガス管や水道管につながないでください。



2 接続のしかた

2-6 既存のLANに接続する前に

既存のLANに本製品を接続する場合は、あらかじめそのLANで取り決めたIPアドレスの割り当て方法にしたがって本製品のIPアドレスを割り当てておく必要があります。

【IPアドレスを固定で割り当てている場合】

空いているIPアドレスを本製品に割り当てる

本製品のIPアドレスについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞5-8章)をご覧ください。

【DHCPサーバ機能を利用している場合】

本製品のDHCPサーバ機能を使わないよう、本製品の設定を変更して、自動割り当て範囲外のIPアドレスを本製品に割り当てる

本製品のIPアドレスについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞5-8章)をご覧ください。

ネットワーク状況の確認

ネットワークを既存のLAN上に構築している場合は、次の点に注意してください。

【LAN上での各パソコンのIPアドレス】

TCP/IPでは、ネットワーク上の各ネットワーク機器(パソコンなど)のIPアドレスと本製品のIPアドレスが重複すると、本製品と各パソコンのあいだで通信が行えなくなります。また、ネットワーク全体にも影響がおよぶ可能性がありますので、注意してください。

既存のネットワーク上に「192.168.0.1」というIPアドレスを持つネットワーク機器があるときは、本製品を既存のLANに接続する前に、本製品の出荷時のIPアドレスを変更(☞5-8章)する必要があります。

各ネットワーク機器のIPアドレスなどを静的に割り当てる場合は、IPアドレスが重複しないように注意してください。また、動的に割り当てを行っている場合でも、DHCPサーバ機能で割り当てるIPアドレス範囲と本製品のIPアドレスが重複しないように設定を変更する必要があります。また、ブロードキャストアドレスは、ネットワーク上のすべて機器に割り当てることができませんので、注意してください。

IPアドレスを設定する

接続したいほかのネットワークとIPアドレスが重複するときは、設定を変更します。

設定のしかたについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞5-8章)をご覧ください。

既存のLANへの接続

「[LAN]ポートへのパソコン接続」(☞2-2章)の「2台以上のパソコンを接続する場合」を参考にしてください。

この章では、
本製品と通信を行うパソコンの設定について説明します。
必要に応じて、該当する箇所をお読みください。

3-1.Ethernetで接続する	18
本製品の[LAN]ポートと接続する	18
TCP/IPプロトコルの設定	
【Windows Meの場合】.....	18
【Windows 2000の場合】	21
【Mac OSの場合】	23
3-2.無線LANで接続する	24
無線LANカードを用意する	24
TCP/IPプロトコルの設定	
【Windows Meの場合】.....	24
【Windows 2000の場合】	27
無線LANカードを設定する	29
3-3.USBで接続する	30
USBドライバーのインストール	30
本製品の[USB]ポートと接続する	32
TCP/IPプロトコルの設定.....	32
本製品の[USB]ポートから取り外すには	33
3-4.WWWブラウザを用意する	35
3-5.割り当てられたIPアドレスを確認する	36
【Windows Meの場合】.....	36
【Windows 2000の場合】	37
【Mac OSの場合】	38
3-6.プリンターを使うには	40
Windows Meの場合	40
Windows 2000の場合	48

3 パソコンを設定する

3-1 Ethernetで接続する

Ethernetケーブルを[LAN]ポートに接続してパソコンと本製品をつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

ステップ1	本製品とパソコンの接続	13、18
ステップ2	TCP/IPを設定する	18
ステップ3	WWWブラウザを用意する	35
ステップ4	本製品から割り当てられたIPアドレスの確認	36

本製品の[LAN]ポートと接続する

モデムとの接続が終われば、2-2章の説明を参考に、本製品の[LAN]ポートとご使用のパソコンの[Ethernet]ポートをEthernetケーブルで接続します。

ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがないパソコンの場合は、市販のEthernetカードを取り付ける必要があります。

パソコンやEthernetカードに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。また、本製品とパソコンの接続は、無線LANやUSBを使って行うこともできます。

TCP/IPプロトコルの設定

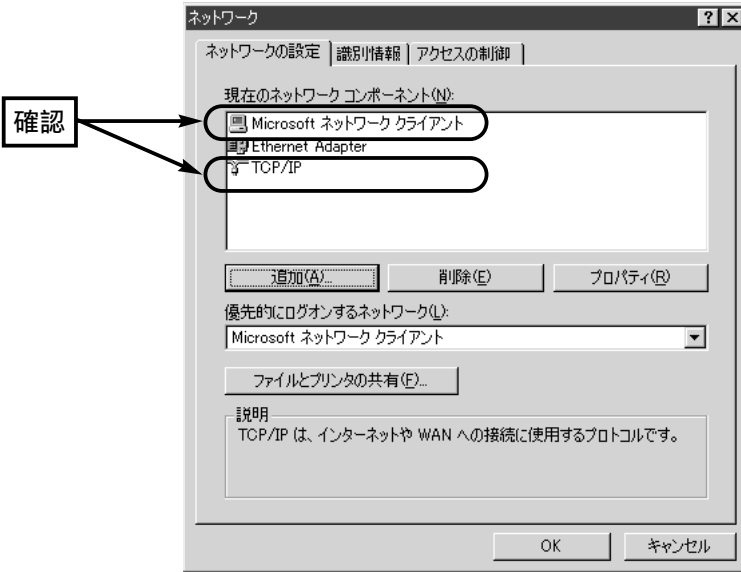
本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

ドライバーのインストールは、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書を参考に行ってください。

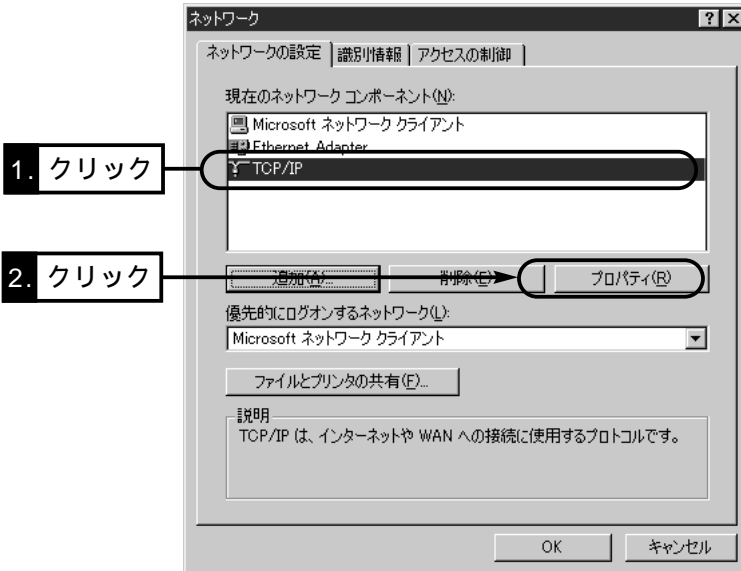
【Windows Meの場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP->ご使用のEthernetカードの名称」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書でご確認ください。

【Windows Meの場合】(手順2.つづき)



3.「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

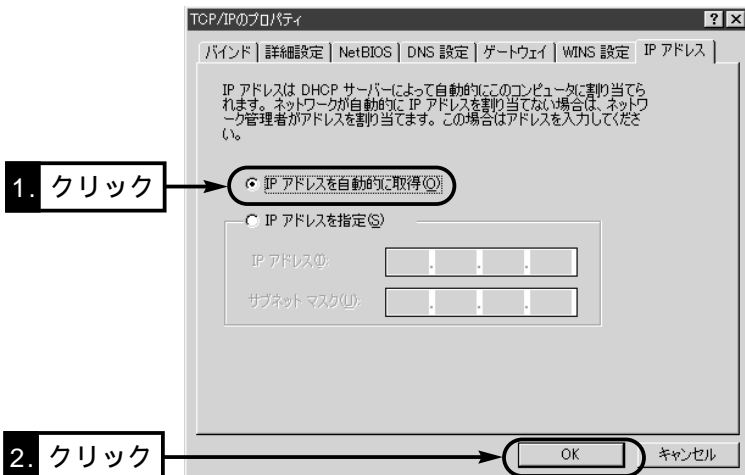


3 パソコンを設定する

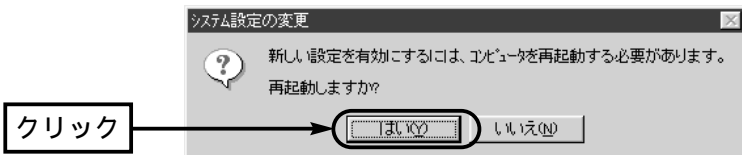
3-1 Ethernetで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows Meの場合】(つづき)

- 4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてから、OKをクリックします。



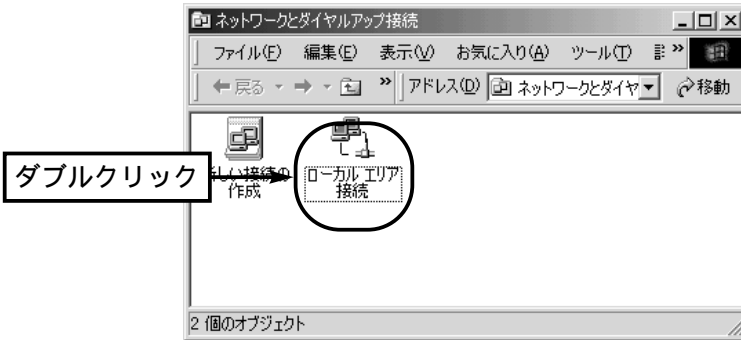
- 5.再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。



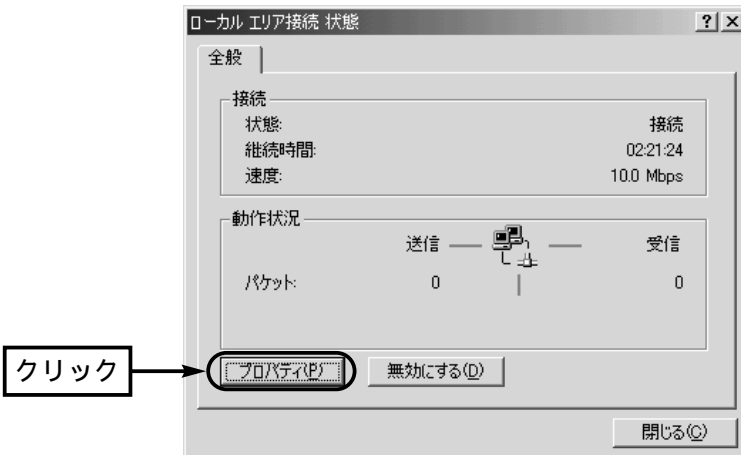
TCP/IPプロトコルの設定(つづき)

【Windows 2000の場合】

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
2. Administrator権限でログオンします。
3. パソコンが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続するEthernetカードの名称が表示された[ローカルエリア接続] アイコンの順番にマウスを操作します。



4. プロパティ(P) をクリックします。

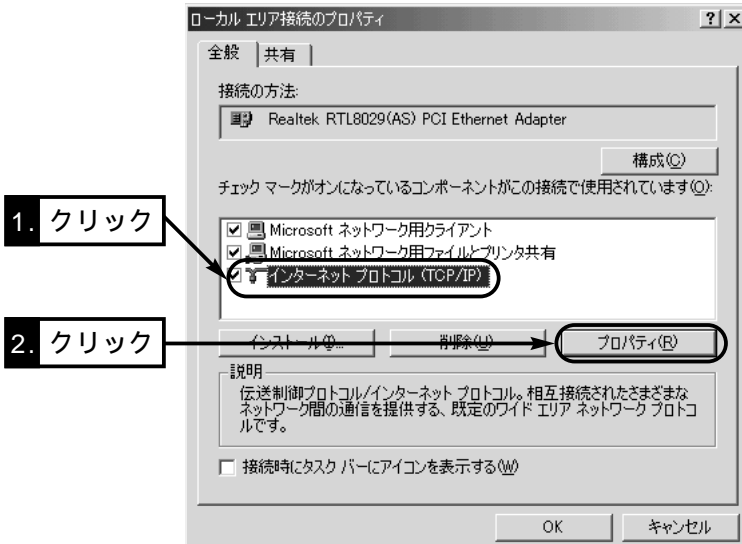


3 パソコンを設定する

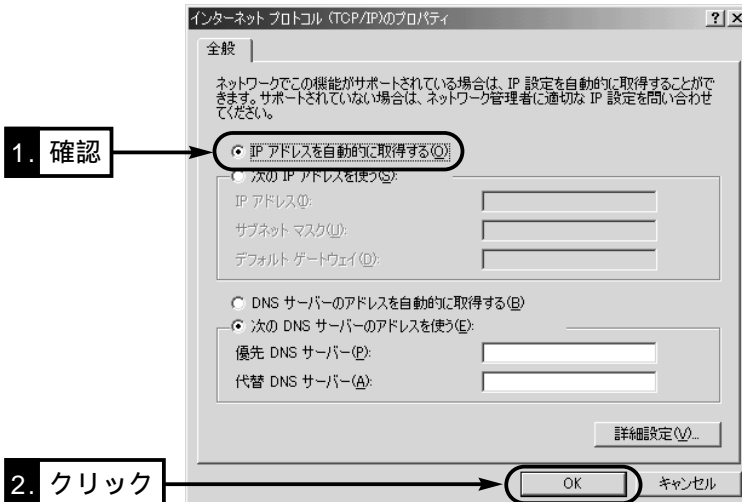
3-1 Ethernetで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows 2000の場合】(つづき)

- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

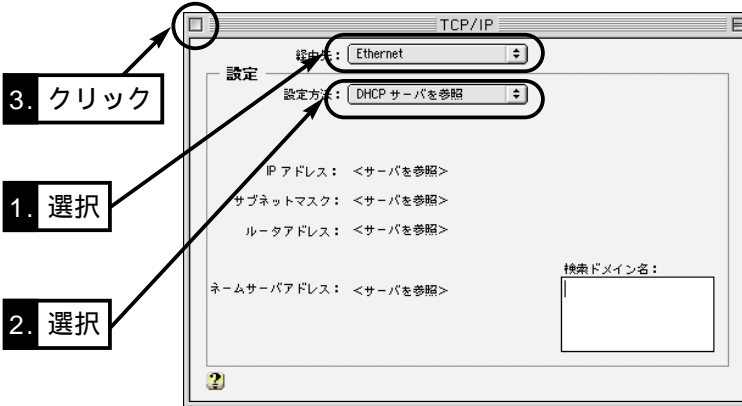


- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



【Mac OSの場合】

1. 設定に使うパソコンを起動します。
2. パソコンが起動したら、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。
3. [経由先]を「Ethernet」、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定します。
4. タイトルバー上のクローズボックスをクリックします。
 - 画面が閉じて、設定画面が保存されます。



3 パソコンを設定する

3-2 無線LANで接続する

パソコンを本製品に無線LANでつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

ステップ1	無線LANカードを用意する	5、6、24
ステップ2	TCP/IPを設定する	24
ステップ3	無線LANカードを設定する	29
ステップ4	WWWブラウザを用意する	35
ステップ5	本製品から割り当てられたIPアドレスの確認	36

無線LANカードを用意する

モデムとの接続が終われば、付属品の無線LANカードを本製品のPCMCIAスロットに装着します。本製品に無線で接続するパソコンには、弊社指定の無線LANカードが装着できることを確認してください。

PCMCIAスロットがないパソコンの場合は、無線LANカード用アダプター(弊社製)を取り付ける必要があります。

無線LANカード用アダプターに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。また、本製品とパソコンの接続は、EthernetやUSBを使って行うこともできます。

弊社製Wireless LAN UNIT(SU-11)をパソコンの[USB]ポートにつないでご使用いただく、本製品と無線LANによる通信が行えます。

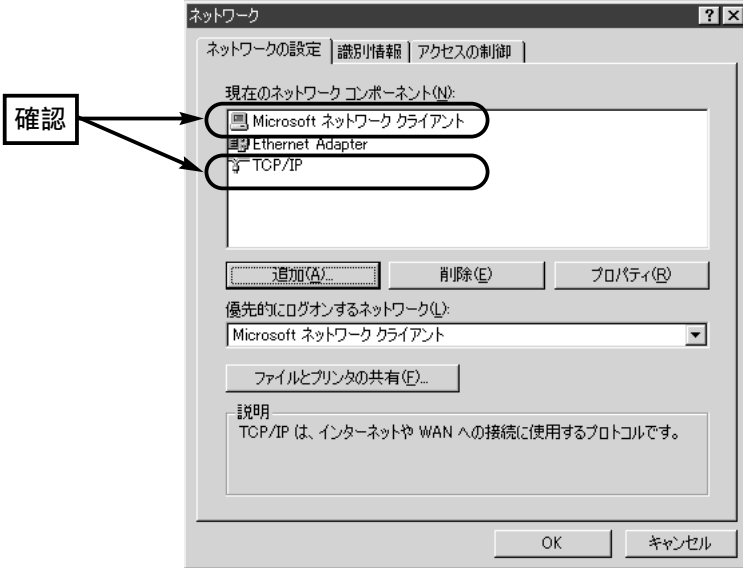
TCP/IPプロトコルの設定

本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

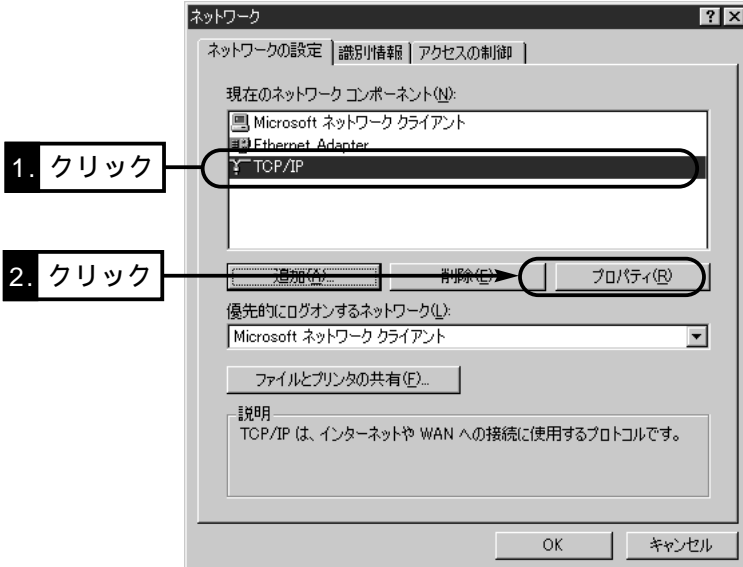
ドライバーのインストールは、ご使用の無線LANカードの取扱説明書を参考に行ってください。

【Windows Meの場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP->ご使用の無線LANカードの名称」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用の無線LANカードの取扱説明書でご確認ください。



3.「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



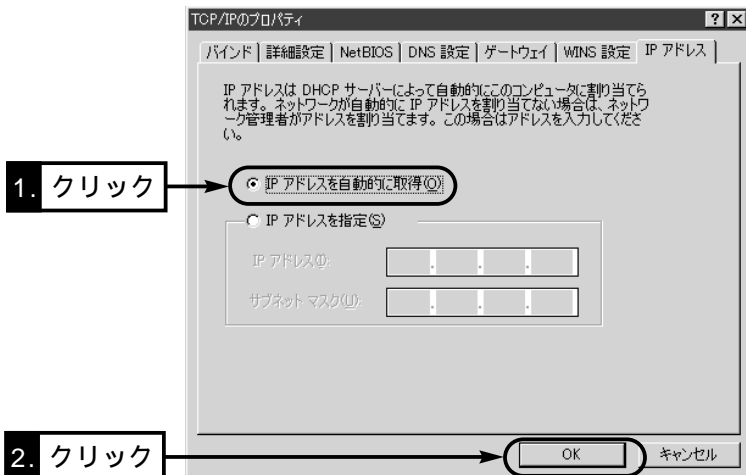
3

3 パソコンを設定する

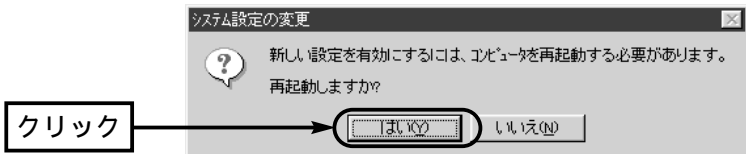
3-2 無線LANで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows Meの場合】(つづき)

4. [IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてから、OKをクリックします。



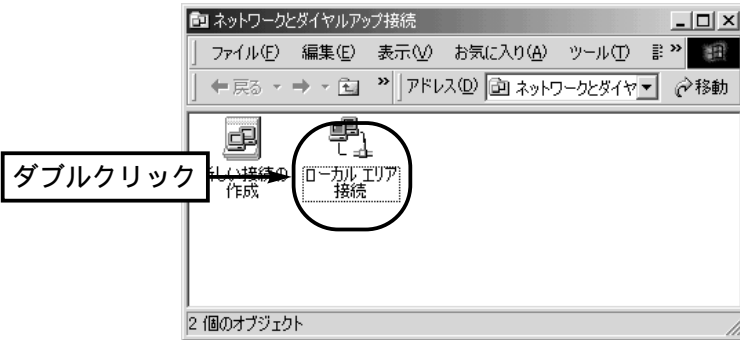
5. 再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックします。再起動後、設定された内容が有効になります。



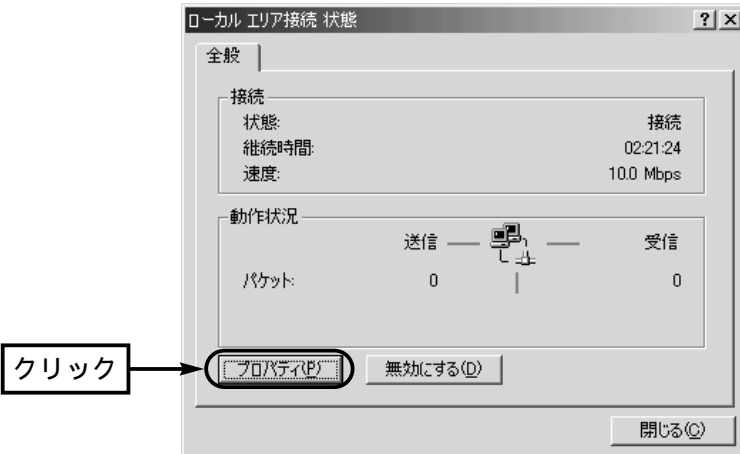
TCP/IPプロトコルの設定(つづき)

【Windows 2000の場合】

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
2. Administrator権限でログオンします。
3. パソコンが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンの順番にマウスを操作します。



4. 本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンをダブルクリックします。

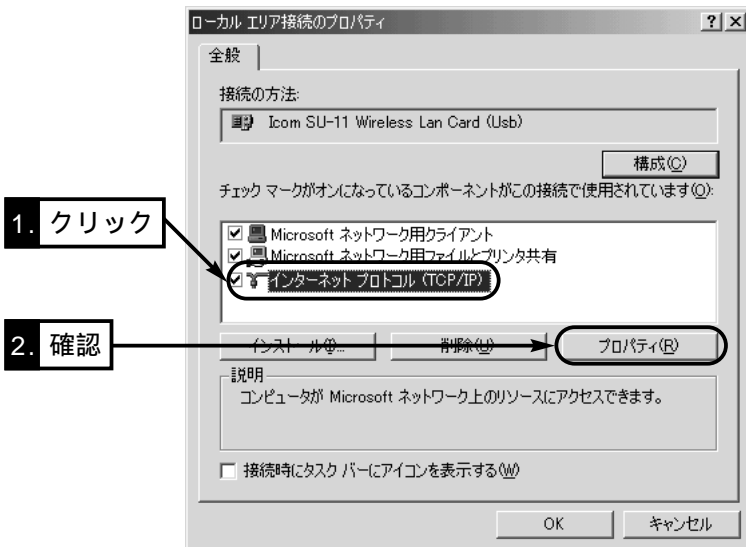


3 パソコンを設定する

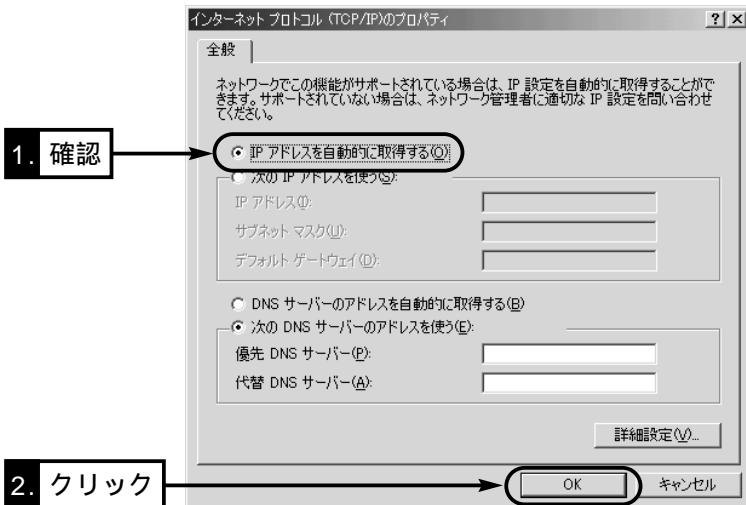
3-2 無線LANで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows 2000の場合】(つづき)

- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



3-2 無線LANで接続する(つづき)

無線LANカードを設定する

無線LANで接続するパソコン(PC/AT互換機)は、次に示す項目の設定値を本製品と同じにする必要があります。ここでは、本製品の出荷時の設定値に合わせてパソコン側の設定値を変更することを前提として説明します。

パソコン側の設定値を変更する操作は、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。

[Network Mode]

無線アクセスポイントという中継装置(本製品に内蔵)と通信を行います。

パソコン側を「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードに変更しておきます。

本製品側では、この項目についての設定はありません。

[ESS ID]

同じ名前を設定したパソコンが無線ネットワーク上で同じワークグループとして識別されます。パソコン側の設定を「LG」(半角大文字)に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「LG」(半角大文字)です。

[通信チャンネル]

「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードで通信を行うときは、設定しても無効です。本製品側で設定する通信チャンネルにしたがって無線通信を行います。

[WEP機能]

無線LANで通信を行うとき、通信するデータの暗号化を行います。パソコン側のWEPセキュリティを「無効」に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「WEPキーを使用しない」です。

【△注意】

- Macintoshへの無線接続には、対応していません。
- 本製品に対応する無線LANカードをご使用ください。対応しないカードとは通信できません。
- 本製品とパソコンに装着された無線LANカードの設定を両方とも同じにしてください。設定が異なると、無線LANによる通信が行えません。
- 本製品に設定した値を正確にメモして、必ず同じ値を無線で通信するすべての機器に設定してください。
- 本製品に無線LANで接続するパソコンから、本製品の「通信チャンネル」、「ESS ID」などを変更している途中は、一時的に無線で接続ができない状態になります。
すべての機器の設定内容が同じになれば、接続できる状態になります。
- WEP機能を使用しない場合、部外者から不用意に接続される可能性があり、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭遇する危険があります。また、無線LAN経由で回線を使われてプロバイダ接続料金を請求されるおそれがあります。
このようなことがないように、必ずWEP機能をご使用になることをお勧めします。
- WEP機能を使って本製品と無線通信するには、弊社製の無線LANカードが必要です。
- 無線通信中に動作が不安定になる場合は、本製品やパソコンの設置場所、向きを変えてみてください。
- 本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。
同時に使える無線端末の数は、最大64台ですが10台以下とすることをお勧めします。

3 パソコンを設定する

3-3 USBで接続する

USBケーブルを[USB]ポートに接続してパソコンをつなぐ場合の設定のしかたについて説明します。なお、対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

本製品とパソコンの接続は、Ethernetや無線LANを使って行うこともできます。

ステップ1	USBドライバーのインストール	30
ステップ2	本製品とパソコンを接続する	14、32
ステップ3	TCP/IPを設定する	32
ステップ4	WWWブラウザを用意する	35
ステップ5	本製品から割り当てられたIPアドレスの確認	36

USBドライバーのインストール

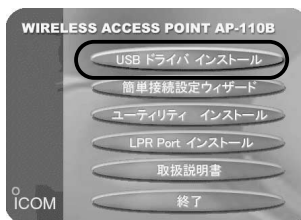
Windows Me、Windows 2000を例に、USBドライバーをインストールする手順について説明します。

本製品の[USB]ポートと接続するコンピューターにインストールしてください。

Windows2000をご使用の場合は、Administrator権限でログオンしてください。

【Windows Me/Windows2000の場合】

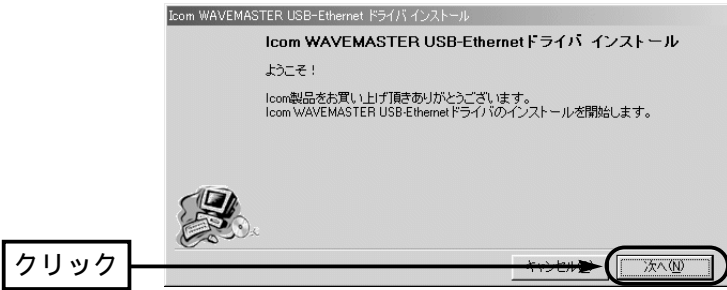
- 1.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2.本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:]に挿入します。
- 3.CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
4. USBドライバ インストール ボタンをクリックします。
ご使用のOSを認識しますので、次の手順にしたがって操作をします。



【Auto Run機能が動作しないときは？】

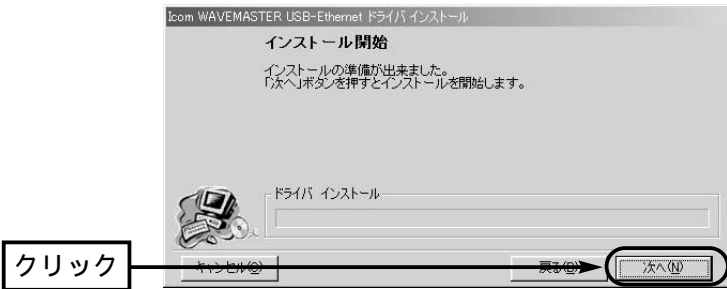
OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

5. 次へ(N) をクリックします。

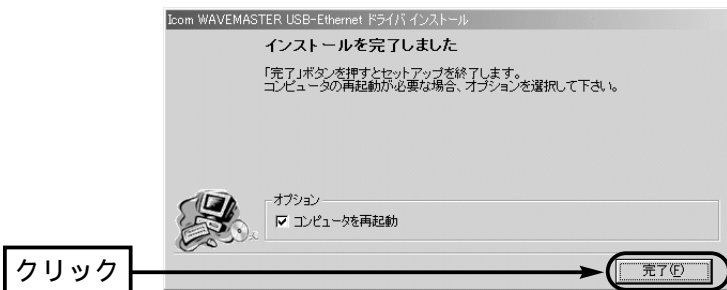


6. 次へ(N) をクリックします。

- インストールを開始します。



7. 完了(E) をクリックします。



3 パソコンを設定する

3-3 USBで接続する(つづき)

本製品の[USB]ポートと接続する

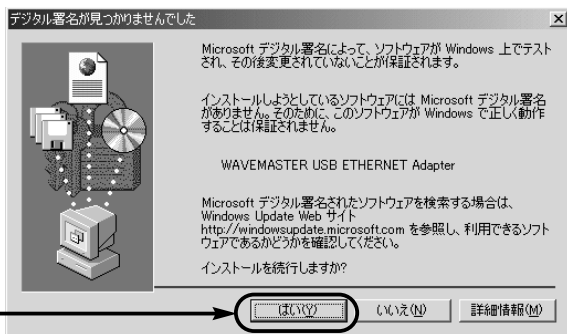
【接続の手順】

- 1.USBドライバーのインストール後、パソコンの再起動が完了したことを確認します。
- 2.2-3章を参考に、本製品に付属するUSBケーブルで本製品とパソコンと接続します。
パソコンが本製品の接続を自動認識して、次の画面を表示します。



- 3.Windows Meでご利用の場合は、本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出すと完了です。

Windows 2000でご利用の場合は、次の画面で はい(Y) をクリックして、本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出すと完了です。



TCP/IPプロトコルの設定

本製品の「USBドライバーをインストール」の操作を行ったあと、「3-1 Ethernetで接続する(TCP/IPプロトコルの設定)」の手順を参考に設定を行ってください。

USBドライバーがインストールされていると、本製品の「TCP/IP」プロトコルには、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」と表示されます。

【ご参考に】

ご利用のパソコンに[USB]ポートがあることを確認してください。

また、その[USB]ポートが使用できる状態に設定されている必要があります。

確認は、Windows Meの場合、「コントロールパネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」で行えます。

パソコンのBIOSにUSB機能を選択する項目がある場合は、それを有効にする必要があります。詳しくは、ご利用のパソコンの取扱説明書でご確認ください。

本製品の[USB]ポートから取り外すには

【Windows 98/98SE/Windows Meの場合】

USBケーブルの取り外しは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

ケーブルの部分を持って引っ張ると、本製品のUSBポートやケーブルが破損する恐れがあります。

【Windows 2000の場合】

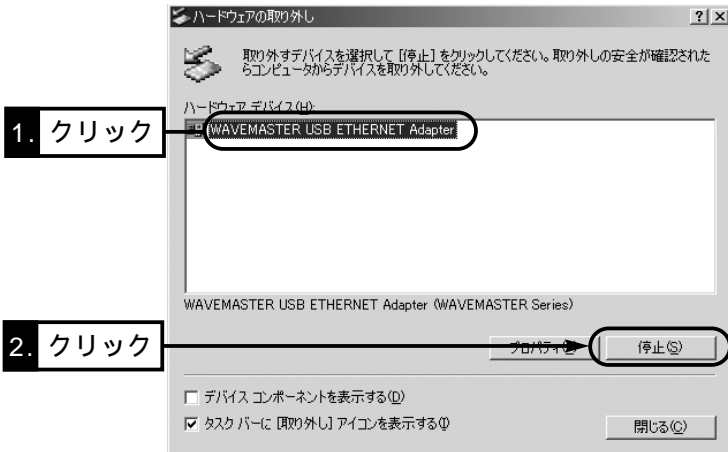
USBケーブルを取り外すには、次の操作を行う必要があります。

【取り外しの手順】

1.タスクバー上の[取り外し]アイコンをダブルクリックします。



2.[ハードウェアの取り外し]画面に表示された、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」をクリックしてから、停止(S) をクリックします。



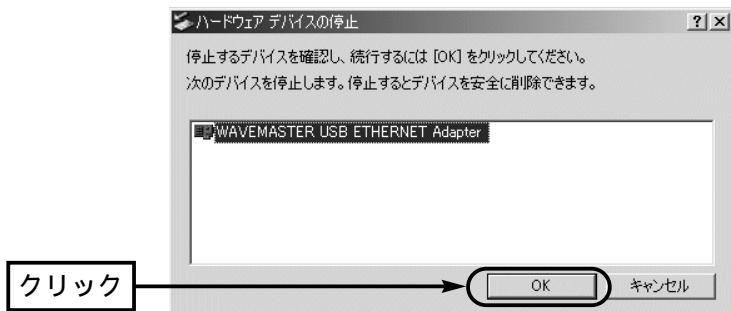
3 パソコンを設定する

3-3 USBで接続する

本製品の[USB]ポートから取り外すには

【Windows2000の場合】(つづき)

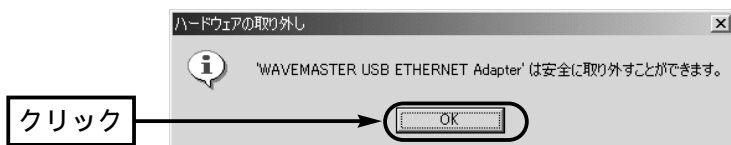
3. OK をクリックします。



4. OK をクリックしてから、USBケーブルを取り外します。

USBケーブルの取り外しは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

ケーブルの部分を持って引っ張ると、本製品のUSBポートやケーブルが破損する恐れがあります。



3-4 WWWブラウザを用意する

本製品の設定をWWWブラウザで行うには、Microsoft Internet Explorer4.0以降、またはNetscape Navigator4.0以降が必要です。

有線または無線で接続されたパソコンからインターネットを使う場合は、ブラウザの設定が、「Proxy(プロキシ)サーバ機能」を利用しないようになっていることを確認してください。

Proxyサーバを使いたいときは、次の手順を参考に本製品をProxyの対象外にしてください。

【Microsoft Internet Explorer5.0の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

- 1.[ツール(T)]メニューから「インターネットオプション(O)」を選択します。
- 2.[接続]タブ LANの設定(L) の順番にマウスを操作します。
- 3.設定画面の「プロキシサーバを使用する(X)」のチェックボックスにチェックを入れて、詳細(C) をクリックします。
- 4.サーバの種類で、「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
- 5.例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N)」のテキストボックスには、本製品のIPアドレスを入力します。(例：192.168.0.1)

【Netscape Navigator4.7の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

- 1.[編集(E)]メニューから「設定(E)」を選択します。
- 2.設定画面の「カテゴリ」の中から、「詳細 - プロキシ」をクリックします。
- 3.「手でプロキシを設定する」のラジオボタンにチェックを入れます。
- 4.「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
- 5.「プロキシなし(N)」のテキストボックスに本製品のIPアドレスを入力します。(例：192.168.0.1)

3 パソコンを設定する

3-5 割り当てられたIPアドレスを確認する

DHCPサーバ機能によってパソコンに自動で割り当てられたIPアドレスを確認する方法について説明します。

ご使用のOSごとに説明する手順で確認を行ってください。

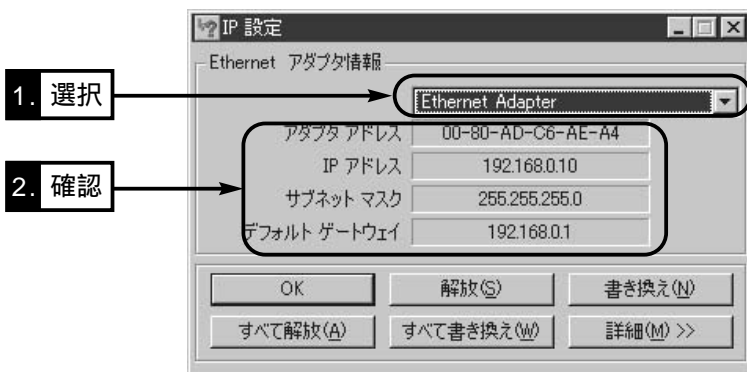
【Windows Meの場合】

インストールされたOSの[Windows]フォルダーに収められた「winipcfg.exe」というアプリケーションで確認します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [ファイル名を指定して実行(R)]の順番に操作します。
- 2.コマンドラインボックスに「winipcfg」と半角入力して、[ENTER]キーを押します。
- 3.テキストボックスの をクリックして、ご使用のEthernetまたは無線LANカード名を選択します。また、USBで接続しているときは、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」と表示しますのでそれを選択します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



画面の表示項目について

- アダプタアドレス : Ethernetまたは無線LANカードのMACアドレス
IPアドレス : パソコンのIPアドレス
サブネットマスク : パソコンのサブネットマスク
デフォルトゲートウェイ : 本製品のLAN側のIPアドレス

【自動割り当てに失敗したら？】

パソコンのIPアドレスのネットワーク部が、本製品のIPアドレスのネットワーク部(192.168.0.)と異なるときは、IPアドレスの自動割り当てに失敗している可能性がありますので、ご使用のEthernetまたは無線LANカード、USBのTCP/IPプロトコルについての設定およびケーブルの接続を確認してから、パソコンを再起動してみてください。

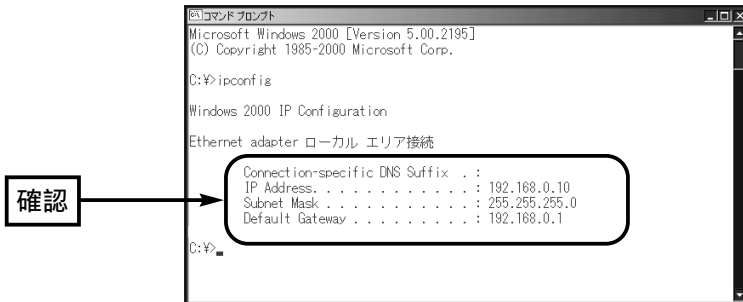
再起動したら、もう一度、上記の手順でIPアドレスを確認してください。

【Windows 2000の場合】

コマンドプロンプト画面から「ipconfig」を実行します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [プログラム(P)] [アクセサリ] [コマンドプロンプト]の順番に操作します。
- 2.ipconfigとコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
コマンドラインのオプションについては、「ipconfig/?」を実行してご確認ください。
- 3.次に表示された画面に、パソコンに割り当てられてIPアドレスが表示されます。

**【ご参考：プロバイダーへのMACアドレス申請について】**

ご契約のプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、本製品を含めインターネット接続できる機器(パソコンなど)のMACアドレスを事前申請する必要がある場合があります。このような場合、MACアドレスの申請および登録が完了するまでインターネットアクセスまたは一部のサービスが受けられないことがあります。

パソコンのMACアドレスは、「winipcfg.exe」または「ipconfig/all」でご確認ください。

本製品のMACアドレスは、「本体MACアドレスの確認方法」(8-9章)をご覧ください。

3 パソコンを設定する

3-5 割り当てられたIPアドレスを確認する(つづき)

【Mac OSの場合】

パソコンを起動後、実際に通信(WWWアクセスまたはメールアクセス)を行うまで、DHCPサーバからIPアドレスを取得しないようになっています。

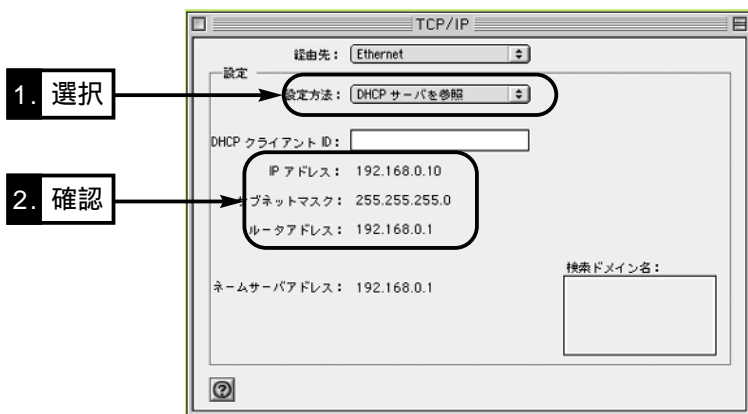
次の手順で表示される画面の各項目に「サーバを参照」と表示されているときは、一度通信を行ったあとにもう一度確認してください。

ご使用のOSによっては、操作画面等が異なる場合があります。

確認のしかた

1.[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



2.MACアドレスの確認は、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [AppleTalk]の順番にマウスを操作すると、次のどちらかの画面を表示しますので、[経由先]を「Ethernet」に選びます。

右の画面を表示する場合、メニューバーの[編集]メニュー [利用者モード]で表示する画面から「詳しい情報も指定」を選ぶと、左の画面を表示します。



3. 情報 をクリックします。

右の画面を表示する場合、メニューバーの[ファイル]メニューから、「情報を見る」を選ぶと、右の画面を表示します。



3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには

本製品に接続するプリンターをプリントサーバとして、TCP/IPで共有することができます。

ご使用になるプリンターのドライバーを、対象となるWindows95/98/98SE、Windows Me、Windows2000搭載のパソコンにインストールしてから、設定を行う必要があります。また、Windows2000以外のOSでご使用のパソコンには、本製品のLPR Portソフトウェアをインストールする必要があります。

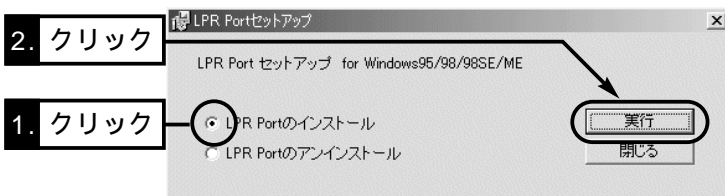
インストールおよび設定を行う前に、「割り当てられたIPアドレスを確認する」(☞3-5)を参考に本製品のIPアドレスとパソコンのIPアドレスが設定されていることを確認してください。

Windows Meの場合

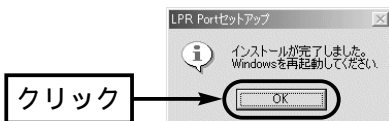
Windows Meを例に、LPR PORTソフトウェアをインストールする手順を説明します。

【LPR Portのインストール手順】

- 1.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2.本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:]に挿入します。
- 3.CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
4. LPR Port インストール をクリックします。
- 5.「LPR Portのインストール」のラジオボタンをクリックして、実行 ボタンをクリックします。



6. OK をクリックすると、インストールは完了です。



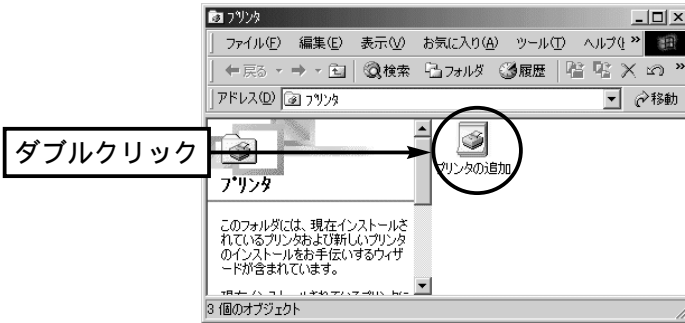
【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

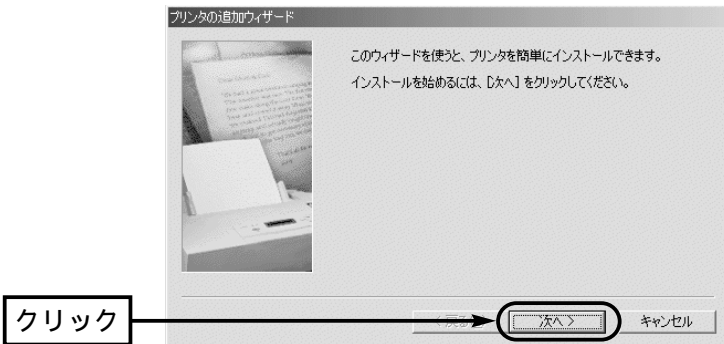
【ドライバーのインストール手順】

LPR Portソフトウェアのインストール(前ページ)が完了したら、次の手順で使用するプリンタードライバーのインストールを行います。

1. マウスを スタート [設定(S)] [プリンタ(P)]の順番に操作します。
[プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。



2. 「プリンターの追加ウィザード」が表示されたら、次へ をクリックします。

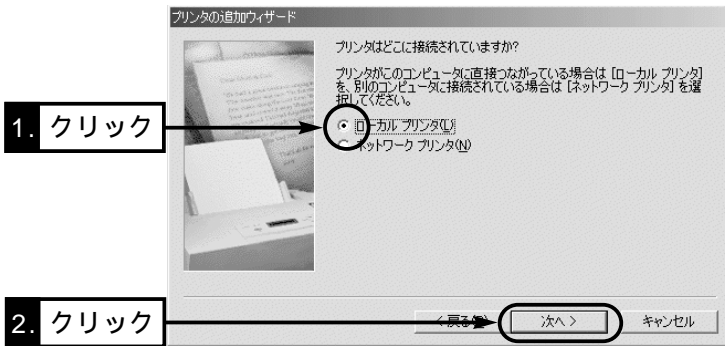


3 パソコンを設定する

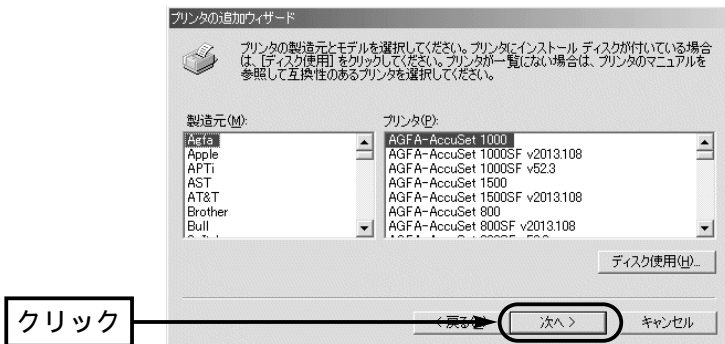
3-6 プリンターを使うには Windows Meの場合

【ドライバーのインストール手順】(つづき)

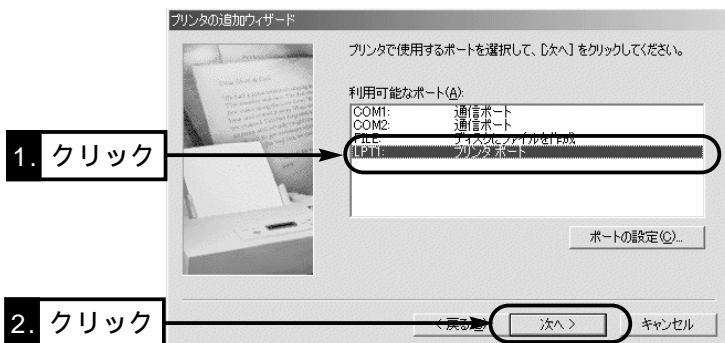
3.[ローカルプリンタ(L)]のラジオボタンをクリックして、次へ をクリックします。



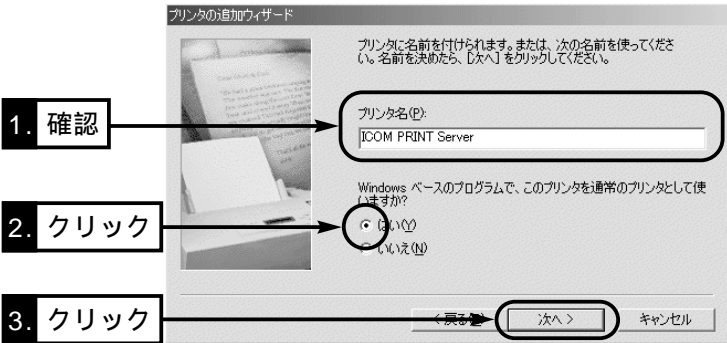
4.ご使用になるプリンタの機種名を選択して、次へ をクリックします。



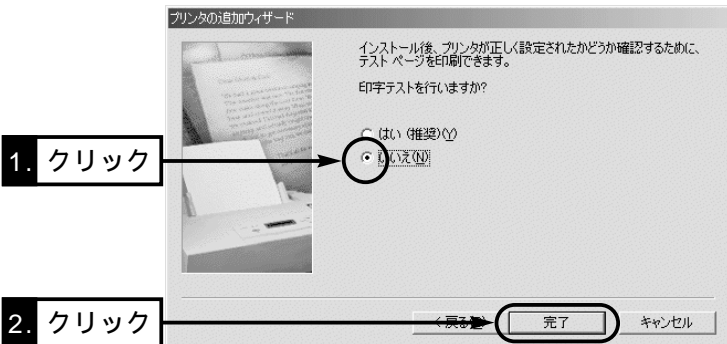
5.「LPT1:プリンターポート」を選択して、次へ をクリックします。



6.[プリンタ名(P)]のテキストボックスにご使用になるプリンターの名前が表示されていることを確認します。さらに、以前パソコンにインストールされたプリンターあるときは、通常使用するプリンターの選択を問うラジオボタンを表示しますので、[はい(Y)]をクリックして、次へ をクリックします。



7.印字テストは、プリンターの設定後に行いますので、ここでは[はい(N)]のラジオボタンをクリックしてから、完了 をクリックすると、インストールが完了です。



3

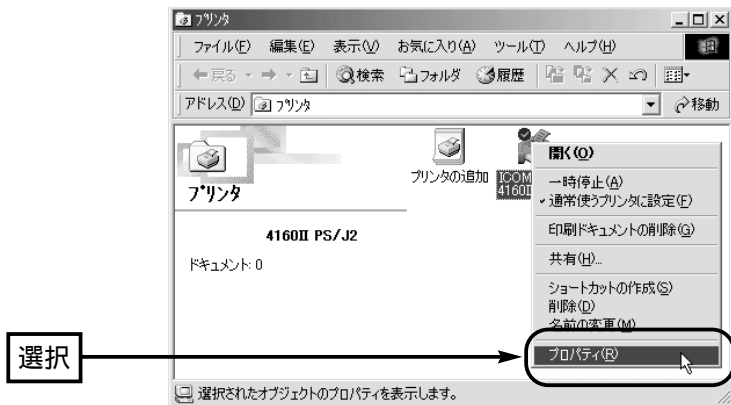
3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには Windows Meの場合(つづき)

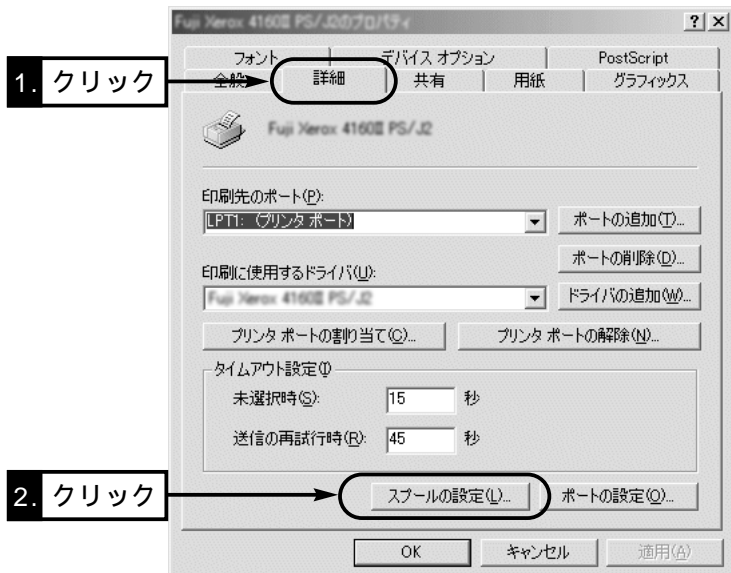
【プリンターの設定手順】

使用するプリンタードライバのインストール(⇒P41)が完了したら、次の手順でプリンターの設定を行います。

1.インストールしたプリンター名の[プリンタ]アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。



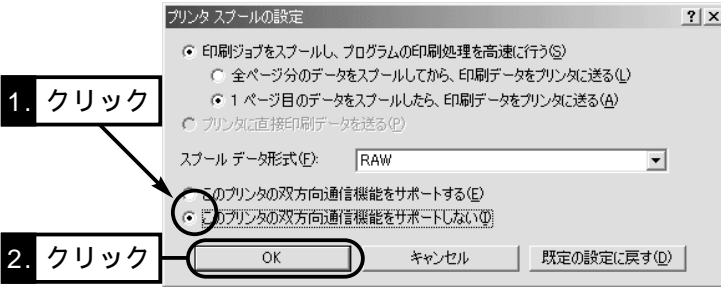
2.[詳細]タブをクリックして、 スプールの設定(L)... をクリックします。



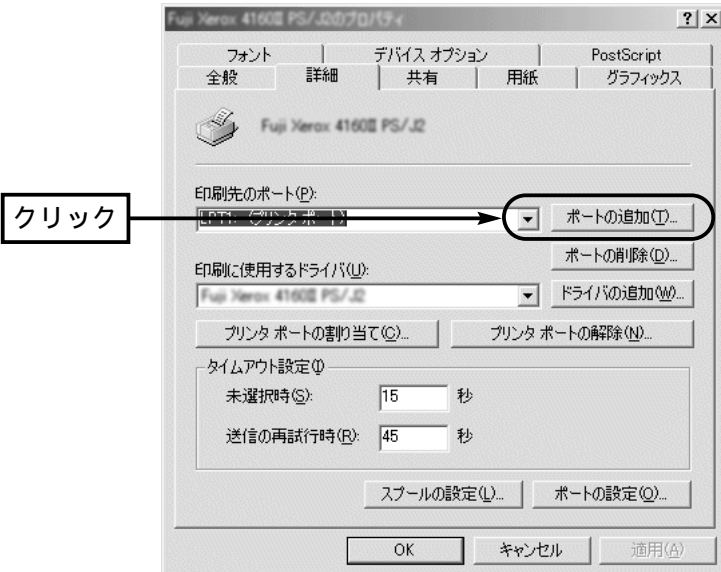
3.ご使用のプリンターが双方向通信機能に対応している場合は、[このプリンターの双方向通信機能をサポートしない(!)]のラジオボタンをクリックしてから、OK をクリックします。

本製品ではプリンターの双方向機能に対応していません。

ご使用のプリンターが双方向機能に対応していないときは、説明のように設定を変更することはできません。



4. ポートの追加(I)... をクリックします。



3

【△注意】
 本製品では、プリンターの双方向通信モード(WPE : Windows Printing System)に対応していませんので、プリンターに付属のユーティリティー(インク残量計)などは使用できません。

3 パソコンを設定する

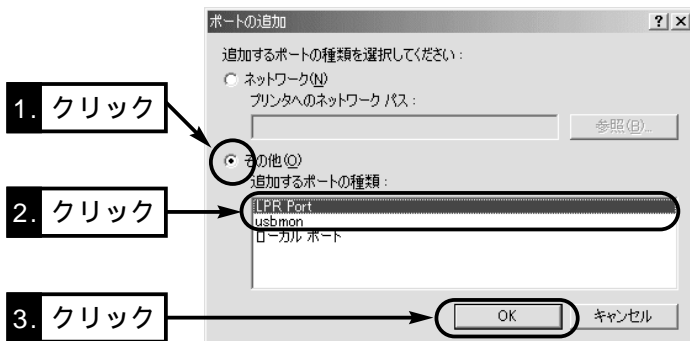
3-6 プリンターを使うには Windows Meの場合

【プリンターの設定手順】(つづき)

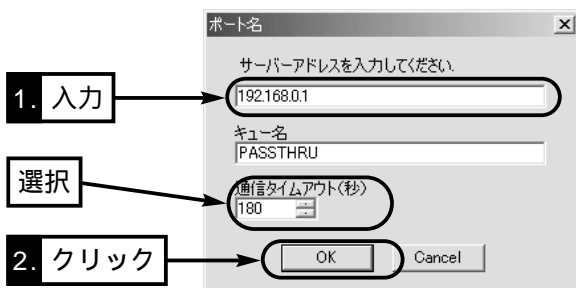
5.[その他(O)]のラジオボタンをクリックして、[追加するポートの種類:]の中から「LPR Port」をクリックします。

OK をクリックします。

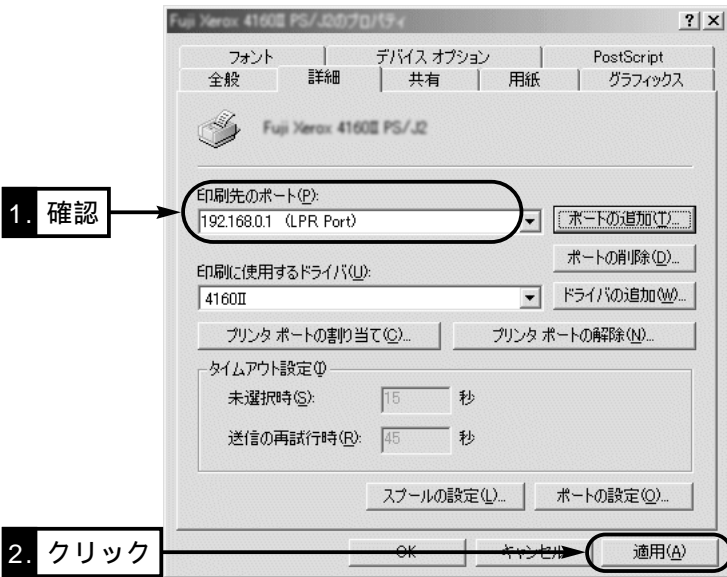
「LPR Port」という項目が表示されていないときは、設定を中止してLPR Portソフトウェア(⇒P40)をインストールしてください。



6.本製品の[LAN]ポートに割り当てたIPアドレス(出荷時の設定: 192.168.0.1)を[サーバーアドレスを入力してください。]のテキストボックスに入力してから、OK をクリックします。Windows 95を除くOSでは、必要に応じて、通信異常が起きたときのタイムアウトを[通信タイムアウト(秒)]欄で設定します。



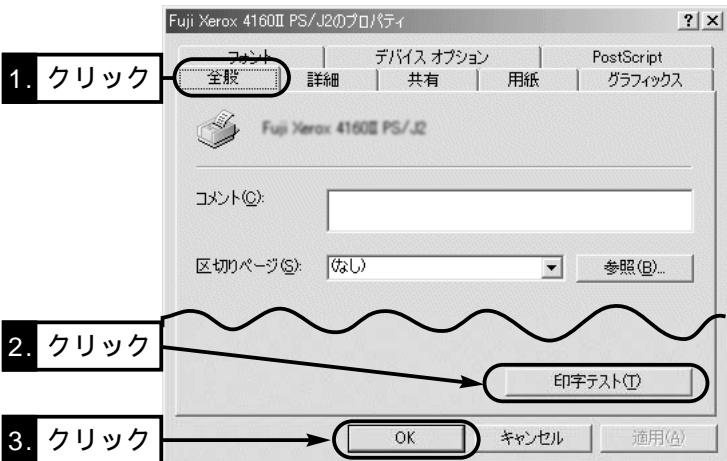
7.[印刷先のポート(P):]欄に、指定したIPアドレスが表示されていることを確認してから、適用(A) をクリックします。



8.[全般]タブをクリックして、印字テスト(I) をクリックします。
プリンターから、正常に出力されれば、インストール完了です。
OK をクリックします。

出力された文字が化けているときは、プリンタードライバーの選択に間違いがないか、ご使用のプリンターの取扱説明書などで確認してください。

3



3 パソコンを設定する

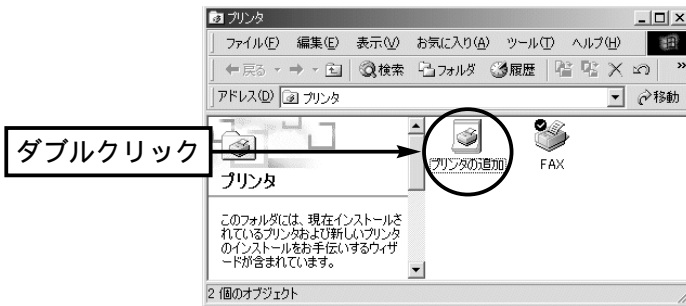
3-6 プリンターを使うには(つづき)

Windows2000の場合

【ドライバーインストールと設定の手順】

次の手順で、使用するプリンタードライバーのインストールを行います。

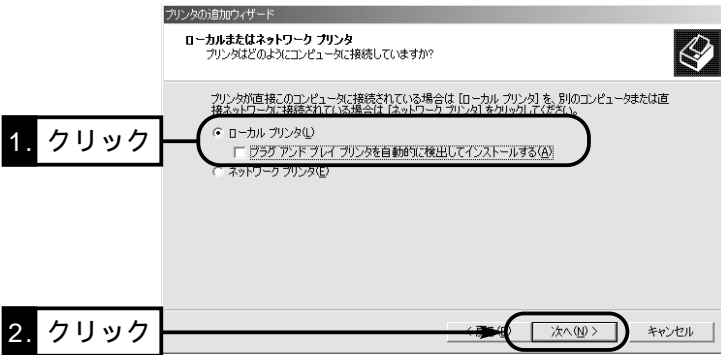
- 1.マウスを スタート [設定(S)] [プリンタ(P)]の順番に操作します。
[プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。



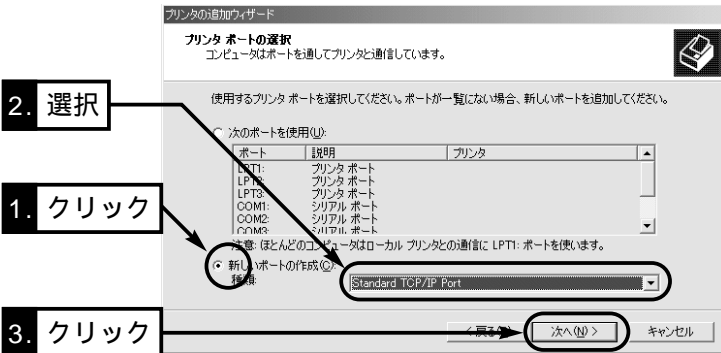
- 2.「プリンターの追加ウィザード」が表示されたら、次へ をクリックします。



- 3.[ローカルプリンタ(L)]のラジオボタンをクリックします。さらに[プラグ アンド プレイ プリンターを自動的に検出してインストールする(A)]のチェックマークを外して、次へ をクリックします。



- 4.[新しいポートの作成(C)]のラジオボタンをクリックします。
「Standard TCP/IP Port」を選択して、次へ をクリックします。



3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには(Windows2000の場合)

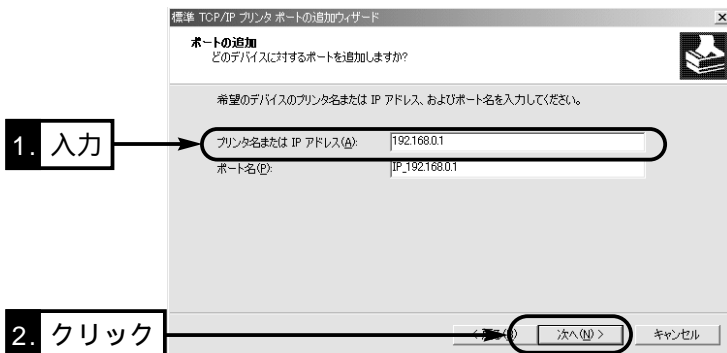
【ドライバーインストールと設定の手順】(つづき)

5. 次へ をクリックします。

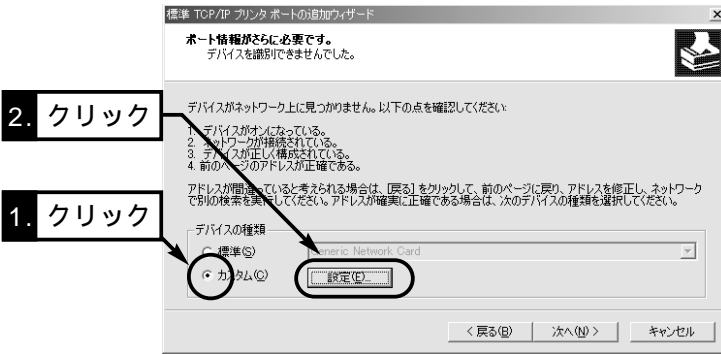


6. 本製品の[LAN]ポートに割り当てたIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を[プリンタ名またはIPアドレス(A):]に入力してから、次へ をクリックします。

[プリンタ名またはIPアドレス(A):]に入力すると、[ポート名(P):]のテキストボックスは、自動で入力されます。



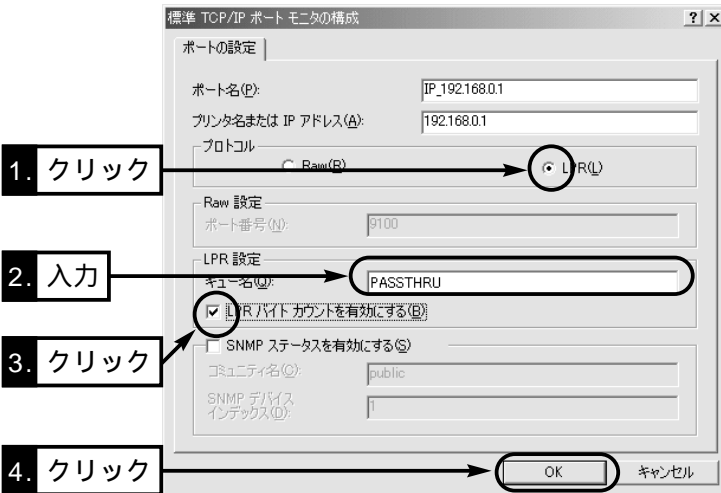
7.[カスタム(C)]のラジオボタンをクリックしてから、設定(E) をクリックします。



8.[プロトコル]欄の[LPR(L)]のラジオボタンをクリックします。

[キュー名(Q):]のテキストボックスに「PASSTHRU」と入力します。

[LPRバイトカウントを有効にする(B)]にチェックマークを付けてから、OK をクリックします。



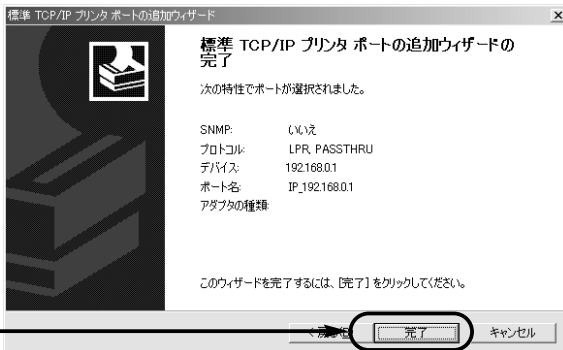
3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには(Windows2000の場合)

【ドライバーインストールと設定の手順】(つづき)

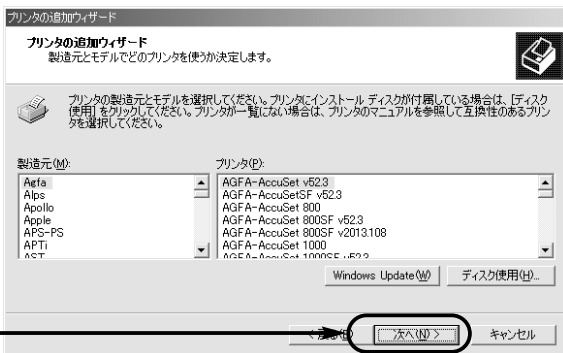
9.手順.7の画面で、次へ をクリックします。

画面の内容を確認して、完了 をクリックします。



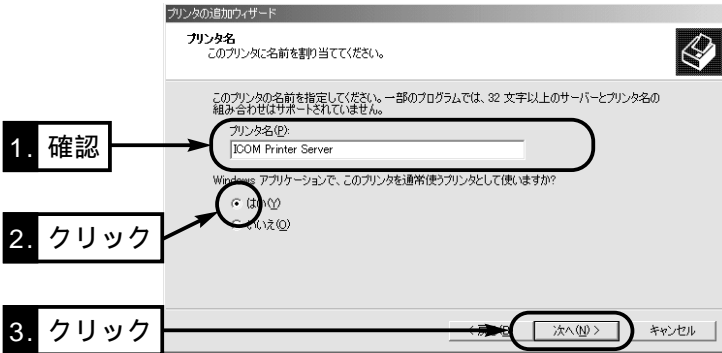
クリック

10.ご使用になるプリンターの機種名を選択して、次へ をクリックします。

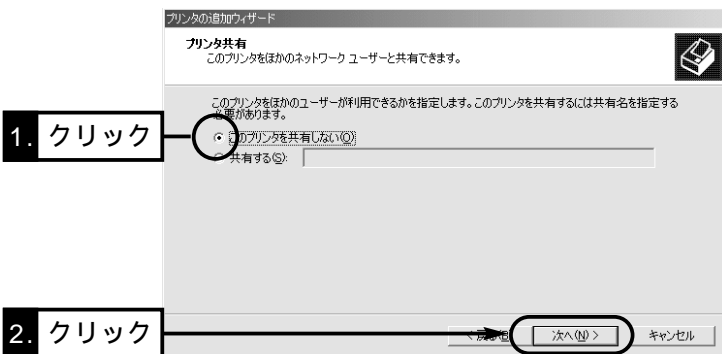


クリック

11. [プリンタ名(P)]のテキストボックスにご使用になるプリンターの名前が表示されていることを確認します。さらに、以前パソコンにインストールされたプリンターがあるときは、通常使用するプリンターの選択を問うラジオボタンを表示しますので、[はい(Y)]をクリックして、次へ をクリックします。



12. [このプリンタを共有しない(Q)]のラジオボタンをクリックしてから、次へ をクリックします。



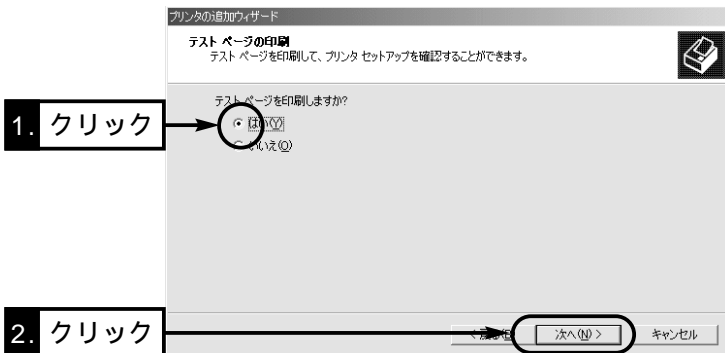
3

3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには(Windows2000の場合)

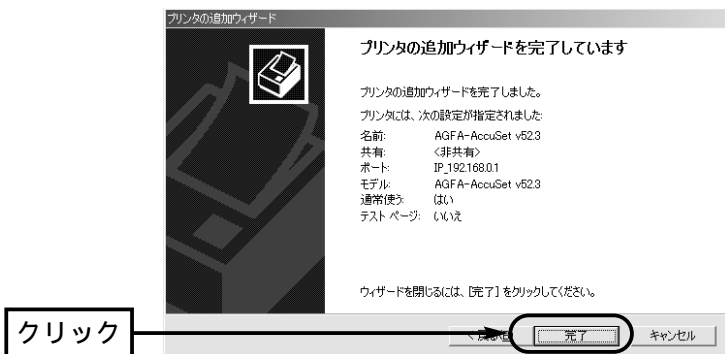
【ドライバーインストールと設定の手順】(つづき)

13.印字テストを行うため、[はい(Y)]のラジオボタンをクリックして、OK をクリックします。



14.印刷が開始されて、プリンターから正常に出力されれば、インストール完了です。OK をクリックします。

出力された文字が化けているときは、プリンタードライバーの選択に間違いがないか、ご使用のプリンターの取扱説明書などで確認してください。



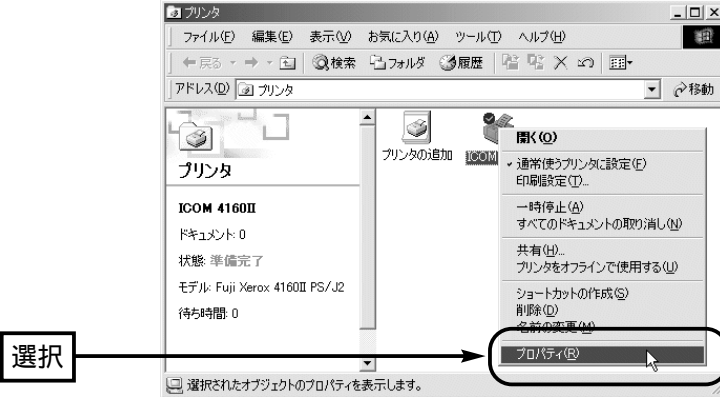
【△注意】

本製品では、プリンターの双方向通信モード(WPE : Windows Printing System)に対応していませんので、プリンターに付属のユーティリティー(インク残量計)などは使用できません。

15.本製品ではプリンターの双方向機能に対応していません。

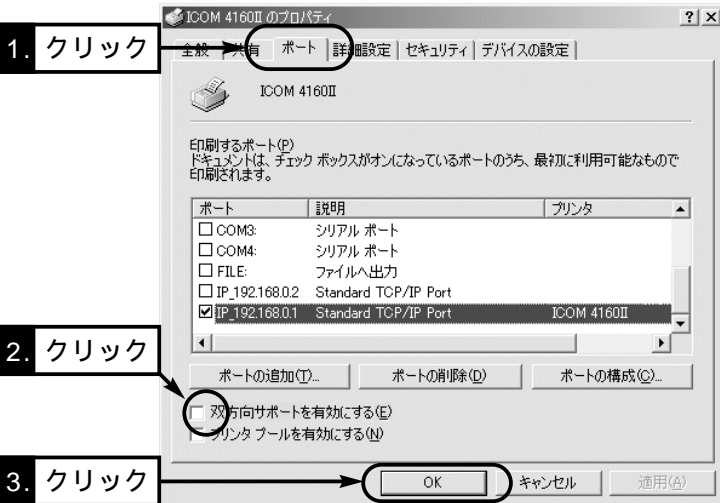
ご使用のプリンターが双方向通信機能に対応している場合は、次の手順を参考に、双方向通信のサポートを「無効」に設定してください。

16.インストールしたプリンター名の[プリンタ]アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。



17.[ポート]タブをクリックして、[双方向サポートを有効にする(E)]のチェックマークを外します。

OK をクリックして、完了です。



この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、ADSL対応プロバイダーへの回線接続設定について、本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使用する方法を説明します。

無線で本製品に接続するパソコンから「簡単接続設定ウィザード」を使用して設定を行う場合は、最初に「無線LANを設定する」(☞5-4章)をご覧ください。パソコン側の無線LAN設定内容が本製品と一致していることと、本製品の設定画面を無線LANから呼び出せることを確認してから、本章で設定を行うことをお勧めします。また、USBで本製品に接続するパソコンからの設定は、あらかじめUSBドライバーのインストール(☞3-3章)が必要です。

契約したプロバイダーへの手動接続操作やネットワークについて詳しく設定したいときは、「WWWブラウザ」を使用します。このときは、「WWWブラウザで設定する」(☞5章)をご覧ください。

4-1.本製品とパソコンの電源を入れる	58
4-2.簡単設定ソフトを起動する	58
4-3.設定をはじめると	59

4 簡単設定ソフトで設定する

4-1 本製品とパソコンの電源を入れる

本製品とモデム、さらに設定に使うパソコンを接続します。

- 1.本製品とモデムの電源を入れます。
- 2.本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
- 3.本製品の[WAN]と[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、2章を参考に、各機器の電源やケーブルの接続、[PC/HUB]スイッチ(Ethernetで接続する場合)の設定などをご確認ください。
パソコンをUSBで接続する場合は、[LAN]ランプは点灯しません。
- 4.本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(☞3-5章)ことを確認します。
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度、「パソコンを設定する」(☞3章)でTCP/IPの設定などをご確認ください。

4-2 簡単設定ソフトを起動する

簡単設定ソフトは、本製品のCD-ROMに収められています。

- 1.本製品のCD-ROMをご使用のCD-ROMドライブに挿入します。
 - CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
2. 簡単接続設定ウィザード をクリックします。
 - 「簡単接続設定ウィザード」が起動します。



【インストールについて】

「簡単設定ソフト」をインストールしてご利用になりたいときは、ユーティリティ インストール をクリックして、「ユーティリティのインストール」(☞8-2章)の手順を参考にインストールしてください。

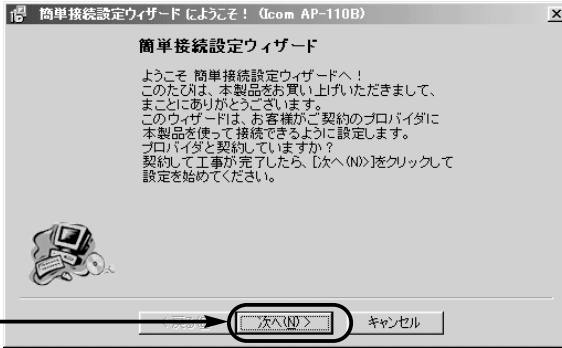
【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

4-3 設定をはじめる

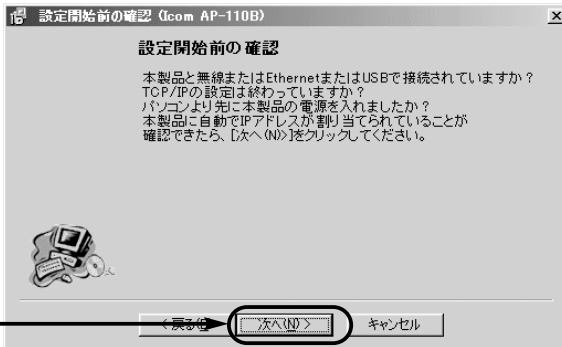
「簡単接続設定ウィザード」を起動したら、つぎの手順にしたがって設定を行います。

1. 次の画面が表示されたら、内容を確認して、次へ(N) をクリックします。



2. 内容を確認して、次へ(N) をクリックします。

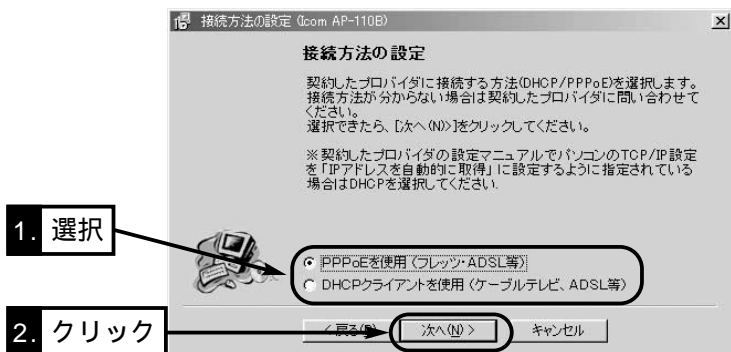
パソコンのIPアドレスをあらかじめ手動で指定しているときは、自動的に取得できるように変更(←3章)してから、やり直してください。



4 簡単設定ソフトで設定する

4-3 設定をはじめ(つづき)

3.ご契約のプロバイダーが指定する接続方式を選択して、次へ(N) をクリックします。

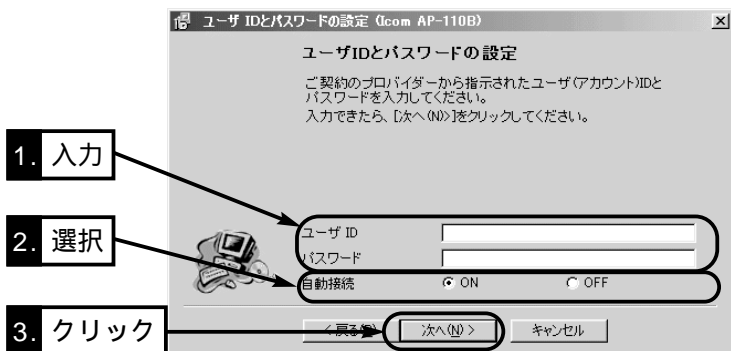


上記画面で「PPPoEを使用(フレッツ・ADSL等)」を選択した場合は、契約しているプロバイダーから指定された[ユーザーID]と[パスワード]をテキストボックスに入力します。パソコンからホームページやメールを見る操作を行ったときなど、自動的にインターネットへ自動接続をする場合は、「ON」のラジオボタンをクリックしてから、次へ(N) をクリックします。

「DHCPクライアント使用(ケーブルテレビ・ADSL等)」を選択時は、この画面の設定はありません。

「OFF」に設定したときの接続操作は、WWWブラウザの設定画面で行います。

詳しくは、「インターネット接続を開始する」(6-1章)をご覧ください。



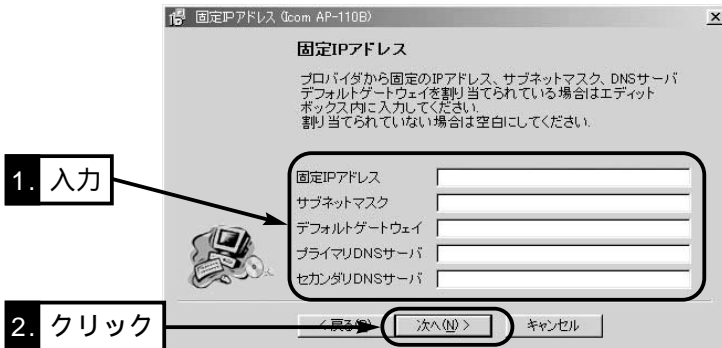
【△注意】

「簡単接続設定ウィザード」では、テキストボックスに入力する文字数制限は、「wwwブラウザ」を使って設定するときの文字数制限と同じです。「簡単接続設定ウィザード」で制限以上の文字を入力されても、制限を超えた分は、破棄されます。

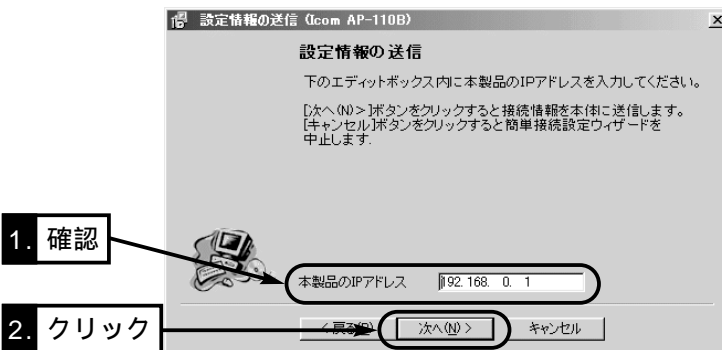
4.プロバイダーからIPアドレスを指定された場合は、そのアドレスとそれ以外に指定された内容を、該当する欄に入力して、次へ(N) をクリックします。

特に指定がない場合は、何も入力しないで、次へ(N) をクリックします。

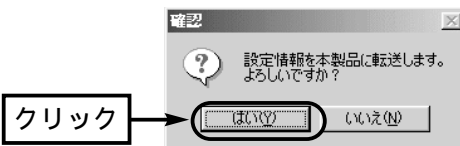
ご不明な場合は、ご契約のプロバイダーにご確認ください。



5.本製品に設定されたIPアドレス(出荷時は、192.168.0.1)が正しいかを確認して、次へ(N) をクリックします。



6.「確認」のダイアログが表示されますので、はい(Y) をクリックします。



4 簡単設定ソフトで設定する

4-3 設定をはじめめる(つづき)

7. 完了 をクリックします。



8. 手順3.で「PPPoEを使用(フレッツ・ADSL等)」を設定したときは、「6.インターネットにつなぐ」に進みます。

手順3.で「DHCPクライアント使用(ケーブルテレビ・ADSL等)」を設定したときは、WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力して、接続を確認してください。

手順6.で、「ユーザー認証」画面が表示されたときは、本製品に設定されている管理者IDを入力します。管理者IDを設定していないのに、以前設定した内容が表示されるときは、その内容を消してから OK をクリックします。



【プロバイダーから配布のPPPoE接続ソフトウェアについて】

本製品でプロバイダーへの接続方式の設定をPPPoE方式に設定する場合は、プロバイダーから配布されるPPPoE接続用ソフトウェアのインストールは不要です。すでに、ご使用のパソコンにインストールされているときは、そのソフトウェアのアンインストールを行うか自動接続設定を無効に変更してから、本製品をご使用ください。

この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、プロバイダーへの回線接続設定について、「WWWブラウザ」を使って行う方法を説明します。

無線で本製品に接続するパソコンから「WWWブラウザ」を使用して設定を行う場合は、最初に「無線LANを設定する」(☞5-4章)をご覧ください。パソコン側の無線LAN設定内容が本製品と一致していること、本製品の設定画面を無線LANから呼び出せることを確認してから、本章で設定を行うことをお勧めします。また、USBで本製品に接続するパソコンからの設定は、あらかじめUSBドライバーのインストール(☞3-3章)が必要です。

本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使って設定を行う場合は、「簡単設定ソフトで設定する」(☞4章)をご覧ください。

5-1.本製品とパソコンの電源を入れる	64
5-2.設定画面を呼び出す	64
5-3.本製品の時計を設定する	66
5-4.無線LANを設定する	67
5-5.分離式アンテナの設定(別売品)	69
5-6.インターネットに[PPPoE]方式で接続する	70
5-7.インターネットに[DHCP]方式で接続する	71
5-8.本体IPアドレスを変更するには	73
5-9.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには	74

5 WWWブラウザで設定する

5-1 本製品とパソコンの電源を入れる

本製品とモデム、さらに設定に使うパソコンを接続します。

- 1.本製品とモデムの電源を入れます。
- 2.本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
- 3.本製品の[WAN]と[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、2章を参考に、各機器の電源やケーブルの接続、[PC/HUB]スイッチ(Ethernetで接続する場合)の設定などを確認してください。
パソコンをUSBで接続する場合は、[LAN]ランプは点灯しません。
- 4.本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(⇨3-5章)ことを確認します。
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度、「パソコンを設定する」(⇨3章)でTCP/IPの設定などを確認してください。

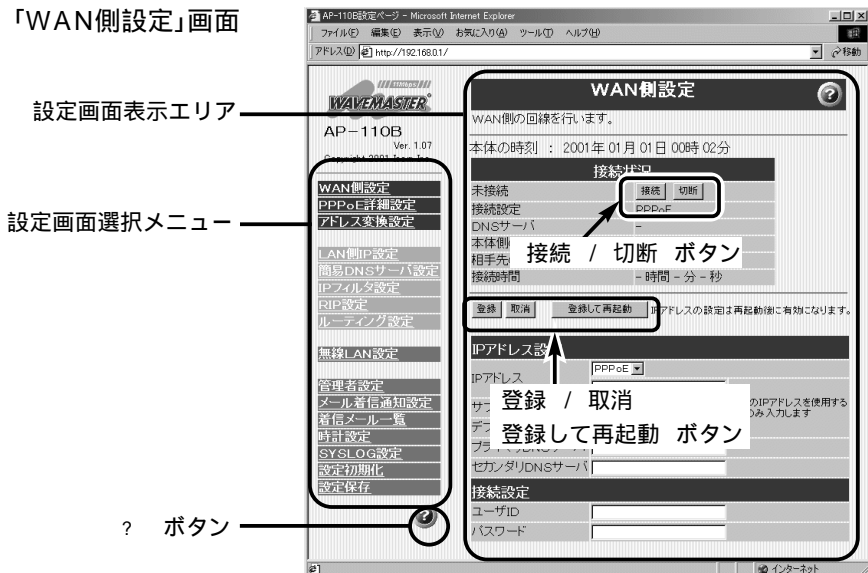
5-2 設定画面を呼び出す

次の手順で本製品のWWWブラウザ設定画面を呼び出します。

操作のしかた

- 1.WWWブラウザを起動します。
本書では、Internet Explorer5.0を使って説明しています。
- 2.本製品のURL「http://192.168.0.1」(出荷時の場合)を指定します。
 - 「WAN側設定」画面を最初に表示します。

「WAN側設定」画面



接続 / 切断 ボタン

回線の手動接続と切断を行います。

登録 / 取消 / 登録して再起動 ボタン
表示しているメニュー画面に設定した内容の登録や取消をします。

再起動して変更内容が有効になる項目は、**登録して再起動** を操作します。

設定画面選択メニュー

設定画面の全タイトルを表示します。カーソルを目的のタイトルの上に移動してクリックすると、目的の画面表示に切り替わります。

WAN側設定

WAN側への回線接続設定、[PPPoE]方式での手動接続および手動切断について設定します。

PPPoE詳細設定

PPPoE方式での自動接続および自動切断について設定します。

アドレス変換設定

グローバルアドレスとプライベートアドレス変換やポート番号の変換について設定します。

LAN側IP設定

本製品のLAN側への接続について設定します。

簡易DNSサーバ設定

本製品のDNSサーバ、簡易DNSサーバについて設定します。

IPフィルタ設定

送信元パケットや送信先パケットの通過、遮断について設定します。

RIP設定

RIPにより経路を動的に作成するときやRIPフィルタについて設定します。

ルーティング設定

パケットの中継経路を意図的に定義するとき設定します。

設定画面表示エリア

設定画面選択メニューで選択されたタイトルの画面表示に切り替わります。

? ボタン

表示しているメニュー画面の各項目について、簡単な説明を表示します。

印刷は、WWWブラウザのファイルメニューから、**印刷** を選んで行います。

無線LAN設定

本製品の無線アクセスポイント機能について設定します。

管理者設定

設定画面への管理者IDと管理者パスワードについて設定します。

メール着信通知設定

着信したメールの通知、転送、表示、フィルタリングについての設定です。

着信メール一覧

着信メールの一覧表示やメール着信通知表示を停止させるとき設定します。

時計設定

本製品の内部時計とタイムサーバへの接続について設定します。

SYSLOG設定

SYSLOG機能でファイルを一括管理するとき設定します。

設定初期化

本製品の設定内容を出荷時の状態に戻るとき設定します。

設定保存

本製品の設定内容を確認したり、設定内容を設定ファイルとして保存するとき操作します。

5 WWWブラウザで設定する

5-3 本製品の時計を設定する

設定画面から、本製品の内部時計の時刻を設定します。

設定を行わないと、[PPPoE]方式で自動接続可能な時間帯や切断でタイマーを使う時間帯などの制限を設定しても正しく動作させることができませんので、なるべく最初に設定を行っておくことをお勧めします。

設定のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[時計設定]をクリックします。
 - 「時計設定」画面を表示します。
- 3.内部時計設定の「設定する時刻」欄に、パソコンから自動取得した時刻が設定されているのを確認して、「登録」をクリックします。



【△注意】

本製品の電源を切ると、時計の設定が出荷時の状態に戻ります。

全設定の初期化、停電や不慮の事故で電源が一時的にでも切れたときは、再設定が必要です。

5-4 無線LANを設定する

パソコン(PC/AT互換機)を無線LAN(無線アクセスポイント)で接続する場合の設定です。ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。

さらに詳しく設定を行う場合は、「アクセスポイント機能を使う」(☞7-1章)、またはPDF形式の補足説明書をご覧ください。

出荷時の設定値で無線LANを使うときは、パソコン側の設定値を本製品と同じに変更してください。

パソコンの設定については、「無線LANで接続する」(☞3-2章)をご覧ください。



【基本無線項目】

ESS ID
ESS IDの確認入力
チャンネル

【出荷時の設定値】

半角大文字で「LG」(入力値は、[*]で表示されます。)
半角大文字で「LG」(入力値は、[*]で表示されます。)
14(パソコン側の設定は不要です。)

【基本無線項目について】

ESS ID

無線LAN識別用の名前を任意に設定します。

無線伝送可能エリア内に、無線ワークグループを複数構成して、ネットワーク情報を他の無線ワークグループから見られたくないとき変更します。また、無線LANへの不正なアクセスを防止するときなどにも使用します。

チャンネル

パソコンと本製品が無線通信に使うチャンネルです。

パソコン側は、本製品で設定したチャンネルを自動的に検知して通信します。

ローミング機能(☞7-2章)や無線アクセスポイントと通信する無線ネットワークグループが複数あるときなど、互いの無線アクセスポイント(本製品)から電波が受信できる無線伝送可能エリア内において、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定することで、電波干渉を完全に避けることができます。(☞補足説明書)

次ページにつづく

【△注意】

Macintoshへの無線接続には、対応していません。
無線接続は、先に本製品とモデムの電源が入った状態で行ってください。

5 WWWブラウザで設定する

5-4 無線LANを設定する(つづき)

設定のしかた

1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。

- 「WAN側設定」画面を表示します。

2.メニューから[無線LAN設定]をクリックします。

- 「無線LAN設定」画面を表示します。

3.設定項目を変更したときは、登録して再起動 をクリックします。

- 設定した内容が有効になります。

無線LAN設定

無線LANを使用するときの設定を行います。

登録して再起動 登録して再起動 (無線LAN以外の設定は再起動後に有効になります。)

無線LAN設定

ESS ID ● **

ESS IDの確認入力 ● **

無線詳細設定

チャンネル ● [14]

ダイナミックテナを使用 する

Rts/Ctsスレッシュホールド [無し]

セキュリティレベル [なし]

キージェネレータ

セキュリティレベル カスタム設定

受信パケットの復号 [はい]

送信パケットの暗号化 [はい]

WEPファクタ [0]

暗号化ビット数

64ビット 128ビット

選択 文字列

1 00-00-00-00

2 00-00-00-00

3 00-00-00-00

WEPキー

この項目はセキュリティレベルを「カスタム」に設定した場合のみ変更が可能です。

この項目の録音は再起動後に有効になります。

チャンネル、スレッシュホールドの録音は再起動後に有効になります。

2. 印：設定する項目
必要に応じて変更
します。

5-5 分離式アンテナの設定(別売品)

無線LANカードに付属のダイバーシティアンテナ、または別売品の分離式アンテナを2本(ダイバーシティアンテナ)で使うときは、出荷時の設定(「ダイバシティを使用」欄の「する」にチェックマークが付いている)でご使用ください。

別売品の分離式アンテナを1本(1/2波長ダイポールアンテナ)で使うときは、次の手順で設定を変更してください。

設定のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[無線LAN設定]をクリックします。
 - 「無線LAN設定」画面を表示します。
- 3.[ダイバシティアンテナを使用]欄の「しない」のラジオボタンをクリックして、登録して再起動 をクリックします。



5 WWWブラウザで設定する

5-6 インターネットに[PPPoE]方式で接続する

[PPPoE]方式に対応するプロバイダーにモデム(※2-1章)を使って接続するとき、最低限必要と思われる設定項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になられたことを想定して説明しています。


設定項目についての説明は、設定画面のヘルプ、または補足説明書でご確認ください。

【プロバイダーから指定される情報の例】


- ユーザID : user(ログインユーザ名またはアカウント名と記載の場合があります。)
- パスワード : userpass(ログインパスワードと記載の場合があります。)
- IPアドレス : 172.169.0.5(固定で設定するように指定された場合は必要です。)
- プライマリDNSサーバ : 192.169.100.10(DNSサーバIPアドレスと記載の場合があります。)

プライマリ、セカンダリとして、複数指定される場合があります。

設定のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(※5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. プロバイダーから指定された項目があるときは、画面の  の部分に入力します。
3. 登録して再起動 をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。

印：設定する項目例
指定された内容を
入力します。



3. クリック

1. 選択

2. 入力

5-7 インターネットに[DHCP]方式で接続する

[DHCP]方式(ご契約のプロバイダーからIPアドレスの指定がない)に対応するプロバイダーに、ADSLモデムまたはCATVケーブルモデム(☞2-1章)を使って接続するとき、最低限必要と思われる設定項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。設定項目についての説明は、設定画面のヘルプ、または補足説明書でご確認ください。

【プロバイダーから指定される情報の例】

ご契約のプロバイダーから下記の項目についての指定がないときは、[WAN側設定]画面で接続方式[DHCP]だけを設定します。

- IPアドレス(指定された場合は入力します。)
- サブネットマスク(指定された場合は入力します。)
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス(指定された場合は入力します。)
- DNSサーバのIPアドレス(指定された場合は入力します。)
- ドメイン名：設定不要(指定された場合でも本製品では設定不要です。)
- ホスト名：host(本製品名を指定されたときは、本体名称に「AP-110B(出荷時の設定)」と入力します。)

設定のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. プロバイダーから指定された項目があるときは、画面の 印の部分に入力します。
3. 「DHCP」を選択して、登録して再起動 をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。

印：設定する項目例
指定された内容を入力します。

3. クリック

2. 選択

1. 入力

WAVE MASTER
AP-110B
Ver. 1.07
Copyright 2001 Icom Inc.

WAN側設定
PPPoE詳細設定
アドレス変換設定

LAN側IP設定
簡易DNSサーバ設定
IPフィルタ設定
RIP設定
ルーティング設定
無線LAN設定

管理者設定
メール着信通知設定
ログオン設定
時計設定
SYSLOG設定
設定初期化
設定保存

WAN側の回線を行います。
本体の時刻：2001年 01月 01日 00時 26分

接続状況

未接続	接続	切断
接続設定	DHCP	
DNSサーバ	-	
本体側のIPアドレス	-	
相手側のIPアドレス	-	
接続時間	- 時間 - 分 - 秒	

登録 取消 登録して再起動 (IPアドレスの設定は再起動後に有効になります。)

IPアドレス設定

IPアドレス [DHCP]

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

プライマリDNSサーバ

セカンダリDNSサーバ

接続設定

ユーザID

パスワード

固定のIPアドレスを使用する
ときのみに入力します

5 WWWブラウザで設定する

5-7 インターネットに[DHCP]方式で接続する
設定のしかた (つづき)

4.メニューから[LAN側IP設定]をクリックします。

- 「LAN側IP設定」画面を表示します。

5.プロバイダからホスト名を指定された場合は、その内容を[本体名称]欄に入力(例：host)します。特に指定がない場合は、空白になっていないことを確認します。

6. 登録して再起動 をクリックします。

- 設定した内容が有効になります。



7.WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力して、接続を確認してください。

5-8 本体IPアドレスを変更するには

既存のLANに接続する場合、本製品を出荷時の状態で使うと、既存のネットワーク機器に割り当てられているIPアドレスと重複する可能性があります。ここでは、本製品のIPアドレスを変更する手順について説明します。

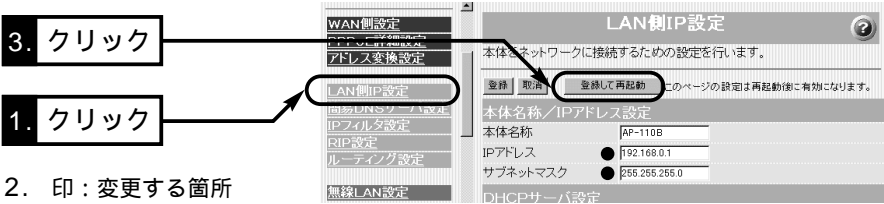
IPアドレスの「ネットワーク部」を変更するときは、「自動割り当て開始IPアドレスを変更する」(☞5-9章)を参考に、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。

変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[LAN側IP設定]をクリックします。
 - 「LAN側IP設定」画面を表示します。
- 3.本製品のIPアドレスを変更して、「登録して再起動」をクリックします。

接続するほかのネットワークと「ネットワーク部」が重複しないようにしてください。

 - 設定した内容が有効になります。



2. 印 : 変更する箇所

- 4.本製品のDHCPサーバ機能を使っている場合は、「winipcfg.exe」(☞3-5章)を使ってIPアドレスを取り直すが、パソコンを再起動してください。また、手動でパソコンにIPアドレスを割り当てている場合は、パソコンのネットワーク部のIPアドレスを本製品と同じに変更してください。

【IPアドレスの割り当てかた】

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.0.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.0.」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。

「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。

さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。

以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。

- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾および「255」)を割り当てない

5 WWWブラウザで設定する

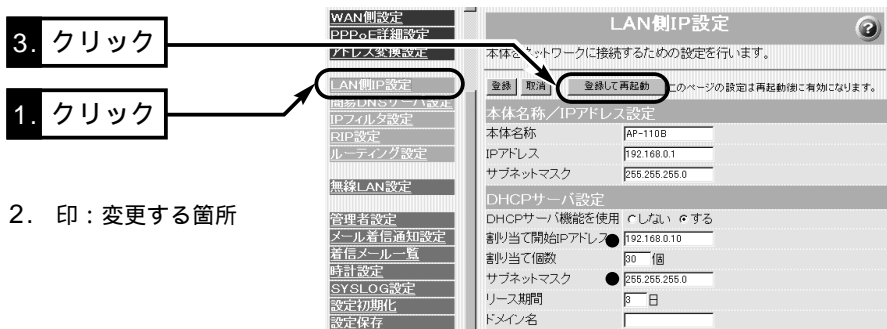
5-9 自動割り当て開始IPアドレスを変更するには

本製品のDHCPサーバ機能を使うときなど、本製品のIPアドレスの「ネットワーク部」を変更しているときは、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。

ここでは、自動割り当て開始IPアドレスを変更する手順について説明します。

変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[LAN側IP設定]をクリックします。
 - 「LAN側IP設定」画面を表示します。
- 3.[自動割り当て開始IPアドレス]を変更して、登録して再起動 をクリックします。
自動割り当て開始IPアドレスは、本製品のIPアドレスのネットワーク部と同じになるように設定してください。
 - 設定した内容が有効になります。



2. 印 : 変更する箇所

【DHCPサーバ機能について】

本製品のDHCPサーバ機能を有効(出荷時の設定)すると、パソコンが本製品に接続したときに、本製品からIPアドレスを自動的に取得することができます。

本製品を既存のLANにつなぐ場合、本製品が自動で割り当てるIPアドレスの範囲が、既存のネットワーク機器(パソコンなど)の固定で割り当てたIPアドレスと重複しないように設定してください。

【自動割り当て個数について】

本製品が自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、5～128個(無線LANを含む)までです。

出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大254個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

この章では、

本製品に登録した[PPPoE]方式対応のプロバイダーへ自動または手動で接続する方法について説明します。

[DHCP]方式対応のプロバイダーへの接続は、WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力すると接続されます。

6-1.インターネット接続を開始する	76
手動で接続する	76
自動で接続する	77
意図しない自動接続が発生する原因について	77
6-2.インターネット接続を終了する	78
自動で切断する	78
手動で切断する	79

6 インターネットにつなぐ

6-1 インターネット接続を開始する

本製品は、ネットワーク内の情報を監視して、インターネットへのアクセス要求があると自動的に接続する機能を備えています。

出荷時の状態から[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われます。なお、[自動接続]の設定は、[PPPoE]方式で接続するプロバイダーに対して有効です。

【△注意】

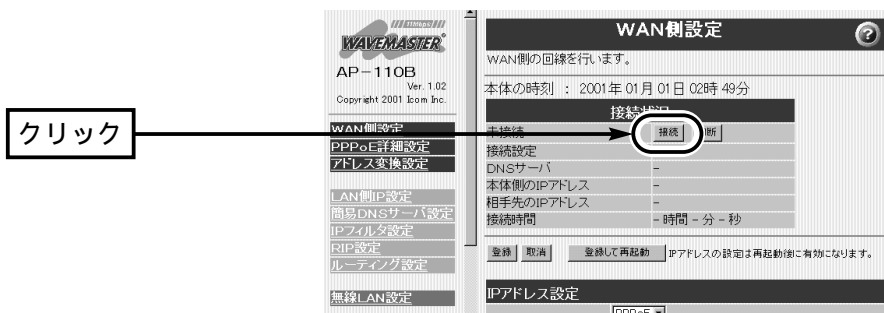
[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となるおそれがありますのでご注意ください。

手動で接続する

[自動接続]の設定が「しない」(出荷時の設定)のときは、次の手順で接続を行います。

接続のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.「接続状況」画面に表示された **接続** をクリックします。
 - 前面パネルの[WAN]ランプが点灯して、各項目にそのときの状態が表示されます。



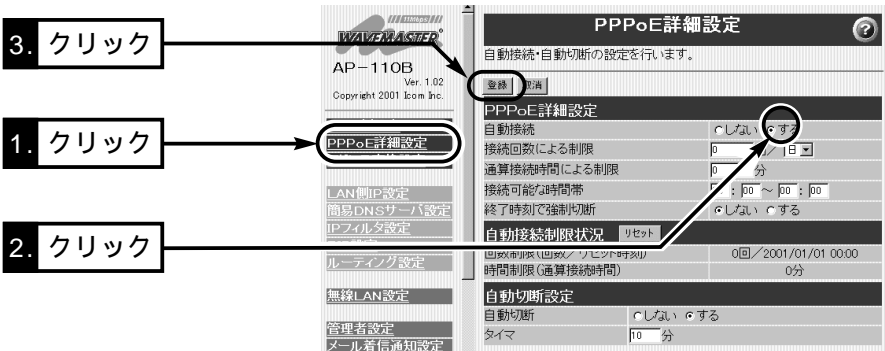
- 3.WWWブラウザを起動して、お好きなURLをアドレスバーに入力します。
 - 通信中は、手順2.で点灯しているランプが点滅に替わります。
- 4.アドレスバーに入力したURLのホームページが表示されたことを確認します。
 - 手順3.で点滅しているランプが点灯に替わります。

自動で接続する

次の手順で[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われますので、接続の操作は必要ありません。

[自動接続]設定を「する」に変更するには
変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[PPPoE詳細設定]をクリックします。
 - 「PPPoE詳細設定」画面を表示します。
- 3.[自動接続]欄の「する」のラジオボタンをクリックして、登録 をクリックします。



意図しない接続が発生する原因について

設定やシステムを変更したときは、知らないうちに自動発信を繰り返すことがあります。次のような場合は、注意してください。

プロバイダーから配布されたPPPoE接続ソフトウェアの自動接続機能が有効になっているとき

本機のプロバイダー-接続設定を変更したとき

無線LANの設定を変更したとき

ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき

インストールしているソフトウェアに自動アップデートの機能が設定されているとき

メールソフトに自動送受信の機能が設定されているとき

メールソフトに新着メールを定期的にチェックするように設定しているとき

ホームページ上にバナー広告が表示されているとき

6 インターネットにつなぐ

6-2 インターネット接続を終了する

本製品は、ネットワーク内からインターネットへ接続されているとき、新たにアクセス要求をしない状態が続くと、自動的に切断する機能を備えています。

出荷時の状態では、タイマーの設定値(出荷時の設定：10分)にしたがって自動切断が行われます。

【△注意】

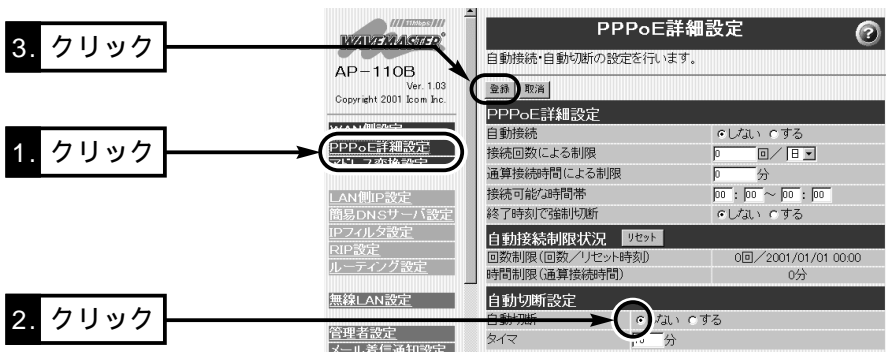
[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となるおそれがありますのでご注意ください。

自動で切断する

[自動切断]の設定が「する」(出荷時の設定)のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が10分(タイマ：出荷時の状態)以上続くと、自動的に切断しますので、切断の操作は必要ありません。

[自動切断]設定を「しない」に変更するには
変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[PPPoE詳細設定]をクリックします。
 - 「PPPoE詳細設定」画面を表示します。
- 3.[自動切断]欄の「しない」のラジオボタンをクリックして、登録 をクリックします。



手動で切断する

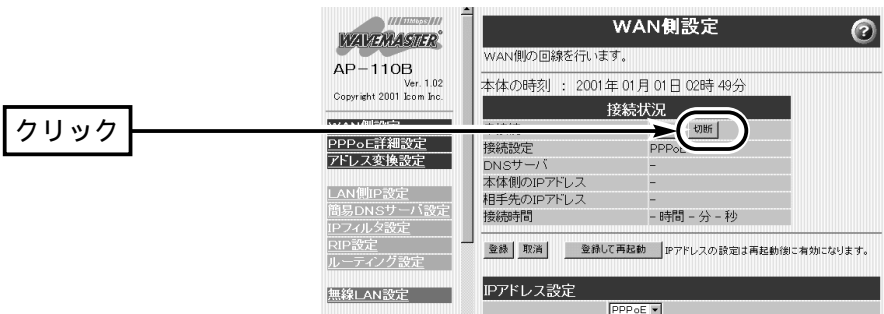
[自動切断]の設定が「しない」のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が続いても、切断操作が行われるまで自動的に回線を切断しません。

出荷時設定では、[自動切断]が「する」に設定変更されていますので、「[自動切断]設定を「しない」に変更するには」の手順で設定を変更してください。

回線を切断するときは、次の手順で行います。

切断のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. 「接続状況」画面に表示された 切断 をクリックします。
 - 前面パネルの[WAN]ランプが消灯して、各項目にそのときの状態が表示されます。



この章では、

PC/AT互換機で無線LANを構築する際に知っておいていただきたい機能について説明します。また、そのLANを構築する際の手順についても説明しています。

7-1. アクセスポイント機能を使う	82
7-2. ローミング機能を使う	83
設定時のご注意	83

7 無線LANを構築する

7-1 アクセスポイント機能を使う

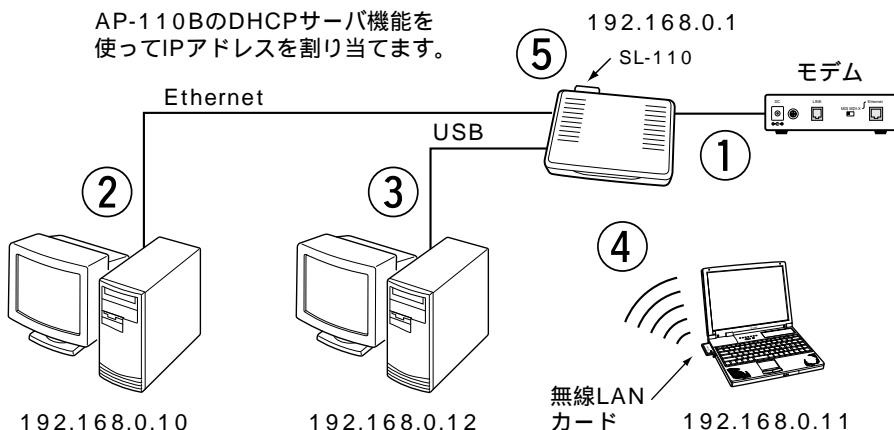
本製品に内蔵の無線アクセスポイントを使うことによって、本製品を経由して無線LAN どちらのデータをやりとりしたり、本製品の[ETHERNET]や[USB]ポートと既存の有線LANをEthernetケーブルでつなぐことによって、無線LANと有線LANのデータを自由にやりとりしたり、無線端末を使って、回線に接続された本製品を中継してインターネットに接続できます。

本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。

同時に使える無線端末の数は、最大64台までですが、10台以下とすることをお勧めします。

本製品に装着する無線LANカードは、付属の製品またはその製品と同じものをご使用ください。

[WEP]機能を使って本製品と無線通信を行うには、弊社製の無線LANカード(SL-1100、SL-1105、SL-11、SL-110)をパソコン側に装着してください。



図に示す番号は、LANを構築するときの手順です。

本書の該当する部分をご覧になりながら、順番に設定をしてください。

Step ① 2-1章：[WAN]ポートへのモデム接続、2-6章：既存のLANに接続する前に

Step ② 2-2章：[LAN]ポートへのパソコン接続、3-1章：Ethernetで接続する

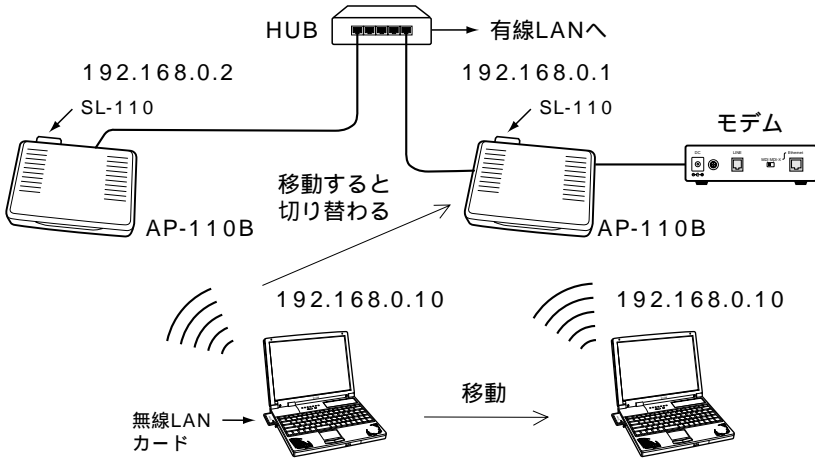
Step ③ 2-3章：[USB]ポートへのパソコン接続、3-3章：USBで接続する

Step ④ 3-2章：無線LANで接続する、5-4章：無線LANを設定する

Step ⑤ 5章：簡単設定ソフトで設定する、6章：WWWブラウザで設定する

7-2 ローミング機能を使う

本製品を2台以上用意して、それぞれを有線LANに接続することにより、無線端末を移動させても、自動的に電波の状況のよいアクセスポイント(本製品)に切り替えることによって、無線伝送エリアが広がり、工場や倉庫のように広い場所で移動しながら無線LANが利用できるようになります。



設定時のご注意

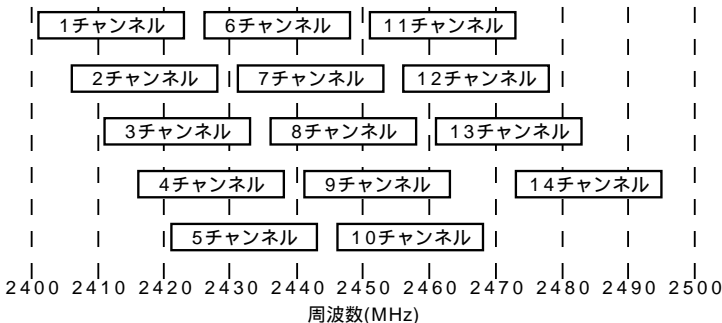
IPアドレスの重複を回避するため、回線と接続された本製品以外のネットワーク機器は、DHCPサーバ機能を無効にしてください。

ローミングエリア内で通信を行うすべての無線端末は、[ESS ID]、[WEP]の設定をすべて同じにしてください。設定が異なると通信できません。

電波干渉を避けるため、「チャンネル」を変更するときは、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定してください。

それ以下のときは、図に示すように帯域の一部が重複するため混信する可能性があります。

例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。



この章では、

本製品の設定画面への接続制限、設定内容保存、設定内容初期化、ファームウェアの更新、ソフトウェアのアンインストール、本体MACアドレスの確認を行う手順について説明しています。必要なときにお読みください。

8-1.付属のCD-ROMについて	86
Auto Run機能について	86
対応OSについて	86
内容について	86
8-2.ユーティリティーのインストール	87
8-3.アンインストールについて	89
8-4.設定画面へのアクセスを制限するには	90
8-5.設定内容の確認または保存	91
8-6.保存された設定の書き込み	92
8-7.設定を出荷時の状態に戻す	93
A)ディップスイッチを使う	93
B)設定画面を使う	95
C)Utilityを使う	96
8-8.本製品をバージョンアップする	97
ファームウェアについて	97
バージョンアップのしかた	99
8-9.本体MACアドレスの確認方法	100
8-10.故障のときは	100

8 保守について

8-1 付属のCD-ROMについて

本製品のCD-ROMは、PC/AT互換機でご使用になれます。

本製品のCD-ROMの内容とその概要やインストールについて説明しています。

Auto Run機能について

本製品のCD-ROMは、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にソフトウェアを準備するためのメニュー画面を表示するようになっています。

対応OSについて

本製品のCD-ROMに収められたソフトウェアは、以下のOSでご使用ください。

Windows98、Windows98SE、Windows2000、WindowsMe

PDF形式の補足説明書は、Macintoshでもご利用になれます。

内容について

- 取扱説明書(本書：PDF形式)

- 補足説明書(PDF形式)

本製品に付属のソフト(IP Name)と本製品の設定項目について説明しています。

- Acrobat Reader(Windows用)

CD-ROMに収められたPDF形式のファイルを開覧するためのソフトウェアです。(インストーラに表示される画面にしたがってインストールしてください。)

- 簡単設定ソフト(Windows用)

WWWブラウザを使わないで、PPPoEまたはDHCPクライアントに対応するプロバイダーへの回線接続設定がウィザード形式で行えるソフトウェアです。

- IP Name(Windows用)

本製品の簡易DNSサーバ機能を使う際、ホスト名からIPアドレスを検索したり、その逆引きができるソフトです。

- AP-110B Utility(Windows用)

本製品のバージョンアップや全設定内容の初期化を行うソフトです。

8-2 ユーティリティのインストール

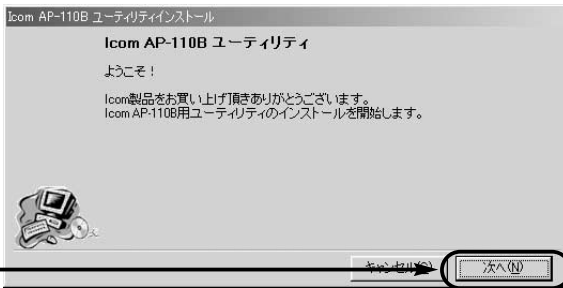
本製品のCD-ROMに収められているソフトウェアのインストールのしかたについて説明します。

手順にしたがって操作すると、次の3つのソフトウェアが一度にインストールされます。

- 簡単設定ソフト
- AP-110B Utility
- IP-Name

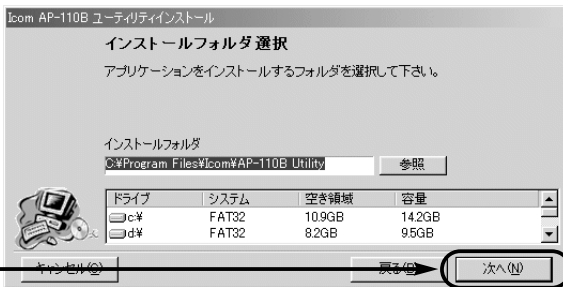
【インストールの手順】

1. 起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2. 本製品のCD-ROMを、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入します。
 - CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
3. ユーティリティ インストール をクリックします。
4. 次へ(N) をクリックします。



5. このユーティリティのインストール先のフォルダーを指定して、次へ(N) をクリックします。

表示されているインストール先を変更したいときだけ、参照 をクリックして変更先のフォルダーを指定します。



【Auto Run機能が動作しないときは？】

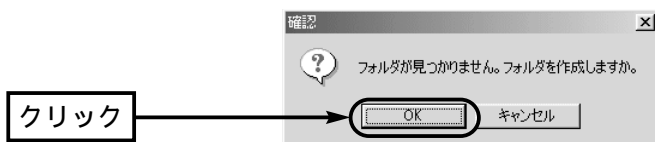
OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

8 保守について

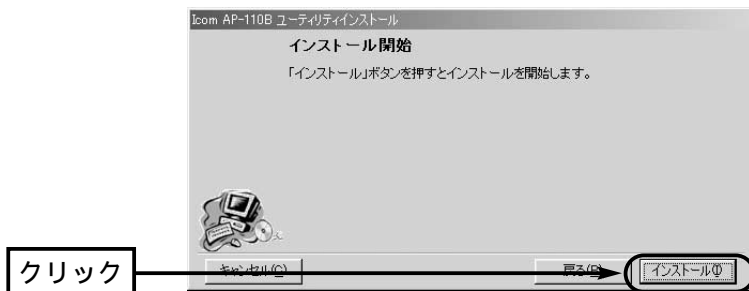
8-2 ユーティリティーのインストール

【インストールの手順】(つづき)

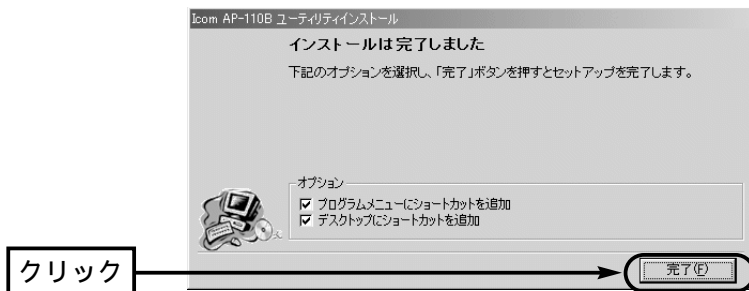
6. OK をクリックします。



7. インストール(I) をクリックします。



8. 完了(E) をクリックして、インストールが完了です。



8-3 アンインストールについて

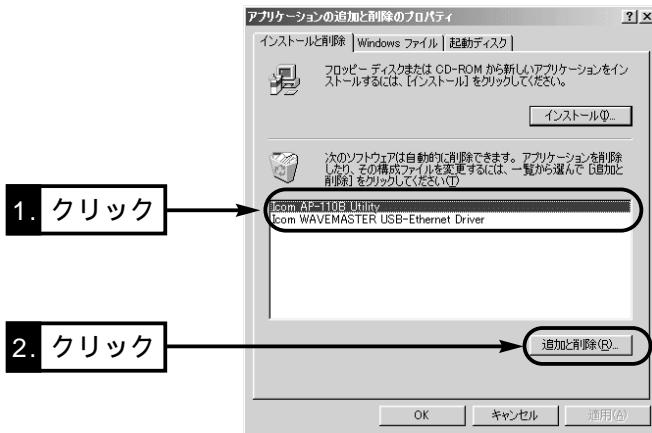
本製品のCD-ROMに収められているソフトウェア(ユーティリティー、USBドライバー)のアンインストールのしかたについて、Windows98を例に説明します。

LPR Portソフトウェアは、「プリンターを使うには(LPR Portのインストール)」(☞3-6章)で表示される画面から行えます。

そのほかのOSをご使用の場合は、この手順を参考に、そのOSでアンインストールするときの手順にしたがってください。

【アンインストールの手順】

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [アプリケーションの追加と削除]の順番に操作します。
2. 「Icom AP-110B Utility」 追加と削除(R)... の順番にクリックします。
USBドライバーの場合は、「Icom WAVEMASTER USB-Ethernet Driver」を選択します。



3. アンインストール(U) をクリックして、そのあと表示する画面にしたがいます。

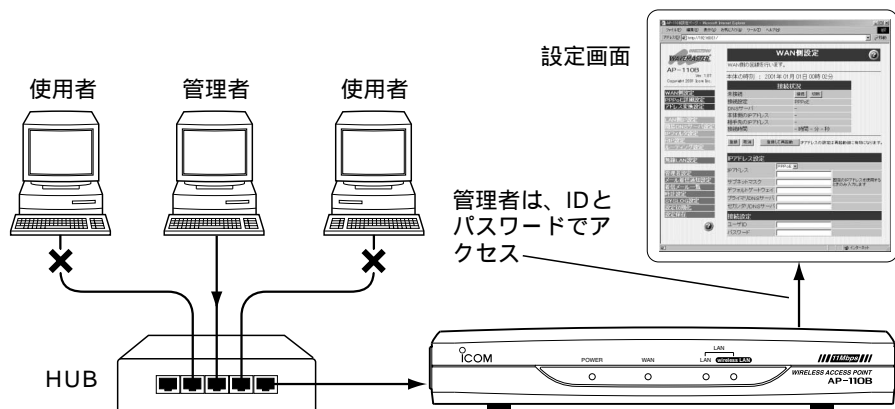


8 保守について

8-4 設定画面へのアクセスを制限するには

管理者用の[管理者ID]と[管理者パスワード]を設定することで、管理者以外がWWWブラウザで本製品の設定画面を変更できないようにします。

[管理者ID]と[管理者パスワード]が設定されていると、アクセスのとき[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]の入力を求める画面が表示されるようになります。



設定のしかた

大文字/小文字の区別に注意して入力してください。

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(※5-2章)します。

- 「WAN側設定」画面を表示します。

2. メニューから[管理者設定]をクリックします。

- 「管理者設定」画面を表示します。

3. 管理者IDを[管理者ID]欄に、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。

(入力例: user)

4. 管理者パスワードを[管理者パスワード]欄と[パスワードの確認入力]欄に、任意の英数字[半角31(全角15)文字以内]で入力します。入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。(入力例: userpass 表示例: *****)

5. 登録 をクリックすると、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をを求める画面が表示されますので、ここで設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力します。



8-5 設定内容の確認または保存

本製品の各設定画面ごとに設定されている内容を確認したり、ハイパーテキスト(HTML)形式のファイルに保存できます。

設定を保存しておく、と、不用意な事故によって設定内容が失われたときに利用できます。

確認と保存のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。

- 「WAN側設定」画面を表示します。

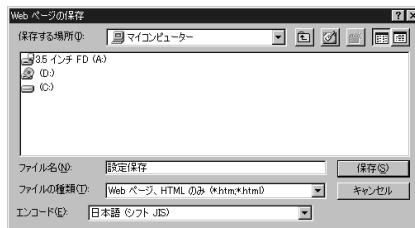
2. メニューから[設定保存]をクリックします。

- 「設定保存」画面に、設定されている内容の一覧が表示されます。

テキストボックス内の内容は、直接削ったり書き替えたりしないでください。



3. 「設定保存」画面が表示された状態で、WWWブラウザの「ファイル(E)」メニューから、[名前を付けて保存(A)]をクリックします。



4. [保存する場所(I)]を指定して、任意の名前を[ファイル名(N)]ボックスに入力します。

「Netscape Navigator」の場合、拡張子を[.htm]が[.html]に変更してください。

5. [ファイルの種類(I)]は、「Web ページ、完全 (*.htm, *.html)」を選択します。

(Internet Explorer)

保存ファイルの漢字コードを選択できる場合は、JISを選択して保存してください。

6. 保存(S) をクリックすると、指定した場所に設定ファイルが保存されます。

「設定保存」画面でのパスワード表示

「設定保存」画面内に表示される、相手先パスワード、着信パスワード、管理者パスワード、キージェネレータ(暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化して表示しますので、保存した設定ファイルよりパスワードが外部に漏れることはありません。

8 保守について

8-6 保存された設定の書き込み

8-5章で保存した設定ファイルを本製品の設定画面に書き込む手順を説明します。

書き込みのしかた

1. 本製品に接続したパソコンから、保存された「htm」の拡張子がついた設定ファイルの上にカーソルを移動して、ダブルクリックします。

- 「設定保存」画面を表示します。

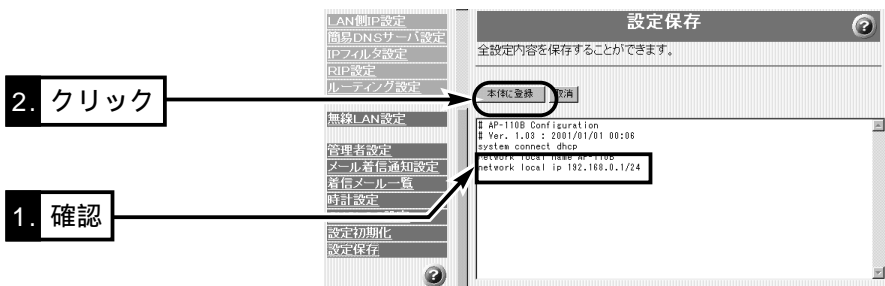


AP-110B設定
ページ.htm

2. テキストボックス内で、本製品のIPアドレスを確認します。

表示されているIPアドレスが、設定されている本製品のIPアドレスと異なるときは、設定ファイル内の本製品のIPアドレスを、現在設定されている本製品のIPアドレスに変更してください。なお、それ以外の項目は変更しないでください。

3. 本体に登録 をクリックします。



4. 本体に登録 をクリックすると、設定ファイルの内容が本製品に書き込まれます。設定を書き込んだあと続いて設定を行うときは、設定書き込みのために開いた画面を使用すると誤動作の原因になります。新たに起動したWWWブラウザから、設定画面にアクセスをやり直すようにしてください。

【△注意】

本製品で作成した設定ファイルを同じ機種どうしや本製品以外の機種に書き込まないでください。

8-7 設定を出荷時の状態に戻す

ネットワーク構成を変更するときなど、本製品の設定をはじめからやりなおしたり、既存の設定データをすべて消去したいなど、そのときの状況に応じて次の3とおりの方法で設定内容を出荷時の状態に戻す(初期化する)ことができます。

- A) ディップスイッチを使う
- B) 設定画面を使う(☞P95)
- C) Utilityを使う(☞P96)

Utilityで出荷時の状態に戻すには、付属のCD-ROMからUtilityをインストールする必要があります。

インストールのしかたについては、「ユーティリティーのインストール」(☞8-2)をご覧ください。

A) ディップスイッチを使う

この方法で初期化を実行すると、すべての設定項目が出荷時の状態になります。

本製品に設定されたIPアドレスが不明なときなど、本製品の設定画面が呼び出せないときに、次の手順で初期化が行えます。

初期化のしかた

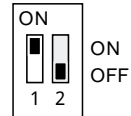
- 1.本製品に接続するDCコネクタを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続するすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.本製品の底面パネルにある2番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
- 4.DCコネクタを本製品につないで、電源を入れます。

- 「設定初期化」モードに移行して動作を開始します。

「設定初期化」モードで動作中は、前面パネルの[POWER]と[WAN]ランプが同時に点滅を繰り返します。(同時に点滅を繰り返すまでしばらくおまちください。)

移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか RESET ボタン(☞1-4章)を押してください。

- 5.パソコンを本製品に有線または無線で接続して、OSを起動します。
- 6.「WWWブラウザ」を起動して、本製品の出荷時のIPアドレス(192.168.0.1)を指定します。(無線での接続は、ESS IDの設定を「LG(出荷時の設定)」にしてください。)



【初期化用ディップスイッチ(2番)の機能】

「OFF」に切り替えると、「設定初期化」モードに移行して、実際に初期化操作(上記手順7.以降の操作)が行われるまで、一時的に本製品のIPアドレスやESS IDを出荷時の設定に置き換えます。初期化操作をしないで、スイッチを戻すと、元の状態に戻ります。

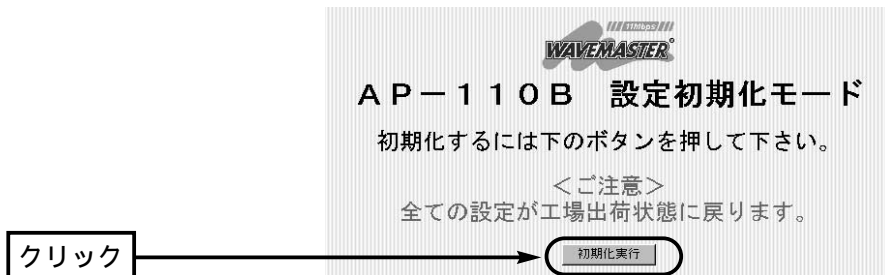
8 保守について

8-7 設定を出荷時の状態に戻す

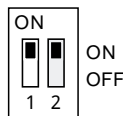
A) ディップスイッチを使う

初期化のしかた (つづき)

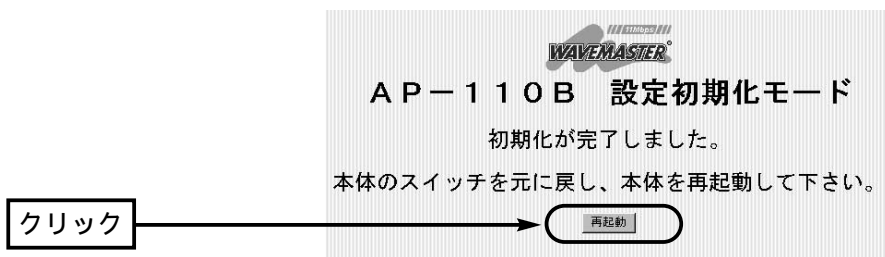
7. [設定初期化モード]画面が表示されたら、初期化実行 をクリックします。



8. 本製品の電源が入った状態で、底面パネルにある2番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻します。



9. 再起動 をクリックします。



10. 本製品のランプが「設定初期化」モードに以降する前の状態に戻って、[WAN側設定]画面を表示したら、初期化が完了です。

- 再起動中は、次の画面を表示します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

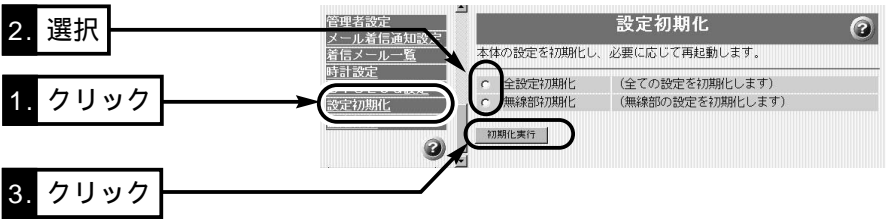
8-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

B) 設定画面を使う

本製品に設定されたIPアドレスがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面を使って初期化を実行すると、全設定または無線部、というように範囲を選んで初期化できます。

初期化のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. メニューから[設定初期化]をクリックします。
 - [設定初期化]画面を表示します。
3. 初期化したい条件に該当するラジオボタンをクリックします。
4. 初期化実行 をクリックします。
 - 選択した条件に該当する内容を出荷時の状態に戻して、[WAN側設定]画面に戻ります。



初期化範囲について

全設定初期化

本製品に設定されたすべての内容を出荷時の設定に戻します。

無線部初期化

「無線LAN設定」画面の項目を出荷時の状態に戻します。

8 保守について

8-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

c) Utilityを使う

Utilityは、本製品のCD-ROMに収められています。

ここでは、Utilityを使って初期化する手順について説明しています。

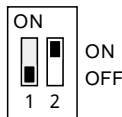
インストールのしかたについては、「ユーティリティのインストール」(⇒8-2)をご覧ください。

Utilityを使う前に

Utilityを使って本製品の設定を出荷時の状態に戻すには、「Utility使用」モードに切り替えてください。切り替えないときは、Utilityを使って初期化できません。また、あらかじめ本製品にアクセスして、使用するパソコンにIPアドレスを割り当てておいてください。

切り替えかた

- 1.本製品に接続するDCコネクターを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続するすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.本製品の底面パネルにある1番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
- 4.DCコネクターを本製品につないで、電源を入れます。



- 「Utility使用」モードに移行して動作を開始します。

「Utility使用」モードで動作中は、前面パネルの[POWER]と[WAN]ランプが交互に点滅を繰り返します。(交互に点滅を繰り返すまでしばらくおまちください。)

移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか RESET ボタン(⇒1-2章)を押してください。

初期化のしかた

- 1.本製品が「Utility使用」モードで動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に有線または無線で接続して、OSを起動します。

- 2.「AP-110B Utility」を起動します。

マウスを スタート [プログラム(P)] [Icom AP-110B] [ファーム更新ユーティリティ]の順番に操作します。

- Utilityの操作画面を表示します。(次ページの画面参照)

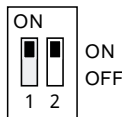
- 3.[ユーザーデータの初期化]のラジオボタンをクリックします。

[AP-110BのIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。

実行 をクリックします。

(次ページの画面参照)

- 4.「ユーザーデータの初期化が完了しました」というメッセージが「AP-110B Utility」の画面に表示されたら、本製品の底面パネルにある1番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻して、本製品の電源を入れなおすと完了です。



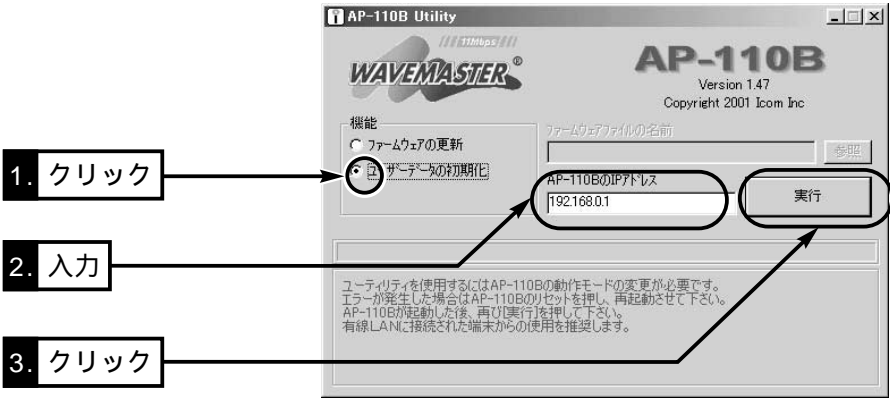
【Utility用ディップスイッチ(1番)の機能】

「OFF」に切り替えると、「Utility使用」モードに移行して、実際にUtilityで操作が行われるまで、一時的に本製品の無線LANセキュリティ(WEF機能)の設定を無効に変更します。

無線端末でUtilityを使うとき、WEF機能をパソコン側に設定しているときは、「無効」してください。

㉔ Utilityを使う

初期化のしかた (手順3.の操作)



【△注意】

Utility実行中は、Utilityを終了したり、本製品の電源を切ったりしないでください。途中で作業を中断すると、データの消失や誤動作の原因になりますのでご注意ください。画面に「.....が完了しました」と表示されるまでお待ちください。

8-8 本製品をバージョンアップする

付属のCD-ROMに収められているUtilityを使用します。

ここでは、Utilityを使ってバージョンアップ(ファームウェアを更新)する手順について説明しています。インストールのしかたについては、「ユーティリティのインストール」(8-2)をご覧ください。

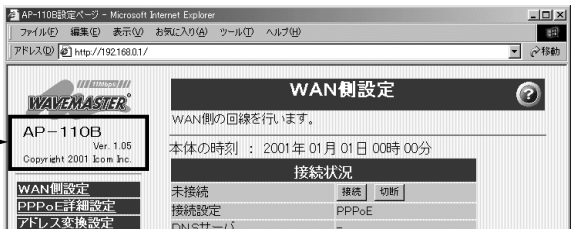
ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。バージョンアップの作業を行う前に、本製品の設定画面にアクセスして、次のフレーム内に表示するバージョン情報を確認してください。

バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態に保つことができます。

バージョン情報



8 保守について

8-8 本製品をバージョンアップする

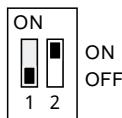
ファームウェアについて(つづき)

Utilityを使う前に

Utilityを使って本製品のファームウェアを更新するには、「Utility使用」モードに切り替えてください。切り替えないときは、Utilityを使って更新できません。また、あらかじめ本製品にアクセスして、使用するパソコンにIPアドレスを割り当てておいてください。

切り替えかた

- 1.本製品に接続するDCコネクタを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続するすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.本製品の底面パネルにある1番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
- 4.DCコネクタを本製品につないで、電源を入れます。



- 「Utility使用」モードに移行して動作を開始します。

「Utility使用」モードで動作中は、前面パネルの[POWER]と[WAN]ランプが交互に点滅を繰り返します。(交互に点滅を繰り返すまでしばらくおまちください。)

移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか RESET ボタン(⇒1-2章)を押してください。

更新操作についてのご注意

ファームウェア転送時のエラー防止のため、Utilityがインストールされたパソコン(有線または無線で本製品に接続できること)を本製品と1対1で接続してください。

本製品とパソコンをEthernetで接続できる環境がある場合は、できるだけEthernetで接続することをおすすめします。

- 無線で接続する場合は以下のことを守ってください。

パソコン側の無線LANセキュリティー(WEP機能)を「無効」に設定してください。

EthernetケーブルやUSBケーブルを本製品に接続しているときは、取り外してください。

本製品との無線通信距離は、1m以内にしてください。

記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますので、次のことを守って作業を始めてください。

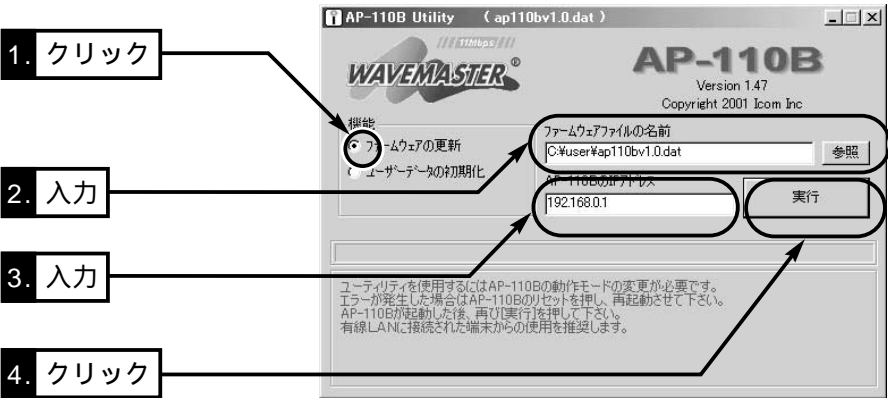
本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

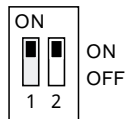
8-8 本製品をバージョンアップする(つづき)

バージョンアップのしかた

1. 本製品が「Utility使用」モードで動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に有線または無線で接続して、OSを起動します。
2. 「AP-110B Utility」を起動します。
マウスを スタート [プログラム(P)] [Icom AP-110B] [ファーム更新ユーティリティ]の順番に操作します。
● Utilityの操作画面を表示します。 (画面参照)
3. [ファームウェアの更新]のラジオボタンをクリックします。
ダウンロードした本製品の新しい設定ファイル(拡張子: dat)へのリンク先を[ファームウェアファイルの名前]のテキストボックスに直接入力するか、参照 をクリックして選択します。
[AP-110BのIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。
実行 をクリックします。 (画面参照)



4. 「ファームウェアの更新が完了しました」というメッセージが「AP-110B Utility」の画面に表示されたら、本製品の底面パネルにある1番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻して、電源を入れなおすと完了です。



【更新にかかる時間について】

ファームウェアのデータファイルを本製品に転送して再起動にかかるまでの時間の目安です。

- 転送 = 30～60秒
- 再起動 = 30秒

8 保守について

8-9 本体MACアドレスの確認方法

ご契約のプロバイダーにMACアドレスの申請および登録が必要な場合(☞1-9章)など、次の手順を参考に本製品のMACアドレスを確認してください。

確認のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[無線LAN設定]をクリックします。
 - [無線LAN設定]画面を表示します。



8-10 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

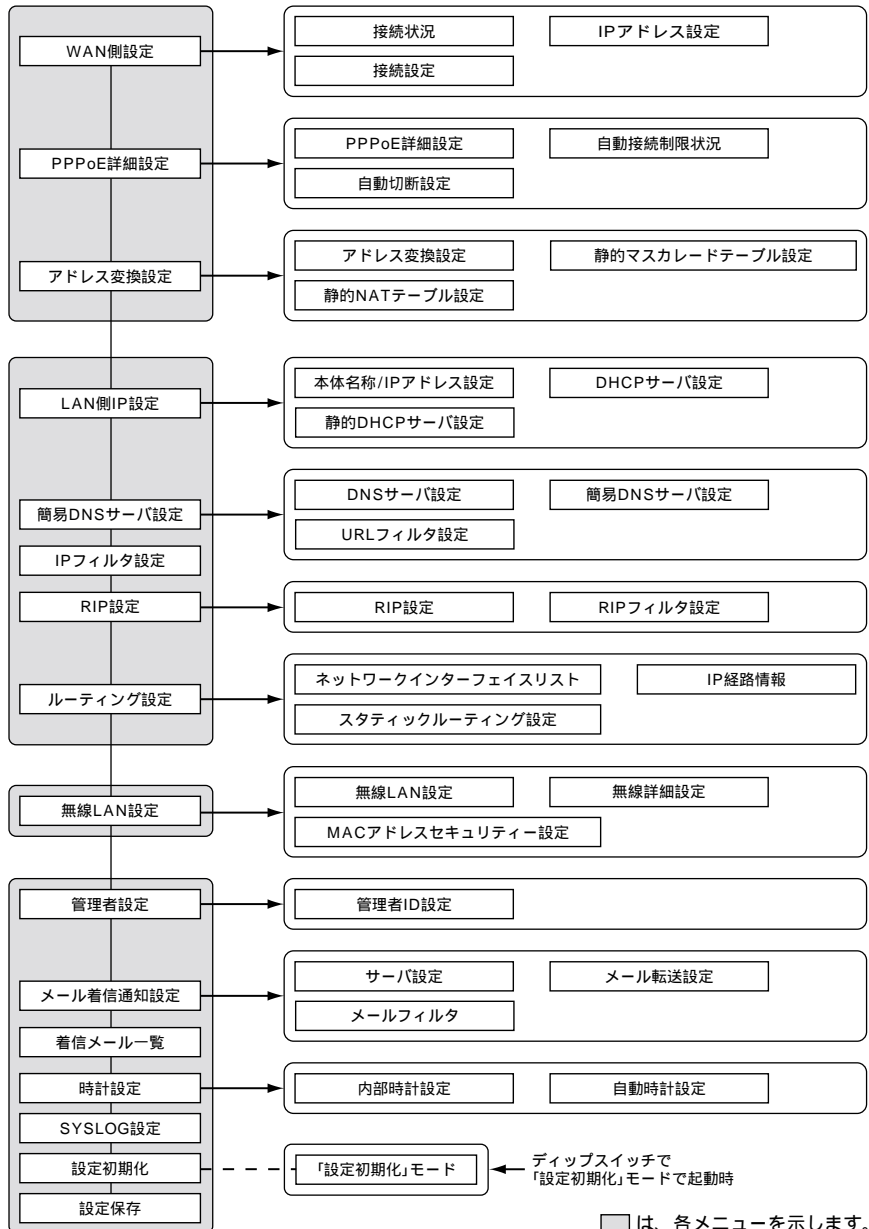
この章では、
設定画面の構成、設定項目の初期値、定格について説明しています。

9-1.設定画面の構成について	102
9-2.設定項目の初期値一覧	103
9-3.機能一覧	104
9-4.各種ポート仕様	104
9-5.定格	105
9-6.用語解説	107

9 ご参考に

9-1 設定画面の構成について

WWWブラウザに表示される本製品の設定画面の構成について説明しています。
各画面の詳しい説明については、WWWブラウザ上の ? をクリックしてください。



9-2 設定項目の初期値一覧

本製品のWWWブラウザの設定画面について、設定項目の初期値を示します。

[WAN側設定]メニュー

IPアドレス設定

- IPアドレス：PPPoE

[PPPoE詳細設定]メニュー

PPPoE詳細設定

- 自動接続：しない
- 接続回数による制限：0回/日
- 通算接続時間による制限：0分
- 接続可能な時間帯：00：00～00：00
- 終了時刻で強制切断：しない

自動切断設定

- 自動切断：する
- タイマ：10分

[アドレス変換設定]メニュー

アドレス変換設定

- アドレス変換：する

[LAN側IP設定]メニュー

本体名称/IPアドレス設定

- 本体名称：AP-110
- IPアドレス：192.168.0.1
- サブネットマスク：255.255.255.0

DHCPサーバ設定

- DHCPサーバ機能を使用：する
- 割り当て開始IPアドレス：192.168.0.10
- 割り当て個数：30個
- サブネットマスク：255.255.255.0
- リース期間：3日

[簡易DNSサーバ設定]メニュー

DNSサーバ設定

- DNSサーバの代理応答：する

[IPフィルタ設定]メニュー

- 61番(本体への不正パケット防止)
- 62番(プライベートIPアドレスへの不正パケット防止)
- 63、64番(Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止)

[RIP設定]メニュー

RIP設定

- LAN側にRIPを使用：する
- WAN側にRIPを使用：しない

[無線LAN設定]メニュー

無線LAN設定

- ESS ID：* *(半角大文字LG)
- ESS IDの確認入力：* *(半角大文字LG)

無線詳細設定

- チャンネル：14
- ダイバシティアンテナを使用：する
- Rts/Ctsスレッシュホールド：無し
- セキュリティレベル：なし
- MACアドレスセキュリティ設定
- MACアドレスセキュリティーを使用：しない

[メール着信通知設定]メニュー

サーバ設定

- メール着信通知機能を使用：しない
- 確認時刻(時：分)/間隔(分)：00：00
- メール転送設定
- メール転送機能を使用：しない

[時計設定]メニュー

自動時計設定

- 自動時計設定を使用：する
- NTPサーバ1 IPアドレス：133.100.9.2
- アクセス時間間隔：1日

[SYSLOG設定]メニュー

SYSLOG設定

- DEBUGを使用：する
- INFOを使用：する
- NOTICEを使用：しない
- ファシリティ：1

9 ご参考に

9-3 機能一覧

無線LAN機能

- アクセスポイント機能
- ローミング機能
- MACアドレスセキュリティー
- WEP(Wired Equivalent Privacy)
- ESS ID(Extended Service Set Identifier)

ルータ機能

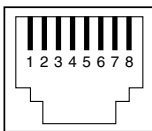
- 自動接続/自動切断機能(PPPoE方式)
- 各種接続制限機能
- PPPoE、DHCP接続方式に対応
- ルーティングプロトコル
TCP/IP(RIP スタティック)
- セレクトルーティング機能
- スタティックルーティング機能
- IPフィルタ機能
- RIP機能
- 静的IPマスカレード
- NAT/IPマスカレード
- DNS代理応答機能
- DHCPクライアント機能(WAN側)
- DHCPサーバ機能(LAN側)
- DHCPスタティック機能
- 簡易DNSサーバ機能
- SYSLOG
- メール着信通知機能
- 内部時計自動設定

その他

- WWWメンテナンス
- ファームウェアの更新
- TELNETメンテナンス
- プリンターサーバ機能

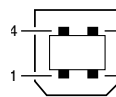
9-4 各種ポート仕様

[LAN/WAN]ポート(RJ-45型)



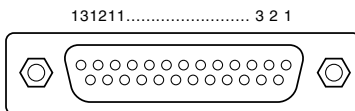
- 1.送信(+)
- 2.送信(-)
- 3.受信(+)
- 4.未使用
- 5.未使用
- 6.受信(-)
- 7.未使用
- 8.未使用

[USB]ポート(B-TYPE)



- 1.VCC
- 2. - Data
- 3. + Data
- 4.Ground

[PRINTER]ポート(D-Sub25)



- 1.データ取り込み同期信号
- 2.送信データ・ビット0
- 3.送信データ・ビット1
- 4.送信データ・ビット2
- 5.送信データ・ビット3
- 6.送信データ・ビット4
- 7.送信データ・ビット5
- 8.送信データ・ビット6
- 9.送信データ・ビット7
- 10.データ取り込み完了
- 11.プリンターが受信不能
- 12.ペーパー・エンド
- 13.プリンターの選択状態
- 14.印刷後自動改行
- 15.プリンター・エラー
- 16.プリンター初期化
- 17.プリンター選択
- 18.~25.Ground

9-5 定格

一般仕様

- 入 力 電 圧 : DC7.5V標準(DC7.125 ~ 7.875V)
ACアダプター(付属品)は、AC100V ± 5%
- 消 費 電 流 : 1.2A(最大)
- 接 地 方 式 : マイナス接地
- 使 用 環 境 : 温度0 ~ + 40 °C、湿度5 ~ 95%(結露状態を除く)
- 外 形 寸 法 : 230.0(W) × 38.0(H) × 167.0(D)mm(突起物を除く)
- 重 量 : 約0.7kg(付属品を除く)
- 適 合 規 格 : クラスA情報技術装置(VCCI) JATE
- 電 取 認 可 番 号 : ◻ 91-55188[ACアダプター(付属品)]

有線部

- WANインターフェイス : [WAN]部 : [Ethernet]ポート(RJ-45型) × 1
IEEE802.3/10BASE-T準拠
IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
- LANインターフェイス : [LAN]部 : [Ethernet]ポート(RJ-45型) × 1
極性反転スイッチ有り
IEEE802.3/10BASE-T準拠
IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
[USB]部 : [USB]ポート(アップストリーム型) × 1
[無線LAN]部 : 弊社無線LANカードをPCMCIAスロ
ットに装着
PCMCIAスロット(3.3V仕様対応)
PCMCIA(TYPE)準拠
- アナログインターフェイス : [パラレル]ポート(D-Sub25pin) × 1
- ユーザインターフェイス : 状態表示ランプ(POWER、WAN、LAN、Wireless-
LAN)、スイッチ(HUB/PC、Utility使用、設定初期化)、
RESETボタン
- 適 用 回 線 : CATV、xDSL、ローカル
- 通 信 速 度 : [WAN]部 : 10/100Mbps(自動切り替え/全二重)
[LAN]部 : 10/100Mbps(自動切り替え/半二重)
[USB]部 : 12Mbps(最大)
[無線LAN]部 : 1 ~ 11Mbps

定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

9 ご参考に

9-5 定格(つづき)

分離式アンテナ(別売品 : AH-110/無線LANカード用)

- アンテナ形式 : 1/2波長ダイポールアンテナ
- アンテナ利得 : 1dBi
- インピーダンス : 50
- 定在波比 : 1.5以下
- コネクタ形状 : RP-R/A MMCX型
- 外形寸法 : 10×73mm
- 重量 : 約20g/1本(同軸ケーブルを含む)
- ケーブル長 : 1m

対応無線LANカードについて

本製品に装着する無線通信LANカードは、必ず本製品に付属のもの(SL-110)、またはSL-110(別売品)をご使用ください。

本製品と無線で通信を行うパソコンの無線LAN製品は、弊社指定のもの(SL-1100、SL-1105、SL-11、SU-11、SL-110)をご使用ください。(2001年8月現在)

定格・仕様・外觀等は改良のため予告なく変更する場合があります。

伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

9-6 用語解説

ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line)

加入者電話回線を使って数Mbps～数十Mbpsのデジタル伝送を行う通信方式です。

基本的に常時接続で、データの送信と受信で通信速度が違い受信側が高速となっている。

ADSLでは従来の音声通話とは違った周波数を用いるため電話局の交換機を使用できず、電話局側にもADSLモデムを設置する必要がある。

ADSLモデム

パソコンやルータをADSL回線に接続するために使用する通信機器。本機とはEthernetケーブルで接続します。

CATV(Cable Television)

電波ではなく銅線などの物理的な線を使用したテレビ放送を家庭に配信する仕組み。

電波よりもチャンネル数が多いため、通常のテレビ放送以外にCATV会社が番組を独自に配信したり、衛星放送を配信していることもある。

この放送用のチャンネルを使用してインターネット接続サービスを行うCATVの会社があり、このサービスをCATVインターネットサービスという。

DHCPサーバ

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。

DHCPサーバは、ネットワーク情報として、“IPアドレス”、“デフォルトゲートウェイ”、“ドメイン名”などを管理しています。

DHCPサーバ機能を持つ本製品は、DHCPクライアント(パソコン)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイ、DNSアドレスなどを割り振ります。

DMZ(De-Militarized Zone)

プライベートネットワーク内で、ファイアウォールで外部ネットワークからも内部ネットワークからも隔離された領域。

DNS(Domain Name System)

TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことで。

DNSにしたがって、ドメインネームサーバにコンピューター名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。

ドメインネームサービスを利用すると、IPアドレスなどの数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で、目的のサイトを指定できます。

ESS-ID(Extended Service Set-Identifier)

無線LANで、複数のネットワークグループを通信可能なエリア内に形成するときの識別用の名前です。本製品と通信する無線ネットワークグループは、無線端末を本製品と同じ識別名に設定します。

ETHERNET

ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T、100BASE-TX、10BASE-5、10BASE-2などのタイプがあります。

FTP(File Transfer Protocol)

ネットワーク上のクライアントとホストコンピューターとの間で、ファイルの転送を行なうためのプロトコルです。

HTML(Hyper Text Markup Language)

WWWサーバでのドキュメントを記述するための言語で、通常文書の中にタグを埋め込んでいく方式で作成されます。

WWWページを記述する言語として利用されています。

HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)

HTMLの転送に使うプロトコルです。WWWブラウザでURLを入力すると、HTTPを使ってWWWサーバからパソコンのWWWブラウザへHTML文書が転送されます。転送された文書は、WWWブラウザによって解釈して画面に表示されます。

HUB

ハブを参照

Internet Explorer

WindowsやMac OSに標準で付属しているブラウザソフトのことです。

9 ご参考に

9-6 用語解説(つづき)

IP

インターネットで使われるプロトコルです。IPを中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルがあり、下位には通信回線寄りのプロトコルが積層されることでインターネットを形成しています。

IP Masquerade

LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに、[複数：1]で変換する機能です。

IP(Internet Protocol)アドレス

TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。

通常は、8ビットずつ4つに区切って、10進数の数字列で表されます。(例：192.168.0.1) また、プライベートIPアドレスは、ネットワークの管理者が独自に設定するIPアドレスです。アドレス管理機関やプロバイダーに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則したがって割り振らなければなりません。

外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。

次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。

クラスA：10.0.0.0～10.255.255.225

クラスB：172.16.0.0～172.31.255.225

クラスC：192.168.0.0～

192.168.255.225

IPCP(Internet Protocol Control Protocol)

PPPはLCP(Link Control Protocol)とNCP(Network Control Protocol)の二つの部分から構成されています。NCPはLCPに続くデータ通信の次段階(IPなど)の準備を行います。

IPのためのNCPがIPCPです。PPPのNCPフェーズにおいて、IP(Internet Protocol)のリンクを確立するためのプロトコルです。

ISP(Internet Service Provider)

プロバイダーを参照

LAN(Local Area Network)

同一フロアや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことです。

MACアドレス

(Media Access Control Address)

個々の有線または無線LANカードに設定されている物理アドレスです。

このアドレスは、LANカードの製造メーカーが世界中で重複しない独自の番号で管理しています。Ethernetや無線LANカードでは、このアドレスを元にしてフレームの送受信をしています。

NAT(Network Address Translator)

LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに1対1で変換する機能です。

PPP(Point to Point Protocol)

WANにおいて端末が1対1で通信を行うためのプロトコルです。

PPPoE(PPP over Ethernet)

PPPフレームを直接Ethernet上にマッピングして転送するプロトコルです。

RIP(Routing Information Protocol)

ルータ間で、経路情報を交換するTCP/IPネットワークで使用されるプロトコルです。

この情報をもとに、ルータはパケットを正しい相手に送出します。

SYSLOG

システムメッセージをネットワーク上に出力する機能です。

この機能に対応していると、UNIXなどのSYSLOGサーバによって、ログ情報を管理できます。

TCP/IP

Windows 98、Windows 2000など、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。

SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。

Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

TELNET

ほかのパソコンを遠隔操作するためのプロトコルです。本製品もTELNETにより遠隔操作が行えます。

URL(Uniform Resource Locator)

インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。

弊社URLは、<http://www.icom.co.jp/>です。

USB(Universal Serial Bus)

高速シリアルインターフェイスです。

ホットプラグに対応していますので、パソコンを使用中の接続や取り外しができます。

転送速度は、最大12Mbit/sをサポートしています。

WAN(Wide Area Network)

LANどうしを一般電話回線、ADSL、CATVなどで結ぶことのできる比較的大規模なネットワークです。

WEP(Wired Equivalent Privacy)

無線LANの通信を暗号化して送受信する機能です。

無線LAN通信の盗聴を防止できます。

本製品は、64/128ビット暗号化に対応しています。

WWWブラウザ

WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバを検索に使うアプリケーションです。

アプリケーションには、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」があります。

10BASE-T

Ethernetの規格の1つで、ツイストペアケーブルを用いた、10Mbit/sの速度をもつものです。本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

100BASE-TX

Ethernetの規格の1つで、カテゴリ5のツイストペアケーブルを用いた100Mbit/sの速度をもつものです。

本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

アクセスポイント

プロバイダー経由でインターネットを利用するとき、その拠点の総称です。

イーサネット

ETHERNETを参照

インターネット

世界中のパソコンをIPを使って接続したネットワークの総称です。

クライアント

ネットワークにおいて、サーバに対し情報の提供などのサービスを要求し、その返答を受ける端末またはアプリケーションの総称です。

グローバルIPアドレス

インターネット上のどの機器とも重複するものがない世界で唯一のアドレスです。

サブネットマスク

1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。

あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

ドメイン名

IPアドレスの状態では人間には理解しにくいので、IPアドレスの所属グループをドメインとしてドメイン名が割り当てられます。

例)icom@bbb.co.jpという電子メールアドレスの場合、bbb.co.jpがドメイン名です。

トラフィック

ネットワーク上のパケットの流れやネットワークの回線にかかる負荷(データ量)のことです。

トラフィックが大きくなると、データ転送の遅れやデータ欠落が起こる可能性があります。

認証

インターネットなどを利用して、ネットワークにアクセスしてくるユーザーが、パスワードとユーザーIDを入力して、アクセスの権利があるかどうかを確認することです。

ネットワーク

データなどを転送するために、サーバ、ワークステーション、パソコンなどの機器が、ケーブルやADSL回線を介して、通信網と接続された状態をいいます。

9 ご参考に

9-6 用語解説(つづき)

バケット

データが送受信される際の単位です。送受信に必要な情報を持つヘッダ部と、送りたいデータそのものであるデータ部から構成されています。

パスワード

ネットワークセキュリティ上、ユーザーがネットワークにアクセスするために入力する鍵となる文字列で、パスワードを設定すると、ユーザーがあらかじめ設定された文字列を正しく入力したとき、アクセスが可能になります。

ハブ(HUB)

本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要になる装置です。

10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルを使って本製品と接続します。

100Mbpsで通信をするときは、カテゴリ5のツイストペアケーブルを使用すると同時に、HUBも100BASE-TXに対応している必要があります。

フラッシュメモリー

本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。ここに貯えられた情報は電源を切っても消えずに保存されます。

ブラウザ

WWWサーバからHTML文書を手して、表示する機能を持ったアプリケーションです。

本製品では、代表的なInternet Explorerを使って説明しています。

プロトコル

通信で、データの送受信を行うときにしたがうべき手順を定義したものの。

ブロードキャスト

同一ネットワーク内のすべてのハードウェアへバケットを一斉に送信(同報通信)することです。

プロバイダー

インターネットサービスプロバイダー(ISP)の略で、インターネットへの接続サービスを提供する業者のことです。

ポート番号

TCPやUDPでアプリケーションを識別するための番号です。例えば、WWWは、TCPの80番、メールは、TCPの25番というように決められています。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211